

＜健康食品等に関する記事情報 (日本語サイトより) 統合版＞

2025 年前半 (1 月号 No.1～6 月号 No.2)

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する記事情報 (日本語サイトより)」の 2025 年 1 月から 6 月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問合せ：学術情報部 E-mail : gakuj@jhnfa.org

健康食品等に関する 記事情報 (日本語サイトより) 2025 年 1 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報 (記事見出し、出典・日付、URL)、冒頭文または記事のポイントとなる部分 (民間の情報源には了承を得た上で転載) を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性 (多少の思い入れ) に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

「Toyota Woven City」で「健康寿命の延伸」という新たな食の可能性に挑戦

～ 「最適化栄養食」を継続的に食べた人の変化を捉え、有効性の実証を実施 ～

日清食品株式会社 - 2025/1/7 <https://www.nissin.com/jp/news/13097>

日清食品株式会社（代表取締役社長:安藤 徳隆、以下 日清食品）は、静岡県裾野市で開発中の「Toyota Woven City」において、トヨタ自動車株式会社（代表取締役社長:佐藤 恒治、以下 トヨタ）、ウーブン・バイ・トヨタ株式会社（代表取締役社長:隈部 肇、以下 WhyT）が有するヒト・モノ・情報・エネルギーといったあらゆるモビリティの活用を見据え、利用者がいつでもどこでも「最適化栄養食」を食べることができる環境を構築するとともに、「最適化栄養食」を継続的に食べている人の心身や行動などの変化を主観と客観双方の観点から確認し、その有効性を実証していき----

カルビーの“じゃがいもを使いつくす”新工場が稼働へ、自動化も加速

MONOist - 2025/1/8 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2501/08/news093.html>

-----「人と地球の笑顔をつくりだす、未来を形にする工場」をコンセプトとしており、再生可能エネルギーや循環型エネルギーシステムの導入により、廃熱や排水、廃棄物を有効活用し、環境負荷を低減。温室効果ガス総排出量 50%減、廃棄物排出量 50%減、水の総使用量 30%減（広島西工場 2019 年 3 月期実績との比較）の達成を目指----

■ 安全性関連情報

「「錠剤、カプセル剤等食品の原材料の安全性に関する自主点検及び製品設計に関する指針（ガイドライン）」及び「錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理（GMP）に関する指針（ガイドライン）」について」の一部改正について

消費者庁 - 2024/12/27

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/health_food/assets/cms_standards107_241227_01.pdf

「「錠剤、カプセル剤等食品の原材料の安全性に関する自主点検及び製品設計に関する指針（ガイドライン）」及び「錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理（GMP）に関する指針（ガイドライン）」について」の一部を改正する件（案）に関する意見募集の結果について

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110009&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110009&Mode=1)

食品安全情報（化学物質） No. 1/ 2025（2025. 01. 08）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202501c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【COT】 英国毒性委員会

1. ターメリックおよびクルクミンサプリメントのヒトの健康に対するリスクの可能性に関する声明

【VKM】 ノルウェー食品環境科学委員会

1. ヘスペリジンに健康リスクはない

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA が「ヘルシー（Healthy）」の強調表示を更新し、消費者に新たな手段を提供する
5. 証言：FDA が米国における糖尿病と肥満の流行を減らし、食品飲料業界の強欲に立ち向かうためにしていること

【USDA】 米国農務省

1. 食事ガイドライン助言委員会の 2025 年版科学的報告がオンラインで入手可能に

食品安全情報（化学物質） No. 26/ 2024（2024. 12. 25）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202426c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【EC】 欧州委員会

1. 欧州委員会、食品接触物質におけるビスフェノール A の使用禁止を採択

【EFSA】 欧州食品安全機関

1. 食品に含まれる複雑な有機ヒ素化合物のリスク評価

【FSA】 英国食品基準庁

3. 新規食品代替タンパク質中のアレルゲン検出方法のレビュー

【COT】 英国毒性委員会

1. 緑茶カテキン類の肝毒性に関する声明

【RIVM】 オランダ国立公衆衛生環境研究所

1. N-アセチルシステイン（NAC）含有フードサプリメントのリスク評価

【FDA】 米国食品医薬品局

3. FDA が有毒なキバナキョウチクトウで代用された特定のサプリメントについて警告する (2024 年 1 月)

4. FDA はゲノム編集を用いて生産された植物由来食品に関する自主的な市販前報告に関するガイダンスを発表する

■ 海外公的機関情報

食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報は、2025 年 1 月 14 日時点ではありませんでした。

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

2024 年度上半期の審査状況

上位は医薬部外品、健康食品、オンラインゲームなど ダークパターン や不当な No.1 表示も

日本広告審査機構（JARO） - 2025/1/7 <https://www.jaro.or.jp/news/20250107.html>

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品表示法に基づく食品表示基準の一部改正に係る消費者委員会への諮問について

消費者庁 - 2025/12/25 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/040562/>

- (1) 栄養強化目的で使用した食品添加物に係る表示免除規定の削除
- (2) 栄養素等表示基準値等の改正
- (3) 個別品目ごとの表示ルールの見直し

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

【新年特別号】健食市場、5%減の1兆2,500億円に

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20235

2024年の健康食品市場は本紙の推計で前年比4.7%減の1兆2,529億円に減少した。アガリクスショック等によって史上初の市場縮小となった06年の5.8%減に次ぐマイナス幅。過去最高の市場規模となった23年から一転、コロナ前の水準に逆戻りした。紅麴問題を受けた通販定期顧客の離脱に加えて、景気の悪化、様々な物価の上昇に伴う節約志向などが影響した。先行きの不透明感が強まる中、チャネル動向には変化が生じている。05年に5,700億円で市場全体の44%を占め圧倒的なシェアトップだった訪販・MLMは、24年は3,000億円を割り、チャネル別で3位に順位を下げた。代わって2位に浮上したのが、若者にも支持され、インバウンド需要もあったDgSだ。ただ、その薬系店舗も紅麴問題の影響は免れておらず、後半は失速して-----

【健食受託加工・製造】人気受注素材、トップは乳酸菌

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20193

「経営良好」の企業が半減する結果となった今回の健康食品受託企業調査。増収企業の割合は前年並みだったが、コスト増による利益の圧迫が経営に響いた。人手不足の割合は8割で高止まりしており、少子高齢化という社会要因で、抜本的な対策が見いだせない状況が続く。紅麴問題は依然尾を引いているが、当初に比べて影響が薄れつつある。「稼働は100%」という企業もある中、25年上期は6社が新工場建設を計画している。25年に増収を見込む企業は55.5%で、「24年が底」として、反転攻勢に向けて前を向く企業も少なくない。-----

【ミネラル】「プロテイン」「完全栄養食」などで引き合い

健康メディア.com - 2025/1/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20231

食事摂取基準改定、高まるカルシウム摂取の重要性 鉄は耐容削除も 「プロテイン」「完全栄養食」などで引き合い

「日本人の食事摂取基準」が5年ぶりに改訂された。ミネラルでは鉄の耐容上限量を削除したほか、カルシウム摂取の重要性などを説いている。ミネラル素材は、美容プロテインや小中学生向けプロテイン、完全栄養食、介護食、シリアルへの配合が進むほか、大豆ミートのマスキング用途での活用も。原料サプライヤーは、「におい・苦み低減」「小ロット」などの訴求ポイントを打ち出し、差別化できる商品開発を後押し-----

【ヒアルロン酸】海外ニーズ引き続き高まる

海外ニーズ引き続き高まる 国内需要も増加傾向に、素材価値に再評価

アフターコロナに入り美容食品の商品開発に対する機運が高まるここ数年、ヒアルロン酸への引き合いが強くなっている。特にニーズが強いのが海外だ。米国や東南アジアでヒアルロン酸を活用した商品が増加している。ヒアルロン酸人気の一番の要因は高い保湿力にある。近年世界的にトレンドになっているコラーゲンと組み合わせたサプリメントをはじめ、パウダー品に配合してプレミアム感を出す設計など、新たな需要も登場しているという。一方国内でも、こうした海外ニーズの影響を受けてか需要が増加傾向に。機能性表示食品では、同成分を関与成分とした受理品が 95 品と 100 品目前となった。他の保湿成分に水をあけられていた感が強かったが、確かな作用と素材の品質が再評価されて-----

【クマ笹】サプリ、一般食、ペット向けで活用広がる

免疫賦活、口腔ケア、腸内環境改善など サプリ、一般食、ペット向けで活用広がる
クマ笹は、高齢者層を中心としたヘビーユーザーによるリピート率の高さから、調剤薬局をはじめ、通販、催事などで安定した市場を形成している。免疫賦活をはじめ、殺菌、抗炎症、抗ストレス、オーラルケアなど広範にわたるエビデンスを背景に新たな採用が増えており、便秘改善を訴求した機能性表示食品や、クマ笹由来の乳酸菌など差別化に寄与する提案も好評だ。飼料を含む動物向けなどで新たな展開も。国産伝統素材としてインバウンドを含む国内需要が旺盛な中、昨年は、120 年に一度といわれる開花が話題となり、十分な原料確保への懸念が発生していることから、今後、原料の希少性が一段と増して-----

【注目のダイエット食品】「腸活×ダイエット」ニーズ増

“腸活×ダイエット”にニーズ増 機能性表示食品は、ヘルスクレームが多彩に

ダイエット向けのサプリメントは機能性表示食品が定着している。機能性関与成分は種類が増え、「お腹まわり」「ウエスト」「体重」「脂肪」「BMI」「血糖値」など、使用できる文言も多彩に。最近では、「脂肪の燃焼を高める」サプリメントや飲料などの流通も始まっている。市場全体では、“健康美”“引き締めボディ”を望むユーザーが多く、プロテイン商品や、置き換え食品に対する支持が高い。また年々、「腸」への関心が高まり、“腸活×ダイエット”へのニーズが増して-----

【サケ由来機能性素材】核酸・PG・プラセンタがけん引

プロテオグリカン（PG）からコラーゲン、核酸、DHA、プラセンタなど、1匹の個体から様々な成分が利用できるサケ。サケ由来の機能性素材は、健康食品から化粧品まで利用される不動の人気素材となっている。販売ルートも多岐に亘り、ドラッグストアや通販の定番製品から、MLMなどのクローズドマーケットのメインアイテムまで、幅広いルートで展開されている。日本の伝統食材としてはもちろん、未利用資源活用や機能性の面で海外でも日本発・サケ由来機能性素材の利用が進んで-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

疲労研究の第一人者と老化研究者が参画「疲労と老化の密接な関係」に着目したプロジェクトがスタート

健康メディア.com - 2025/1/8 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20287

現代人の約8割が慢性的な疲れを感じているとされ、いまや重要な健康課題となっている疲労。現在その対策として医学的にも統合的な研究が行われるなか、疲労対策と老化対策に着目した「抗疲労∞抗老化」啓発プロジェクトが発足した。設立したのは（一社）ウェルネス総合研究所（東京都渋谷区）。発足に伴い昨年12月12日に都内で発足セミナーを開催---

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

ドールの「もったいない」がビジネスになった

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」 - 2024/12/23
<https://www.alterna.co.jp/141000/> （無断転載を禁じます）

1. 青果大手のドールはフードロス対策の一環で「もったいないバナナプロジェクト」を進める
2. 同プロジェクトは、帝国ホテルやスターバックスなど、異業種コラボを続々と生み出す
3. ドールのアジア事業を手がける伊藤忠商事出身の青木寛社長に話を聞いた

■ 消費者意識等の調査・分析

[31704] グルテンフリーに関するアンケート調査（第2回）

【雪印メグミルク「子どもの間食」に関する調査を実施】 5 割以上の働くママが「平日の帰宅後、子どもが晩ごはんを待てない」問題を経験！

～料理研究家のあまこ ようこ氏監修、『お助けおやつ 3 か条』を制定～

雪印メグミルク株式会社 - 2025/1/10

<https://www.meg-snow.com/news/2025/25185/>

雪印メグミルク株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：佐藤 雅俊）は、子どもがいる働く女性 1,035 名を対象に調査を行い、晩ごはん前の子どもの間食習慣に悩みや問題を感じている働くママが多いことがわかりました。

今回の調査で明らかになった、働くママが抱える悩みを解決するために、料理研究家のあまこ ようこ氏の監修のもと、『お助けおやつ 3 か条』を制定いたしました。

■あまこ ようこ氏監修 『お助けおやつ 3 か条』

「お助けおやつ」とは晩ごはん前など食事の合間に小腹を満たすのを助けてくれるおやつのこと

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

フレイル状態の高齢者に特徴的な血中代謝物をメタボロミクス分析で特定一都長寿研

QLifePro 医療ニュース - 2025/1/8

<https://www.qlifepro.com/news/20250108/metabolites-frailty.html>

▼関連リンク・東京都健康長寿医療センター研究所 プレスリリース・研究成果

<https://www.tmgig.jp/research/release/2024/1226.html>

約半数の 65 歳以上高齢者が関連するフレイル、その代謝学的基盤の多くは未解明

東京都健康長寿医療センター研究所は 12 月 26 日、ガスクロマトグラフィー質量分析（GC-MS）を用いたメタボロミクス分析により、高齢者のフレイルと関連する血清代謝物を特定したと発表した。この研究は、同研究所の志田隆史研究員らの研究グループによるもの。研究成果は、「Biogerontology」にオンライン掲載されて----

黄えんどう豆パスタを食べると、老化や生活習慣病につながる酸化ストレスを改善できることが明らかに ～ヒトを対象とした臨床研究で初めて実証～

株式会社 Mizkan Holdings - 2025/1/7

https://www.mizkan.co.jp/file.jsp?id=2021_Renewal/files/pdf/company/newsrelease/detail/newsrelease-250107-80.pdf

株式会社 ZENB JAPAN（ゼンブ ジャパン）（愛知県半田市、以下 ZENB）および株式会社 Mizkan Holdings 中央研究所（愛知県半田市、以下ミツカン中央研究所）は、同志社大学生命医科学部の米井嘉一教授による監修のもと、黄えんどう豆をうす皮までまるごと使ったパスタ（Yellow Pea Pasta: YPP、以下「黄えんどう豆パスタ」）の摂取がヒトの酸化ストレスを改善することを臨床試験で初めて明らかにしました。酸化ストレスとは、活性酸素による細胞ダメージのことで、健康や老化、生活習慣病などに深く関わる重要な要因とされています。本研究の結果、「黄えんどう豆パスタ」を 1 日 1 食摂取することで酸化ストレスが有意に改善されることが確認され、健康維持をサポートする機能性主食としての可能性が示され-----

ミトコンドリアにある酵素が減少すると肌のダメージ修復が阻害される

MONOist - 2024/12/26 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2412/26/news032.html>

大正製薬は 2024 年 12 月 5 日、ミトコンドリアに存在する酵素「Mitochondrial Ubiquitin Ligase（マイトリガーゼ）」の減少により、酸化ストレスを受けた後の肌のダメージ修復が阻害されることを発見したと発表し-----

資生堂、世界初、光学リアルタイム解析法 FLIM の応用で、シミがシミを呼ぶ特有の細胞老化現象を解明

～ “シミの一生” に着目し、独自のトリプル薬剤を開発、2024 年 IFSCC 最優秀賞受賞～

株式会社資生堂 - 2025/1/8

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003932>

資生堂は、シミ研究の常識を覆すような革新的なアプローチで、シミの悪化メカニズムを解明しました。生きたヒトの皮ふをリアルタイムで観察することができる FLIM を用いて、シミ部位の細胞代謝を評価する新手法を世界で初めて確立し、これまで観察が難しかった、シミがどのように悪化していくかという「シミの一生」を時間軸で捉えることに成功しました。本手法を活用することで、シミ部位で起こる細胞老化現象がシミの悪化根源であることを解明し、シミの悪化に対応する独自のトリプル薬剤を開発しま-----

老化細胞除去は可能な時代に。血管老化から考える「病的老化」と食への期待

ウェルネス総研レポート online－2025/1/10 <https://wellnesslab-report.jp/3561/>

老化やその速度に関する研究に対して多くの注目が集まる昨今、加齢によって蓄積した老化細胞を除去する治療薬と、その作用機序が明らかになってきました。「人は血管から老いる」とも言われるなかで、血管老化は細胞の老化や個体の老化形質、さらには PoA（ペース・オブ・エイジング、老化する速度）に対し、どのように影響するのでしょうか？老化細胞除去に着目した新たな抗老化治療法の研究開発に取り組む、順天堂大学大学院 循環器内科教授 南野 徹 先生に伺いま-----

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2024 年 12 月 25 日～2025 年 1 月 14 日掲載分から選定したものです。

高血圧患者に対する強力な減塩指導の有効性を検証 タイで行われたク ラスタ―無作為化比較試験

<https://sndj-web.jp/news/003121.php> (2024/12/26)

高血圧患者の塩分摂取量を減らすため、塩分計による食事中の塩分濃度の自己モニタリングを含む、強力な食事指導介入によって、ナトリウム摂取量が減り収縮期血圧に有意差が生じたとする研究データが、タイから報告され-----

HMB の安全性、効果、栄養面などについて、国際スポーツ栄養学会 (ISSN) が 12 項目の見解を公表

<https://sndj-web.jp/news/003124.php> (2024/12/30)

国際スポーツ栄養学会 (International Society of Sports Nutrition ; ISSN) はこのほど、 β -ヒドロキシ- β -メチル酪酸 (β -hydroxy- β -methylbutyrate ; HMB) に関する見解 (position stand) をまとめ、同学会発行の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に発表-----

タンパク質の摂取によりアスリートのパフォーマンスは向上するのか？ メタ解析では「やや意外？」な結果に

<https://sndj-web.jp/news/003134.php> (2025/1/10)

アスリートの多くが、筋肉量・筋力アップのために積極的にタンパク質食品を摂取する傾向があるが、そのことは果たして、スポーツパフォーマンスの向上に結び付いているのだろうか？ このような素朴で基本的な疑問の答えを、システムティックレビューとメタ解析で検討した結果が報告された。中国の研究者による-----

ウコンや鶏肉エキスなどの多成分サプリが、ラグビー試合後の筋肉損傷マーカーを抑制

<https://sndj-web.jp/news/003133.php> (2025/1/11)

ウコン、鶏肉やりんごのエキス、古代泥炭などからなる多成分サプリメントが、ラグビーの試合により生じる筋損傷を抑制することを示唆するデータが報告された。対プラセボでCKやLDHというマーカーに有意差が認められたという。台湾からの-----

クレアチンサプリに関する一般的な質問と誤解 Part2 国際スポーツ栄養学会がQ&Aを発表

<https://sndj-web.jp/news/003135.php> (2025/1/14)

国際スポーツ栄養学会の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に、「クレアチンサプリメントに関する一般的な質問と誤解 (Common questions and misconceptions about creatine supplementation: what does the scientific evidence really show?)」というタイトルのレビュー論文が掲載された。同名のタイトルの論文が2021年にも掲載されており、今回の論文はその「Part II」に-----

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025年1月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質）No.02 (2025.01.22)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202502c.pdf>

別添 <https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202502ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【EC】 欧州委員会

1. 欧州委員会、食品接触物質及び成形品中のビスフェノール A(BPA)、その他のビスフェノール類及びビスフェノール誘導体の使用に関する欧州委員会規則(EU) 2024/3190 を官報で公表

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA は食品及び内服薬における Red No. 3（赤色 3 号）の使用許可を取り消す
2. FDA は PFAS に関連する 35 件の食品接触物質通知の認可はもはや有効ではないと決定した
4. FDA は赤ちゃん及び小さい子供向け加工食品の鉛の基準値に関する事業者向け最終ガイダンスを公表する
6. FDA はアレルゲン、食品安全及び植物性代替食品の表示に関するガイダンスを公表する

【EPA】 米国環境保護庁

2. EPA は水域の PFAS レベルに関する健康影響に基づく勧告案を発表
3. EPA は 9 種類の PFAS を有害化学物質排出目録に追加登録
4. EPA、フタル酸ジイソデシル (DIDP) の TSCA リスク評価を最終決定
5. EPA は、DCHP の TSCA リスク評価案、フタル酸エステルの累積リスク分析案、DIBP、DBP、DEHP、BBP のハザード技術支援文書案を発表

【CFIA】 カナダ食品検査庁

1. 選択された食品中のフラン、2-メチルフラン及び 3-メチルフラン（2021 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日）

■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年 1 月 17 日

前号の食品安全情報（化学物質） No.01 (2025.01.08)と一部重複があります。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

18. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の複雑な有機ヒ素化合物のリスク評価に関する科学的意見書の平易な言葉による要約を公表](#)
19. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の複雑な有機ヒ素化合物のリスク評価に関する科学的意見書を公表](#)
20. [英国毒性委員会\(COT\)、ターメリック及びクルクミン含有サプリメントがヒトの健康に及ぼす潜在的リスクに関する声明を公表](#)
43. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、香料グループ評価 420\(FGE. 420\)\(ヘスペレチンジヒドロカルコンの評価\)に関する科学的意見書を公表](#)
44. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中にショウガサプリメントを使用することの安全性に関する第3次声明草案を公表 \(前半 1/2\)](#)
45. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中にショウガサプリメントを使用することの安全性に関する第3次声明草案を公表 \(後半 2/2\)](#)
53. [英国毒性委員会\(COT\)、母体の食事におけるエキナセアの潜在的健康影響に関するディスカッション・ペーパーを公表 \(前半 1/2\)](#)
54. [英国毒性委員会\(COT\)、母体の食事におけるエキナセアの潜在的健康影響に関するディスカッション・ペーパーを公表 \(後半 2/2\)](#)
56. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品および飼料中の化学物質のリスク評価に関する国際的な取り組みを公表](#)
58. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中に摂取されるカルシジオールサプリメントの影響に関するディスカッションペーパーを公表 \(前半 1/2\)](#)
59. [英国毒性委員会\(COT\)、妊娠中に摂取されるカルシジオールサプリメントの影響に関するディスカッションペーパーを公表 \(後半 2/2\)](#)
62. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024 年 12 月 2 日~12 月 13 日\)](#)
63. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ブラックベリー及びラズベリー中のヘキシチアゾクスに対するインポートトレランスの設定に関する理由を付した意見書を公表](#)
90. [英国毒性委員会\(COT\)、緑茶カテキンの肝毒性に関する声明を公表](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）（器具・容器包装における安全性審査の導入及び第一種特定化学物質の取扱い関係）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/1/20

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&Mode=0&id=235110012](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&Mode=0&id=235110012)

「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（添加物（シクロデキストリン等 3 品目）に係る規格基準の設定及び改正）に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/1/23

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110005&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110005&Mode=1)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、健康訴求・健康維持に配慮した 飲料・アルコール飲料の市場調査、2025 年のウエルネス飲料市場は 1 兆 7460 億円に

マイライフニュース - 2025/1/14 <https://www.mylifenews.net/drink-food/75918/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、物価上昇やライフスタイルの変化とともにニーズが変わりつつあるウエルネス飲料・ウエルネスアルコール飲料の市場を調査した。その結果を「需要拡大が見込まれるウエルネス飲料・アルコール総市場調査 2024～2025」にまとめた。その結果、2025 年の国内市場予測（2023 年比）では、ウエルネス飲料が 1 兆 7460 億円（105.3%）ウエルネスアルコール飲料が 6431 億円（101.3%）に達すると予測する。実感を得やすい明確な訴求ポイントを持つ商品は引き続き伸長するとして-----

矢野経済研究所、栄養剤・流動食・栄養補給食品に関する調査、2023 年度の市場規模は前年度比 102.0%の 1514 億円と微増推移

マイライフニュース - 2025/1/21 <https://www.mylifenews.net/drink-food/76527/>

矢野経済研究所は、国内の栄養剤、流動食、栄養補給食品市場を調査し、セグメント別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。

2023 年度の栄養剤、流動食、栄養補給食品の市場規模（メーカー出荷金額ベース）は、前年度比 102.0%の 1514 億円と推計した。2023 年度の構成比を見ると、栄養剤の市場規模は前年度比 103.8%の 390 億円、流動食の市場規模は同 100.5%の 822 億円、栄養補給食品の市場規模は同 103.7%の 302 億円となっ-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【医家向けサプリメント】25 年市場拡大に向け各社着々と

健康メディア.com - 2025/1/15 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20318

2024 年の医家向けサプリメント市場は、大きく売上を伸ばした企業もあった一方、全体的には微減となった。それでも、各社エビデンス研究や学会発表、海外展示会への出展などを経て、2025 年は新製品発売や輸出強化などを控え、市場拡大に向けたプラス材料がみられる。自由診療を行うクリニックも年々増えており、医家向けサプリメント販売増に期待が掛かる。キノコ抽出物、植物多糖体などの免疫系製品が市場を支える中、乳酸菌やビタミン、NMN など予防医療やエイジングケア向け製品も浸透してきた。これらの原料は、サプライヤーによる学会参加や論文発表など長年の活動が実り、医療機関で利用が広がって-----

【注目の“健脳”素材】優れた体感性で高リピート

健康メディア.com - 2025/1/15 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20329

2024 年の 65 歳以上の高齢者人口が過去最多の 3,625 万人を突破。高齢化率が 3 割目前に迫る中、認知症有病者が約 700 万人となると推計される 2025 年問題の初年度を迎えた。一方、厚労省の研究では、2012 年の調査よりも 2022 年の認知症有病率が低値だったと報告。中高年者層のヘルスリテラシーの高まりが考えられるとした。こうした中、認知機能をサポートする健食・サプリメント、機能性表示食品の市場も活発化。2024 年は 81 品目が受理され、累計 715 品に。対面販売チャネルで展開する企業からは、「売上がコロナ前に戻った」との明るい話題も。さらに、ADHD の児童、受験対策分野、e スポーツ分野など、健脳サプリメントの活躍の場は拡大し-----

【霊芝】海外で機能性キノコが脚光、日本霊芝に商機

健康メディア.com - 2025/1/15

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20325

伝統キノコ素材・霊芝は、免疫賦活作用をはじめ、様々な健康機能を有する。ファンクショナルマッシュルーム（機能性キノコ）がコロナ禍を契機に、海外で利用が広がる中、認知度に加え、体感性の高い霊芝の注目度が上昇。“日本産霊芝（Reishi）”は、優れた栽培・加工技術から海外の評価が高く、今後も需要増が見込まれる。国内市場は、インバウンド需要が回復基調にあるほか、高齢者を中心としたリピーター層に支えられ、堅調に推移する。一方、「女性ホルモン」「更年期」を切り口にフェムケア、メンテック商材としての利用も期待され-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

2025 年女性トレンド最前線！ペルソナ別インサイトで見える消費動向

ウーマンズラボ - 2025/1/28 <https://womanslabo.com/trend-250128-2>

本稿は、女性インサイト総研の株式会社ハー・ストーリィ（東京・港）による寄稿記事です。女性視点マーケティングで 30 年以上にわたり企業の商品開発やマーケティングを支援する同社の豊富な知見と女性調査をもとに、2025 年の女性市場の意識トレンドと消費トレンドをクラスター別に解説し-----

■ 消費者意識等の調査・分析

ファンケル健康ビッグデータ調査 第 1 弾

40 歳から 59 歳女性の更年期悩みと「食事」「睡眠」「運動」の関係性を解析

～ 「緑黄色野菜」「きのこ類」「全粒穀物」の摂取頻度が高い人、睡眠時間が「6 時間以上」の人、運動習慣が「週 2 回以上」の人は、更年期のお悩みを実感しにくい傾向 ～

株式会社ファンケル - 2025/1/22

https://www.fancl.jp/news/20250010/news_20250010.html

[31707] サプリメントの利用に関するアンケート調査（第 10 回）

マイボイスコム株式会社 https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31707

[31703] 調味料に関するアンケート調査（第 5 回）

マイボイスコム株式会社 https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31703

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

緑茶に認知症予防効果？～65 歳以上の日本人約 9 千人の脳を解析

ケアネット - 2025/1/21 <https://www.carenet.com/news/general/carenet/60004>

緑茶の摂取が認知症の予防につながる可能性が報告された。柴田 修太郎氏（金沢大学医薬保健学総合研究科 脳神経内科学）らの研究グループは、認知症のない 65 歳以上の日本人を対象として、緑茶およびコーヒーの摂取量と脳 MRI の関係を検討した。その結果、緑茶の摂取量が多いほど、脳白質病変容積が小さい傾向にあった。一方、コーヒーには脳 MRI の解析結果との関連はみられなかった。本研究結果は、npj Science of Food 誌 2025 年 1 月 7 日号に掲載され-----

追記：以下の URL から抄録と本文の閲覧が可能です。

<https://www.nature.com/articles/s41538-024-00364-w>

【日本大学】シナモンが新型コロナウイルス感染を阻害するメカニズムを解明

大学プレスセンター - 2025/1/24 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55469.html>

日本大学松戸歯学部の泉福英信教授を代表とする研究チームは、チューインガムなどに使われるシナモンミントやシナモンフレーバーなどの香料成分に新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染を阻害する働きがあることを世界で初めて解明しました。この研究結果は、2024 年 12 月 24 日に Current Research in Microbial Sciences 誌に発表され-----

睡眠の自己評価と客観評価に大きな乖離 筑波大学が報告

大学ジャーナルオンライン - 2025/1/25 <https://univ-journal.jp/251206/>

自覚的な睡眠時間や睡眠の質は、客観的な睡眠評価と乖離があることがわかった。筑波大学と同大学発スタートアップ企業である株式会社 S'UIMIN が発表した。-----

そこで本研究では、株式会社 S'UIMIN が開発した、自宅で簡単に睡眠時脳波を計測できる InSomnograf（インソムノグラフ）を用いて、被験者 421 人の自覚的な睡眠評価と客観的な睡眠評価を比較-----

ビフィズス菌研究 50 年以上の森永乳業が主導

新たなビフィズス菌数測定法改定案が国際規格に採択・発行

～乳製品中のビフィズス菌数をより安定的に測定することが可能に～

森永乳業株式会社 - 2025/1/21

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4490.html>

森永乳業は 50 年以上にわたり、ヒトの腸内にすみ、様々な健康効果をもたらしていると考えられているビフィズス菌の基礎研究を行い、製品へ応用しています。製品に含まれるビフィズス菌の生菌数値は、生理効果の指標に用いられ、また製品規格に使用されることから、その分析法は重要です。国際標準化機構（ISO）および国際酪農連盟（IDF）では、乳製品中のビフィズス菌数測定法として、ISO 29981 | IDF 220（乳製品—推定ビフィズス菌の菌数法—37℃におけるコロニー計数法）を 2010 年に初版発行しています。今回、より安定的に生菌数値を測定することを目的とし、当社が主導して上記国際標準法の改定に取り組みました。

まず、当社が発案した改定案は IDF 日本国内委員会から正式に IDF 本部へ提案され、改定のためのアクションチームが結成されました。本アクションチームのリーダーを当社の社員が担当し、ISO および IDF の改定に向けて取り組んだ結果、この度、改定案が国際規格として採択・発行され……

線虫による実験で脳が老化する仕組みの一端を解明 名大

財形新聞 - 2025/1/15 <https://www.zaikei.co.jp/article/20250115/796966.html>

名古屋大学は 10 日、線虫の脳機能が老化する仕組みの一端を解明したと発表した。加齢によってある種のニューロンが過剰に活性化することで、正常なニューロンの神経回路が妨害され、脳機能の老化が引き起こされると……

資生堂、東京科学大学との共同研究でオルタナティブオートファジーに新機能を発見

～紫外線による肌の光老化を抑制する働きを解明、毛葉香茶菜エキスを開発～

株式会社資生堂 - 2025/1/15

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003918>

資生堂は、東京科学大学の清水重臣特別教授との共同研究により、細胞内の不要な物質を分解し再構築するメカニズムとして知られるオートファジーの中でも、特に細胞が過度のダメージを負ったときに機能する“オルタナティブオートファジー”（図 1）が、紫外線による肌の光老化を抑制する働きを持つことを明らかにしました。また、“オルタナティブオートファジー”を活性化させる「毛葉香茶菜（もうようこうちゃさい）エキス」を見出し……

大阪大、PITTAN と、老化・炎症メカニズム解明のための 3 次元培養表皮モデルを用いた共同研究を開始—汗中の抗炎症物質や老化関連因子の分析により運動効果や老化の新たな評価手法の確立を目指す—

日経バイオテク ONLINE - 2025/1/14

<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/25/01/14/22946/>

過剰なタンパク質接触を防ぐために体内で分泌される腸内分泌細胞とは？

マイナビニュース - 2025/1/14

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250114-3106708/>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 1 月 16 日～1 月 28 日掲載分から選定したものです。

カフェインにより投擲選手のパフォーマンスが向上する可能性 スペインのトップレベル選手での研究

<https://sndj-web.jp/news/003139.php> (2025/1/17)

カフェインのエルゴジェニック効果に関する新たなエビデンスが報告された。スペイン国内で 12 位以内に入るハイレベルの投擲選手を対象とする研究で、3mg/kg のカフェイン摂取がパフォーマンスを向上させたと-----

ホエイプロテインは心臓の健康に好影響？ 特に 50 歳未満や運動との併用で有用性が高い可能性

<https://sndj-web.jp/news/003141.php> (2025/1/18)

ホエイプロテインサプリメントが心臓の健康にも良いことを示唆するデータが報告された。システマティックレビューとメタ解析の結果、脂質関連指標に有意な保護的効果が認められ、50 未満や身体活動介入を並行して行った場合は、より有効性が高い可能性も示されて-----

野菜や果物の摂取量が多い人はフレイルのリスクが低い 米国国民健康栄養調査 4 万人の解析

<https://sndj-web.jp/news/003140.php> (2025/1/20)

米国国民健康栄養調査の大規模データを解析した研究から、野菜や果物の摂取量の多い人にはフレイルが少ないという関連のあることが報告された。ただし、果物のうち果汁（フルーツジュース）の摂取量は、中年期以降の場合この関連が非有意であり、一方、野菜に関しては緑黄色野菜でとくに関連が強く認められ、男性でも有意だという。中国の研究者の-----

ウコンの成分「クルクミン」がアスリートの運動誘発性筋肉損傷を軽減する？ 系統的レビュー

<https://sndj-web.jp/news/003142.php> (2025/1/21)

クルクミンによる運動誘発性筋損傷の軽減効果に関するシステマティックレビューの結果が報告された。その効果はさまざまな因子に左右されるが、摂取タイミングは運動後が良い可能性があることなどが述べられて-----

睡眠時間や睡眠の質の自己評価は間違いだらけ？ 睡眠の評価は客観的な計測が重要 筑波大学

<https://sndj-web.jp/news/003148.php> (2025/1/25)

睡眠時間や睡眠の質はアスリートにとって、回復や怪我のリスク、パフォーマンスに影響するため、正しい評価とそれに基づく自己管理が重要とされる。しかし、本人が自覚している睡眠時間や睡眠の質は当てにならないという研究結果が報告された。アスリート対象研究ではないが、十分に眠っていると感じている人の45%に客観的な睡眠計測で睡眠不足が疑われ、反対に、睡眠に不調を感じている人の66%は問題がないと-----

e スポーツアスリートのパフォーマンスがカフェインで向上 射撃テストや認知機能などで有意差

<https://sndj-web.jp/news/003147.php> (2025/1/28)

カフェインは、エリートレベルのeスポーツアスリートにとっても有用であることが報告された。クロスオーバー試験の結果、射撃テストや認知機能などの指標にプラセボとの有意差が認められたという。台湾からの-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

日立産機、温度と時間で変色するインクと品質可視化アプリを活用した食品の品質可視化ソリューションを提供開始

IoT NEWS - 2025/1/25 <https://iotnews.jp/manufacturing/260347/>

株式会社日立産機システム（以下、日立産機）は、経過時間と温度との積算値に応じて変色するインク「温度×時間センシングインク」を活用した、食品の品質可視化ソリューションについて、本格的な事業化を見据えた有償サンプルの提供を開始した。

「温度×時間センシングインク」は、低温環境ではゆっくりと、高温環境では早く変色する特性を持ち、温度に対する経過時間の積算値で一定の色に変化する。また、一度変わった色は元の色には戻らないという不可逆性を有して----

マグロ刺身の“食べごろ”を散乱光で評価する新技術！ - 理研などが開発

マイナビニュース - 2025/1/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250127-3116416/>

■ その他の科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他

人材育成と、食品ロス削減の意識醸成を目指す、
カゴメと国立女子大学による、産学連携の取組み

「もっと知ってもっと削減、トマトの有効活用プロジェクト」 学生が 出荷規格外トマトの活用提案を発表

リアルな体験を通じ、学生の食品ロス削減への関心が向上

カゴメ株式会社 - 2025/1/27

<https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2025/img/2025012701.pdf>

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、1月13日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[規制レビュー：2024年に最も読まれた APAC 食品・飲料業界の規制・政策記事トップ10](#)

[2024 トップトレンド：今年の APAC 食品・飲料業界のトレンド記事トップ10](#)

[ビッグニュース 2024 FoodNavigator-Asia の今年最も読まれた記事トップ10](#)

[ニッポン フォーカス：2024 年に最も読まれた日本の食品・飲料関連記事トップ 10](#)

[ジャパンフォーカス：アサヒビールの売上急増、カクテル文化が促進するプレミアム化、サツマイモの輸出再検討など](#)

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 2 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

母親の血中 PFAS 濃度と母体血・さい帯血中の脂質の関連を確認 エコチル調査から

大学ジャーナルオンライン - 2025/2/9 <https://univ-journal.jp/251511/>

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」甲信ユニットセンター（信州大学）の野見山哲生教授らの研究チームは、エコチル調査のデータから、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物の総称）が血中脂質となんらかの関連性を持つとする研究結果を発表……

食品安全情報（化学物質）No. 3/ 2025（2025. 02. 05）

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA は包装済み食品の前面に一目でわかる栄養情報表示を提案する

【EPA】 米国環境保護庁

1. EPA、がんを引き起こすエチレンオキシド汚染からの労働者と地域社会の保護を最終決定
2. EPA、フタル酸ジイソノニル（DINP）の TSCA リスク評価を最終決定
3. IRIS（統合リスク情報システム）による無機ヒ素の毒性学的レビュー
4. パーフルオロヘキサンスルホン酸および関連する塩類の IRIS 毒性学的レビュー
5. EPA はバイオソリッド中の PFOA と PFOS に関する科学的理解を深めるためのリスク評価案を発表

【MFDS】 韓国食品医薬品安全処

3. ガルシニアカンボジア抽出物「摂取時の注意事項」追加

■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fscjis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年 1 月 30 日

見出しのクリックで内容をご覧ください。

11. [米国環境保護庁\(EPA\)、水域における PFAS の健康影響に基づく勧告値の案を発表](#)
12. [欧州委員会\(EC\)、食品接触材料におけるビスフェノール A\(BPA\)の使用禁止を採択した旨を公表](#)
13. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、更新された「健康的な」という栄養成分強調表示について最終決定したことを公表](#)
21. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、二枚貝中の PFAS 検査結果を公表](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

「乾燥スープの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/1/29

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003823&Mode=1>

「食品期限表示の設定のためのガイドライン」の改正案に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/2/7

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&id=235080081&Mode=0>

「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（農薬等（キノフメリン等 16 品目）の残留基準の改正）及び「食品衛生法第 13 条第 3 項の規定により人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして内閣総理大臣が定める物質の一部を改正する件（案）」（発芽スイートルーピン抽出たんぱく質）に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/2/10

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110006&Mode=1>

第 115 回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2025/2/7 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_50685.html

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、アルコール飲料・清涼飲料類・嗜好品の国内市場調査、2025 年市場予測ではトマト飲料が 2023 年比 33.6%増 593 億円に

マイライフニュース - 2025/2/5 <https://www.mylifenews.net/drink-food/77956/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、自然災害や記録的な猛暑などの気候変動によって需要が変化している清涼飲料類、酒税法改正によって需要のシフトが顕著なアルコール飲料、原料価格高騰による値上げから消費変化がみられる嗜好品の3カテゴリー98品目の市場を調査した。その結果を「2025年 食品マーケティング便覧 No.3」にまとめた。2025年市場予測（2023年比）では、健康訴求に加え、美容効果が若年層に広く認知。ユーザーの取り込みが進み、市場拡大しているトマト飲料が593億円（33.6%増）を見込む。また、値上げによる買い控えはみられず拡大続く。長期熟成の付加価値ブランドが人気のウイスキーが4000億円（8.5%増）に達する見通し-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【注目のジョイントサポート素材】シニアからアスリートまで、広がるターゲット

健康メディア.com - 2025/2/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20379

「関節」領域の「機能性表示食品」の受理数が500品に迫る勢いだ。グルコサミンを筆頭に、非変性Ⅱ型コラーゲン、プロテオグリカンが猛追、新たなヘルスクレームや関与成分も登場している。市場では、「抗ロコモティブシンドローム」「スポーツ・アスリート対応」をメインテーマに、引き続き、関節対応サプリメントの開発が活発だ。ウコン（クルクミン）、MSM、HMB、オリーブ、グアバ、コガネバナ、SAmE、ショウガ、タートチェリー、タマリンド、非変性Ⅱ型コラーゲン、ボスウェリア、プロテオグリカンなど、多種多様なエビデンスベースのジョイントサポート素材が流通している。群雄割拠の関節対応サプリメント市場、最新の素材トレンドやエビデンス、ヒットの条件等をレポート-----

【スーパーフード最前線】栄養価値に機能性プラス Z世代開拓テーマに

健康メディア.com - 2025/2/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20374

スーパーフードは1980年代、北米の医師や専門家らが食事療法として取り上げたことが起源。海外の人気モデルや女優がSNS等で発信したことで世界的に広がった。日本市場では、スピルリナやキヌア、チアシード、モリンガ、アムラ、カラハリスイカ、マキベリー、ザクロ、バタフライピー、アムラ、マキベリー、黒米、アサイーなどの素材が流通。健康食品はもとより、一般加工食品やプロテイン、着色用途まで、幅広いジャンルで採用されている。「栄養価が高く、健康に有効な食品」「特定の栄養・有効成分を突出して多く含む食品」として定義されるスーパーフードは、抗酸化、疲労感軽減、アイケア、抗アレルギー、血流改善、美肌、血中中性脂肪値上昇抑制などの知見も蓄積されつつあり、原料サプライヤーは科学的根拠をプラスした付加価値提案を強化して-----

【ゴマ由来素材】ゴマ・セサミンサプリメントユーザー、8割が「ほぼ毎日利用」

健康メディア.com - 2025/2/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20371

ゴマの健康効果は幅広く、セサミンの機能性研究では、動脈硬化の予防や女性の更年期障害に対する自律神経機能改善、血管弾力性改善などさまざまな機能が報告されている。機能性表示食品でも抗疲労や睡眠改善を訴求したアイテムも。漢方や妊活、アーユルヴェーダなどで話題となる黒ゴマの知名度も高く、薬系ルートや通販の売れ筋上位には、黒ゴマを強調したものや、醗酵、プレミックスなどで差別化を図った商品が目立つ。ゴマ・セサミンサプリメントユーザーの約8割が「ほぼ毎日利用」（「健食・サブリ」レポート（株）インテージヘルスケア）するなど継続性が高い点も大きな特徴で、大手食品・医薬品メーカーのサプリメントにも数多く採用され-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

食物アレルギー、腸管マスト細胞が自身の過剰な増殖を引き起こす仕組み解明－順大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/2/4

[https://www.qlifepro.com/news/20250204/mhc-class-ii.html](https://www qlifepro.com/news/20250204/mhc-class-ii.html)

▼関連リンク・順天堂大学 ニュース&イベント

<https://www.juntendo.ac.jp/news/21699.html>

アレルギー症状の重症度と関連する粘膜型マスト細胞の数、顕著な増加の仕組みは不明

順天堂大学は1月28日、食物アレルギー症状の悪化に関わる新規のメカニズムを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科アトピー疾患研究センターの中野信浩准教授、北浦次郎教授、奥村康センター長、医学部小児科学講座の大石賢司助手、大学院医学研究科小児思春期発達・病態学の清水俊明特任教授、東京理科大学先進工学部の西山千春教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Allergy」にオンライン掲載されて----

日本人母乳中ヒトミルクオリゴ糖濃度、子の頭囲成長・精神神経発達と関連－阪大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/2/5 <https://www qlifepro.com/news/20250205/hmos.html>

▼関連リンク・大阪大学 ResOU

https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2025/20250127_1

HMOs と精神神経発達の関連、日本人対象研究はなかった

大阪大学は1月27日、8種の母乳中ヒトミルクオリゴ糖（以下、HMOs）濃度の測定法を開発し、母乳中HMOs含量を評価した結果を発表した。この研究は、同大生物工学国際交流センターの藤山和仁教授らの研究グループは、株式会社明治、明治ホールディングス株式会社、東北大学東北メディカル・メガバンク機構の研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Food Science」に掲載されて-----

加齢により「新しいことが覚えにくくなる」ことを解明、新規解析系で一都長寿研

QLifePro 医療ニュース - 2025/2/5

<https://www qlifepro.com/news/20250205/learning-memory.html>

▼関連リンク・東京都健康長寿医療センター研究所 プレスリリース

<https://www.tmghig.jp/research/release/2025/0129.html>

運動学習記憶の保持や減衰に関する詳細なメカニズムは十分に解明されていなかった

東京都健康長寿医療センター研究所は1月29日、運動学習記憶が成立した後、その保持や減衰の経過を定量的に解析する実験系を確立したと発表した。この研究は、同研究所老化脳神経研究チームの柿澤昌研究部長によるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されて-----

【日本大学】不規則な生活により太るメカニズムを解明しました ～「体内時計の乱れによる肥満形成の分子メカニズムを解明」～

大学プレスセンター - 2025/2/4 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55539.html>

日本大学薬学部の榛葉繁紀教授を中心とする研究グループは、夜型生活やシフトワークなどの不規則な生活が肥満を誘導するメカニズムを解明しました。マウスを使った実験で、体内時計システムの機能低下により、インスリンの感受性を強めるホルモン（FGF21）量が増加し、その結果、脂肪細胞の肥大化が起こることを突き止めました。研究成果は、今まで疫学的、そして経験的に知られていた不規則な生活と肥満との関係を分子レベルで明らかにし

たものであり、「規則正しい生活の励行」に科学的エビデンスを与えるものです。以上の研究内容は、ネイチャー誌の姉妹誌である「npj Biological Timing and Sleep」に掲載され----

近畿大学

ローヤルゼリーが肌の再生や老化抑制に関わる表皮幹細胞を活性化し、ターンオーバーを促進することで肌の若返りを促す可能性 ローヤルゼリーの肌に対する有用性メカニズムの一部を解明

大学プレスセンター - 2025/2/5 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55560.html>

株式会社山田養蜂場（所在地：岡山県苫田郡鏡野町、代表：山田英生、以下「山田養蜂場」）の自社研究機関である、山田養蜂場グループ 美容科学研究所は、近畿大学薬学総合研究所（所在地：大阪府東大阪市）森山博由 准教授の研究グループとの共同研究において、ローヤルゼリーが表皮幹細胞を活性化し、肌の再生や老化抑制に貢献する可能性を明らかにしました。本成果は、科学雑誌『Biological and Pharmaceutical Bulletin』に掲載され-----

日本人の認知症予防に有効な緑茶やコーヒーの摂取量は

ケアネット - 2025/1/30

<https://www.carenet.com/news/general/carenet/60030?keiro=comtopcenter>

緑茶やコーヒーには認知機能低下の予防効果があることが報告されているが、認知機能に対する長期的な影響は、よくわかっていない。慶應義塾大学の是木 明宏氏は、中年期における緑茶やコーヒーの摂取が認知症予防に及ぼす影響を調査した。Journal of Alzheimer's Disease 誌オンライン版 2025 年 1 月 8 日号の-----

原著論文：

https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/13872877241303709?url_ver=Z39.88-2003&rfr_id=ori:rid:crossref.org&rfr_dat=cr_pub%20%20pubmed

砂糖誘発性の肥満を抑制する腸内細菌とメカニズムを解明 京都大学と東京農工大学

大学ジャーナルオンライン - 2025/2/8 <https://univ-journal.jp/251491/>

京都大学、東京農工大学などの研究グループは、砂糖（スクロース）を食物繊維様物質である難消化性菌体外多糖（EPS）に変換することで、スクロース誘発性の肥満を防ぐ腸内細菌を発見-----

【セミナーレポート】『抗疲労∞抗老化』啓発プロジェクト発足セミナー

ウェルネス総研レポート online - 2025/2/6 <https://wellnesslab-report.jp/3588/>

現代人にとって疲労が深刻な社会課題と言われるなか、近年の研究によって疲労と老化には共通のコアメカニズムが存在することも分かってきました。これを受けて 2024 年 12 月 12 日に一般社団法人ウェルネス総合研究所は、炎症を抑えて疲れにくい体と老けない体をかなえることをテーマに情報発信を行う、「抗疲労∞抗老化」啓発プロジェクトを発足。

第 1 回目の今回は、基調講演として渡辺 恭良（わたなべ やすよし）先生による「抗疲労∞抗老化～疲労と老化の共通メカニズム：疲労・慢性疲労の最新研究から」、講演 1 として満尾 正（みつお ただし）先生による「抗老化を実現する食と栄養」、講演 2 として小菅 康弘（こすげ やすひろ）先生による「S-アリルシステインの研究動向とその可能性」と題し、それぞれ登壇された内容についてレポートし-----

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 1 月 29 日～2 月 12 日掲載分から選定したものです。

鶏肉で高強度筋トレの動脈硬化度の増加が抑制され、高齢女性の筋肉量・筋力・筋肉の質が改善する

<https://sndj-web.jp/news/003151.php> (2025/1/30)

高齢女性のサルコペニア予防のための高強度レジスタンストレーニングによる介入の際に、鶏肉摂取を加えると、動脈硬化関連指標への負の影響が抑制されたとする研究結果が報告された。立命館大学スポーツ健康科学部の家光素行氏らによる無作為化ランダム化比較試験（RCT）の結果であり、「Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle」に論文が掲載され-----

40 歳前後の日本人女性では、食事の多様性が高いほど血清脂質値が良好 男性では関連が認められず

<https://sndj-web.jp/news/003152.php> (2025/1/31)

30 代後半から 40 代前半という比較的若年の日本人を対象とする縦断研究の結果、女性では食事の多様性が高いほど、血清脂質値が相対的に良好な状態へと変化することが報告された。一方で男性では有意な関連が認められないという。徳島大学医学部医科栄養学科の中本真理子氏らの研究によるもので、「European Journal of Clinical Nutrition」に論文が掲載され-----

第 9 回「クレアチンの様々な『かたち』」

<https://sndj-web.jp/news/003107.php> (2025/1/5)

クレアチンには様々な「かたち」がありますが、第 9 回では、クレアチン研究の第一人者であるラルフ・イエーガー博士らに、様々な「クレアチン」を、エビデンスに基づき、評価、執筆をいただきました-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

「乾き物を食べてどの程度喉が渴いたか」の測定に成功 筑波大学

大学ジャーナルオンライン - 2025/2/10 <https://univ-journal.jp/251520/>

筑波大学医学医療系の山田洋准教授らの研究グループは、「乾き物を食べると喉が渴くかどうか」を定量的に測定することに成功-----

食品工場の上流工程にロボット活用、原料ひょう量工程の自動化プロジェクト

MONOist - 2025/1/31 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2501/31/news114.html>

TechMagic は 2025 年 1 月 14 日、カゴメ、キューピー、永谷園、ニチレイフーズ、日清製粉グループ本社と結成した「未来型食品工場コンソーシアム」において、原料ひょう量工程自動化プロジェクトが始動したと発表した。食品工場の共通課題解決を目指すプロジェクトの第 1 弾と-----

北大、ミリサイズの具材を含むお粥のような流動食品の物性評価手法を開発

マイナビニュース - 2025/2/10

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250210-3126040/>

日清製粉ウェルナとグリッド、冷凍食品の需給管理自動化 AI システムを開発、月間約 50 時間業務時間を削減

IoT NEWS - 2025/2/5 <https://iotnews.jp/manufacturing/260688/>

■ その他の科学・技術情報

肌の色とメラニン量などを評価できる肌解析ソフトウェア

MONOist - 2025/2/4 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2502/04/news069.html>

コニカミノルタは2025年1月23日、肌解析ソフトウェア「CM-SA2」を発表した。同社の分光測色計と組み合わせることで、肌の色とメラニン、ヘモグロビン量などを測定し、肌の色の指標となる Individual Typology Angle (ITA) も表示でき-----

認知機能の低下を運転から検出できるか、スズキが大分県で研究

MONOist - 2025/2/4 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2502/04/news096.html>

スズキと大分大学、臼杵市医師会は2025年1月31日、認知機能が低下した場合に現れる車両の操作や挙動の特徴を明らかにする共同研究を開始すると発表した。認知機能と運転特性の関連を調べることで認知機能の低下を早期に発見／予防し、安全に長く運転し続けられる社会の実現を目指-----

■ その他

健康・医療・介護福祉の展示会一覧（2025年版）

ウーマンズラボ - 2025/1/31

<https://womanslabo.com/exhibition-20180402-5>

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、2月10日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[チャイナ フォーカス：2025年規制、新興 F&B カテゴリー、乳製品市場の可能性](#)

[ANZ フォーカス：2024年のオセアニア トップ10、Binggrae社のオーギーフォーカス、中国のa2 ミルクなど](#)

[トレンドトラッカー：2025年の主要食品トレンド、グルテンフリーのベーカリー、「ゼロトレンド」のRTD ハイボールなど](#)

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025年2月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質）No. 4/ 2025（2025. 02. 19）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202504c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【WHO】 世界保健機関

1. ファクトシート：ナトリウムの低減
2. 低ナトリウム塩代替品の使用：WHO ガイドライン
3. 国際がん研究機関（IARC）
 - ・ IARC モノグラフ 135 巻：パーフルオロオクタン酸（PFOA）及びパーフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）

【FAO】 国際連合食糧農業機関

1. 内分泌かく乱化学物質への暴露：2002 年から 2024 年までの変化

【EFSA】 欧州食品安全機関

3. 規則(EU) 2015/2283 に従った第三国由来伝統食品に関する通知書及び申請書作成のための行政ガイダンス

4. 第三国由来伝統食品としてのトンカ豆 (Dipteryx alata Vogel) の煎った種子の通知に関する技術的報告書

【ANSES】 食品環境労働衛生安全庁

1. 超加工食品の潜在的な健康影響をよりよく良く理解する

【CFIA】 カナダ食品検査庁

1. アルコール飲料、ノンアルコール飲料、酢、穀類ベースのパンやクラッカー、大豆ベースの製品に含まれるカルバミン酸エチル (2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日、及び 2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

更新確認日：2025 年 2 月 20 日

他の情報源に基づき、すでにご紹介済みのものも含まれています。

8. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのイエロー・ミールワーム \(Tenebrio molitor の幼生\) 個体全体の冷凍及び乾燥形態の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
10. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品及び内服薬における赤色着色料 No.3 の使用承認を取り消すことを公表](#)
13. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての「カリウム及びマグネシウムを含有するミネラル塩」の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
42. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、乳幼児用加工食品中の鉛の措置基準に関する業界向けガイダンス最終版を公表](#)
47. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、アレルギー、食品安全、及び植物を原料とする代替品の表示に関するガイダンスを公表](#)
48. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、PFAS に関連する 35 件の食品接触通知の認可がもはや有効ではないと判断したことを公表](#)

更新確認日：2025 年 2 月 25 日

他の情報源に基づき、すでにご紹介済みのものも含まれています。

6. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、FAO/世界保健機関\(WHO\)合同食品添加物専門家会議\(JECFA\)第 99 回会合で作成されたモノグラフ「食品添加物規格一覧」を公表](#)
7. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのイエロー・ミールワーム\(Tenebrio molitor の幼生\)個体全体の冷凍及び乾燥形態の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
9. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品及び内服薬における赤色着色料 No.3 の使用承認を取り消すことを公表](#)
12. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての「カリウム及びマグネシウムを含有するミネラル塩」の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
18. [米国環境保護庁\(EPA\)、パーフルオロオクタン酸\(PFOA\)及びパーフルオロオクタンスルホン酸\(PFOS\)に関する下水汚泥リスク評価案を公表](#)
41. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、乳幼児用加工食品中の鉛の措置基準に関する業界向けガイダンス最終版を公表](#)
42. [米国環境保護庁\(EPA\)、2025 年の報告年度からの特定の PFAS の有害化学物質排出目録\(TRI\)への法定追加の実施に関する最終規則を公表](#)
46. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、アレルギー、食品安全、及び植物を原料とする代替品の表示に関するガイダンスを公表](#)
47. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、PFAS に関連する 35 件の食品接触通知の認可がもはや有効ではないと判断したことを公表](#)
62. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2024 年 12 月 23 日~2025 年 1 月 3 日\)](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

「いわゆる「健康食品」に関する意見交換会」の開催及び 参加者の募集について

消費者庁 - 2025/2/13 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/041107/>

消費者庁は、内閣府食品安全委員会と連携し、3月10日(月)に東京都、3月17日(月)に大阪府において、いわゆる「健康食品」に関する意見交換会を開催します。

この会では、参加者の皆様に、いわゆる「健康食品」を利用する際の留意点などについて理解を深めていただけるよう、有識者及び行政担当者から情報を提供するとともに、意見交換を行い-----

「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示（案）」（清涼飲料水（PFOS及びPFOA）に係る改正）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/2/26

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&id=235110013&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&id=235110013&Mode=0)

既存添加物「キナ抽出物」の使用実態調査について(周知依頼)

消費者庁 - 2025/2/14

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/food_additives/common_knowledge_002/

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

【アイケア】予防ニーズ高まる

健康メディア.com - 2025/2/19 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20436

加齢と共に増える老眼や視力低下は、アイフレイルと呼ばれ、身体機能や認知機能低下を引き起こす。また、アイケアは、中高年だけでなく子供にも必要性が広がっている。スマホ

や学校での PC 利用の影響で子供の近視が問題となっている。国や医療機関では目の疾病予防に向け、啓発活動を積極的に行っている。市場では、アントシアニンをはじめ、ルテインやゼアキサンチン、アスタキサンチンなどを含有したサプリメントが流通。大手サプリメントの看板商品になっているのも少なくな-----

【オリーブ】 多機能で、健食・コスメにも広がる

健康メディア.com - 2025/2/19 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20430

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

2030 年の消費は「健康」が軸に、完全食の浸透・3D プリンターによる医療・感情認識センサーによるメンタルケア

ウーマンズラボ - 2025/2/26 <https://womanslabo.com/trend-240620-1>

人口減少社会、鈍化する経済成長、気候変動による気温上昇――。日本を待ち受ける未来は暗い話ばかりだが、AI の急速な発展をはじめとした society5.0 の実現で、誰もが先進テクノロジーの恩恵を受けられる明るい時代は、もう目前だ。それに伴い人々の消費スタイルは大きく変化するものとみられ、2030～2040 年を見据えた消費者研究が各所で進められている。消費者庁が昨年公開した調査報告書「The Future of Consumer Lifestyle」も、その一つ。消費生活の未来予想に関する国内外の情報をデスクトップリサーチで分析し、今後 10 年に起きる未来の消費トレンドを以下 4 点とした。

- 健康に価値を置く消費
- 自律性に価値を置く消費
- 持続可能性・倫理に価値を置く消費
- 効率性・利便性に価値を置く消費

「ビフィズス菌」研究 50 年以上の森永乳業 大阪・関西万博 出展ブースコンテンツ「ワタシの腸内チェック」を初公開 最大 4 万人の「腸内細菌」検査結果を、万博会場でフィードバック 最新技術を採用した腸内細菌抗体検査キットを活用

～自分の腸内細菌を当たり前知っている未来へ～

森永乳業株式会社 - 2025/2/20

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4503.html>

生活クラブ、食品パッケージを裏返して原材料や食品添加物をチェックしてみる行動を呼びかける「／Oneflip アクション」を開始

マイライフニュース - 2025/2/12 <https://www.mylifenews.net/drink-food/78501/>

生活クラブ事業連合生活協同組合連合会（以下、生活クラブ）は、食品添加物の表記についての理解を深めるべく、「食品パッケージを裏返して原材料や食品添加物をチェックしてみる」という行動を呼びかける、「／Oneflip アクション」を 2 月 10 日から開始----

使用済み油付き PET ボトルの資源循環を目指して

キューピーと日清オイリオグループの協働による使用済み油付き PET ボトル回収の実証実験の結果を報告

千葉市内のイオン・イオンスタイル 8 店舗での回収結果

キューピー株式会社 - 2025/2/18 <https://www.kewpie.com/newsrelease/2025/3630/>

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：高宮 満、以下キューピー）と日清オイリオグループ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：久野貴久、以下日清オイリオグループ）は、ドレッシングや食用油の油が付着した PET ボトルの資源循環に向けて、イオン株式会社（本社：千葉県千葉市、取締役 代表執行役社長：吉田 昭夫）に協力いただき、千葉市内のイオン・イオンスタイル 8 店舗にて、2024 年 5 月 29 日(水)から 11 月 30 日(土) まで使用済み油付き PET ボトルの回収実証実験を実施しました。目標を超える約 175kg の回収量が得られましたので、概要を報告----

■ 消費者意識等の調査・分析

食と仕事についての調査

麗澤大学・土田ゼミナール調査研究レポート

NRC レポート - 2025/2/13 <https://www.nrc.co.jp/report/250213.html>

株式会社日本リサーチセンターは、「NRC デイリートラッキング」調査データを提供することで、以下の大学ゼミの調査研究活動を支援いたしました。

麗澤大学経営学部土田ゼミはマーケティングやデータ分析の研究を行っています。

近年、孤食や食育などのキーワードがあるようにウェルビーイングと食の関係性が注目されています。また働き方改革に代表されるようにウェルビーイングと仕事の関係性にも注目が集まっています。

では、生活者は食事と仕事がどれくらい楽しいと感じているのでしょうか。それらの実態をデータで理解するために WEB 調査で検証して----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

心の状態、ウェアラブル心電計で客観的評価に成功—金沢大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2025/2/17

<https://www qlifepro.com/news/20250217/mental.html>

▼関連リンク・金沢大学 プレスリリース

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2025/02/20250203.pdf>

客観的な心の評価方法が望まれてきた

金沢大学は2月3日、心拍変動解析を用いた精神的疲労の解析に成功したと発表した。この研究は、同大保健管理センターの吉川弘明教授、足立由美教授ら、京セラ株式会社の研究グループによるもの。研究成果は、「PLOS Mental Health」オンライン版に掲載されて---

脂肪細胞の体内時計機能低下が FGF21 を介して肥満を促進—日大

QlifePro 医療ニュース - 2025/2/18

<https://www qlifepro.com/news/20250218/fgf21-2.html>

▼関連リンク・日本大学薬学部 研究・教育

<https://www.pha.nihon-u.ac.jp/education-info/20250205/>

なぜ不規則な生活が肥満を誘発するのか？

日本大学は2月4日、不規則な生活により太るメカニズムを分子レベルで解明したと発表した。この研究は、同大薬学部の榛葉繁紀教授を中心とする研究グループによるもの。研究成果は、「npj Biological Timing and Sleep」に掲載されて-----

【名古屋大学】砂糖の摂り過ぎによるメタボを改善する成分が明らかに ～イノシトールとタウリンが脂質代謝異常の改善に作用～

大学プレスセンター - 2025/2/25 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55699.html>

名古屋大学大学院生命農学研究科の小田 裕昭 准教授らを中心とする研究グループは、メタボリックシンドローム（注1）につながる脂質代謝異常（脂肪肝、高中性脂肪血症）を、イノシトールやタウリンの摂取によって腸内環境を変化させることで改善することを明らかにしました。

これまでメタボリックシンドロームは、食べ過ぎ、特に油の摂り過ぎが原因として考えられてきましたが、最近になって、砂糖（ショ糖や異性化糖などのフルクトースを含む糖）が大きな原因であると分かってきました。そのため、WHO は1日の砂糖の摂取を摂取エネル

ギーの 5%に抑えるように勧告を出しました（2015）。しかし、砂糖による脂質代謝異常のメカニズムは十分に明らかになっていませんで-----

TDK が日本酒の味わい可視化システムを開発 - 電子部品メーカーがなぜ？

マイナビニュース - 2025/2/15

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250214-3128434/>

兵庫県立大など、緑茶の茶カテキンが新型コロナウイルス阻害に有効な可能性を確認

マイナビニュース - 2025/2/13

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250213-3128286/>

乾いた肌は特殊なセラミドが少なく、肌の見た目も悪化。大正製薬が新解明

マイナビニュース - 2025/2/14

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250214-3129093/>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 2 月 13 日～2 月 26 日掲載分から選定したものです。

ゴルフのラウンド中に炭水化物をより多く摂取すると、疲労感が抑制される 二重盲検 RCT

<https://sndj-web.jp/news/003219.php> (2025/2/14)

ゴルフプレー中の炭水化物摂取量の多寡による、血糖値変動やパフォーマンス、集中力、疲労感などの違いを無作為化二重盲検比較試験で検討した結果が報告された。武蔵丘短期大学と（株）ブルボンの共同研究によるもので、同短期科大学健康生活学科の長島洋介氏らによる論文が「Nutrients」に掲載された。高炭水化物群で疲労感が抑制されること、さらにショ糖ではなくイソマルツロースを用いた高炭水化物群では血糖変動が抑制されることなどが明らかにされて-----

持久力運動中の味覚と嗅覚はどう変化する？ 味と香りを考慮したスポーツ栄養戦略の可能性

<https://sndj-web.jp/news/003220.php> (2025/2/17)

持久力運動中の味覚や嗅覚の変化を検討した結果が報告された。運動時間の延長とともに、味覚についてはより濃い味を好むような変化が認められたという。京都女子大学家政学部食物栄養学科の成川真隆氏らの研究によるもので、「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に論文が掲載され-----

食品単位ではなく、「バランスが良い献立」のプリン体はどのくらい？ 国内外 4 スタイルで検討

<https://sndj-web.jp/news/003222.php> (2025/2/19)

痛風や高尿酸血症の治療・予防のためにプリン体摂取量を制限しようとする、タンパク質が減り炭水化物が増えるという結果につながることが多い。これを避けるために、一般的に「バランスが良い」とされている食事スタイルを遵守したとしたら、プリン体摂取量を「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」が推奨する「400mg/日」程度に抑えることができるだろうか。この臨床疑問の答を探った研究の結果が「Nutrients」に掲載され-----

新開発の日本人向け食嗜好質問表で明らかになった、腹部肥満の有無による嗜好と食品・栄養素摂取量の違い

<https://sndj-web.jp/news/003223.php> (2025/2/20)

個人の食事の嗜好を 30 項目、所要時間 5 分程度で把握可能な質問表が開発された。また、この質問表を用いたパイロット研究が行われ、腹部肥満者の嗜好は非肥満者と異なり、その差異が実際に摂取している食品群・栄養素の違いに影響している可能性も明らかにされている。大阪大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科、栄養マネジメント部の長井直子氏、藤島裕也氏、西澤均氏らの研究によるもので、論文が「Nutrients」に掲載され-----

糖尿病予備群の血糖変動と栄養素摂取量、活動量、交感神経活性、心拍数の関連を詳細解析

<https://sndj-web.jp/news/003224.php> (2025/2/21)

心電図データや連続血糖測定データなどの測定結果が蓄積されたオープンアクセスのデータベース（PhysioNet）を用いて、HbA1c が正常高値で糖尿病ハイリスク状態にある人の血糖変動と関連のある因子を、詳細に検討した結果が報告された。栄養素摂取量と血糖上昇・低下速度との関連なども報告されている。北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構の宮腰崇氏、伊藤陽一氏による研究であり、「JMIR diabetes」に論文が掲載され-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

カフェインの過剰摂取に殺虫効果 岡山大学が実証

大学ジャーナルオンライン - 2025/2/15 <https://univ-journal.jp/251654/>

カフェインの過剰摂取に殺虫効果があることを、岡山大学大学院 環境生命自然科学研究科 博士後期課程 2 年(国費留学生)の Shine Shane Naing 大学院生(ミャンマー)と宮竹貴久教授らの研究グループがヒロズキンバエを使った実験で見つけ-----

日清製粉ウェルナ、AI を活用した需給管理自動化システムを共同開発

MONOist - 2025/2/18 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2502/18/news089.html>

日清製粉ウェルナは、グリッドと共同で、AI を活用した「冷凍食品の需給管理自動化システム」を開発した。需給計画や転送計画の自動策定が可能になったことで、計画策定作業を従来の 3 日程度から 1 日程度に短縮-----

■ その他の科学・技術情報

飲み込みやすい錠剤の開発を目指した共同研究を開始

MONOist - 2025/2/12 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2502/12/news127.html>

第一三共ヘルスケアと藤田医科大学は 2025 年 1 月 28 日、錠剤の服用シミュレーションの共同研究に関する契約を締結した。加齢に伴う嚥下力の低下に着目し、高齢者を含む全ての人が服用しやすい錠剤の開発に取り組-----

PFAS の検出技術に有用なペプチド探索の共同研究に着手

MONOist - 2025/2/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2502/14/news028.html>

日立ハイテクと東京科学大学は共同で、ペプチドを用いた有機フッ素化合物の検出に関する研究を開始する。将来の健康被害につながる懸念がある有機フッ素化合物の検出業務を効率化し、除去についても検証を進め-----

日本触媒と NTT Com、熟練運転員の操作を学習した AI で化学品製造工程の自動運転に成功

IoT NEWS - 2025/2/19 <https://iotnews.jp/manufacturing/261023/>

株式会社日本触媒と NTT コミュニケーションズ株式会社（以下、NTT Com）は、プラントの自動運転を実現する NTT Com の「AI Autopilot System」を活用し、化学品製造工程の自動運転に成功した。

一般に、温度、圧力、濃度など状態が絶えず変化する化学品の製造を行うプラントを運転するには、豊富な知識と経験が必要で、自動運転は困難とされて-----

サステナブルな化粧品開発を加速させる AI 基盤モデルを構築

MONOist - 2025/2/13 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2502/13/news026.html>

IBM は 2025 年 1 月 16 日（現地時間）、ロレアルとの協業により、化粧品処方向け AI（人工知能）基盤モデルを構築すると発表した。ロレアルのサステナブルな原材料の使用を推進するための取り組みと-----

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 3 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質））No. 5/ 2025（2025. 03. 05）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202505c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【EFSA】 欧州食品安全機関

1. 健康影響に基づくガイダンス値(HBGVs)及び全ての供給源からの暴露評価の再評価に関する EFSA の科学的意見を踏まえた銅化合物の MRLs 更新の声明
2. 紅麹由来モナコリンの安全性に関連する追加の科学的データに関する科学的意見

【RIVM】 オランダ国立公衆衛生環境研究所

1. 飼料中のマーカースとしての二酸化チタン使用のリスク評価

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA は更新された「ヘルシー（Healthy）」栄養成分表示を最終決定する

■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fscjis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年 3 月 3 日

見出しのクリックで内容をご覧ください。

18. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物としてのブタン、イソブタン、及びプロパンの再評価に関する科学的意見書を公表](#)
29. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、いわゆる超加工食品の摂取による健康への影響の特性決定と評価に関する意見書を公表](#)

43. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び飼料中の臭化物の存在に由来するヒトの健康及び動物の衛生に対するリスクに関する科学的意見書を公表](#)
(1/3)
44. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び飼料中の臭化物の存在に由来するヒトの健康及び動物の衛生に対するリスクに関する科学的意見書を公表](#)
(2/3)
45. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品及び飼料中の臭化物の存在に由来するヒトの健康及び動物の衛生に対するリスクに関する科学的意見書を公表](#)
(3/3)
46. [カナダ食品検査庁\(CFIA\)、アルコール飲料、非アルコール飲料、酢、穀物ベースのパンとクラッカー、大豆ベース製品のカルバミン酸エチルを対象とした調査の最終報告書を公表](#)
51. [世界保健機関\(WHO\)、低ナトリウム食塩代替品の使用に関する WHO のガイドラインを公表](#)
54. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての「植物ステロール類/植物スタノール類」の規格変更の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
55. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2025 年 1 月 27 日～1 月 31 日\)\(前半 1/2\)](#)
56. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2025 年 1 月 27 日～1 月 31 日\)\(後半 2/2\)](#)
66. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)、優先活動「マスタードオイルに含まれるエルカ酸」\(A-029-24\)の最終報告書を公表](#)
68. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての「乳児用及びフォローオン調製乳に使用する Schizochytrium limacinum\(ATCC-20889 株\)由来の油」の安全性に関する科学的意見書を公表 \(前半 1/2\)](#)
69. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての「乳児用及びフォローオン調製乳に使用する Schizochytrium limacinum\(ATCC-20889 株\)由来の油」の安全性に関する科学的意見書を公表 \(後半 2/2\)](#)

71. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、乳児用調製乳及びフォローオン調製乳に使用されるホエイタンパク質濃縮物由来特定タンパク加水分解物の栄養学的安全性及び適合性に関する科学的意見書を公表](#)
73. [国際がん研究機関\(IARC\)、食品の加工度と全死因死亡率及び死因別死亡率との関連に関する研究を紹介](#)
74. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2025年1月20日~1月24日\)](#)
75. [スペイン科学技術最高評議会\(CSIC\)、カカオ作物におけるカドミウムを低減させる国際研究チームによるバイオプロセスの開発を公表](#)
94. [国連食糧農業機関\(FAO\)、食品安全予測技術会議報告書「植物ベース食品、精密発酵、3D フードプリンティング」を公表](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

機能性表示食品制度に関する説明会

消費者庁 - 2025/3/5 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/040995/>

「特定保健用食品の表示許可等について」の一部改正について（案）に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/2/27

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080082&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080082&Mode=0)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、機能性表示食品や特定保健用食品の国内市場調査、2024 年見込では機能性表示食品が 2023 年比 5.2%増の 7274 億円に

マイライフニュース - 2025/3/4 <https://www.mylifenews.net/drink-food/80235/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、機能性表示食品制度の活用で拡大が続く保健機能食品（機能性表示食品、特定保健用食品、栄養機能食品）の市場を調査した。その結果を「H・B フーズマーケティング便覧 2025 No.3 機能性表示別市場分析編」にまとめた。トピックスとして、2024 年国内市場見込（2023 年比）では、睡眠ブームの落ち着きやサプリメントの苦戦で伸びは鈍化するが成長が続く機能性表示食品が 7274 億円（5.2%増）と予測する。休息を求めるユーザーを獲得。差別化のため既存商品に追加で付与されるケースも増加する疲労感軽減に関するヘルスクレームが 347 億円（45.8%増）に達する見通し-----

富士経済、調味料・調味食品・スープ類・めん類・米飯類の国内市場調査、2025 年予測では米飯類の雑穀（市販用）が 245 億円に

マイライフニュース - 2025/2/28 <https://www.mylifenews.net/drink-food/79888/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、メニュー汎用性の高い商品の需要が増加している調味料、簡便性の高い商品が伸びている調味食品、具材感訴求による食べ応えやコストの良さで需要が増加しているスープ類、外食需要の増加で業務用が伸びているほか簡便性や割安感のある商品が支持されているめん類、米の代替用途や豊富な栄養素で注目が集まる米飯類の 5 カテゴリー97 品目の市場を調査した。その結果を「2025 年 食品マーケティング便覧 No.4」に-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

【プラントベース】「潜在需要の発掘を」PB ならではの価値で

健康メディア.com - 2025/3/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20472

動物由来に劣らない美味しさを追求する商品開発が活発だ。日本での普及に必要な次のステップとして、プラントベースだからこそできる「デフォルメ」「機能性の付与」を上げる声がある。一般社団法人 Plant Based Lifestyle Lab が行った意識実態調査では、プラントベースの認知度・喫食経験が拡大傾向に。喫食者は価格面よりも健康価値を優先していることがわかった。「大豆に馴染みある食文化」「タンパク質や食物繊維などのヘルシー感」など、日本の市場特性を考慮したマーケティング戦略が本格化して-----

【高麗人参】プレミアム原料の開発加速

健康メディア.com - 2025/3/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20466

ジンセンベリー、スプラウト、水耕栽培など、プレミアム原料の開発加速一般食、青汁、可食フィルムなど、呈味性改善で裾野拡大へ

「フェムケア（美容）」「免疫対策」をテーマに、高麗人参の新たな市場開拓が進んでいる。「高麗人参＝滋養強壮・疲労回復」のイメージに依存する事なく、サプライヤー各社がエビデンス蓄積・原料開発に尽力したことが結実した格好だ。それに伴い、有効成分・ジンセノサイドを高含有化させたハイグレード原料、汎用性や呈味性を高めた次世代原料の開発が進む。また、ジンセンスプラウト、発酵ジンセンベリーなど、高麗人参原料のバリエーションが急速に広がって-----

【β-グルカン】パラミロンで免疫表示受理

健康メディア.com - 2025/3/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20460

欧米をはじめとした海外では免疫への関心は高く、関連サプリメントの利用は年々拡大傾向にある。米国では免疫に関するヘルスクレームが早くから実現しており、“イミューンヘルス”として一定の認知がされている。なかでも酵母由来β-グルカンは免疫賦活素材成分として知られ、欧米では非常にポピュラーな成分となっている。現在、免疫力を高めることを目的としたβ-グルカンの食品利用は米国のみならず世界的にも拡大している。海外調査会社のグローバルインフォメーションが発表した市場調査レポート「ベータグルカンの世界市場」によると、β-グルカンの世界市場規模は2020年時点で4億380万ドルとしており、年成長率7.6%で伸長。2026年には6億2,830万米ドルに達すると予測している。レポートでは「より健康的な代替品への需要の高まりと、健康的な食材への消費者の嗜好の変化がβ-グルカンの需要と市場の成長を促進すると考えられる」と分析。“イミューンヘルス”としての引き合いはさらに強くなるという。こうしたなか、国内ではミカレアが届出していた機能性表示食品が「免疫機能の維持」で初受理。関連成分はユーグレナグラシリス EOD-1 株由来パラミロン（β-1,3-グルカンとして）-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

【健康食品 GMP】海外輸出で“必須”

健康メディア.com - 2025/3/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20478

健康食品 GMP の重要性が増している。紅麹問題を受け、機能性表示食品制度の見直しで2年間の猶予期間のもとに健康食品 GMP が義務化された。表示制度として製品を製造する届出者が全責任を負うため、今後は受託製造だけでなく、原料から販売までのサプライチェ

ーン全体で安全性と品質確保で連携することが重要になってくる。国内で健康食品 GMP の認証を手掛ける日本健康・栄養食品協会（日健栄協）と日本健康食品規格協会（JIHFS）の 2 団体では、原材料 GMP を強化しており、1 月には受託企業に特化した業界団体も誕生。一方、海外展開においては、サプリメントを法律で定義する諸外国からの要求事項として健康食品 GMP は必須となっており、2 団体への問い合わせも増えている。こうした中、米国における cGMP 見直しの動きも-----

■ 消費者意識等の調査・分析

矢野経済研究所、健康食品に関する消費者アンケート調査、健康被害の報道で 3 割以上が健康食品や機能性表示食品に対して心象が悪化

マイライフニュース - 2025/2/27 <https://www.mylifenews.net/drink-food/79754/>

矢野経済研究所は、健康食品に関する消費者アンケート調査を実施し、全国在住の 20 代以上の男女における健康上の悩みや健康食品の摂取状況を明らかにした。その結果、健康被害の報道を認知している消費者の 3 割以上が健康食品（サプリメント）や機能性表示食品に対して心象が悪化したと回答した。紅麹問題で揺らいだ信頼性の再構築が市場回復の鍵とみら-----

大正製薬、メタボ・肥満に対する特定保健指導制度の実態調査、大半の人がメタボ・肥満者に対する保健指導に課題を

マイライフニュース - 2025/3/6 <https://www.mylifenews.net/health-medical/80509/>

大正製薬は、3 月 4 日の世界肥満デーに向けて、保健師や管理栄養士等を対象に、同社独自に特定保健指導制度の実態調査を実施した。調査の結果、特定保健指導の現場において、指導者の人々が現在のメタボリックシンドローム（以下、メタボ）・肥満者に対する指導に課題を抱えている現状や、対象者本人が問題と捉えていない実情が明らかになった。この調査結果は 3 月 11 日に行われる日本肥満症予防協会主催のセミナーで発表する-----

働くママの自炊意識・行動・タイパ向上の方法を調査 最重視は「栄養バランス」、でも「面倒」

ウーマンズラボ - 2025/3/11 <https://womanslabo.com/news-women-250311-1>

リテール業界の DX を支援するイングリウッド（東京・渋谷）が、働くママの自炊事情を調査。「栄養バランスをしっかりと整えたいものの、献立を考えるのは面倒」というジレンマから、タイパの良い自炊で工夫をしている女性たちの姿が読み取れる結果と-----

[31905] 栄養素の過不足に関するアンケート調査

マイボイスコム https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31905

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

運動習慣が「ストレスによる高血圧」発症を防ぐメカニズムの一部を解明—順大

QLifePro 医療ニュース - 2025/2/27

<https://www.qlifepro.com/news/20250227/exercise-habits.html>

▼関連リンク・順天堂大学 ニュース&イベント

<https://www.juntendo.ac.jp/news/21889.html>

運動習慣が慢性ストレスによる高血圧発症を予防・改善するのかマウスで検証

順天堂大学は2月14日、ラットにストレスを与えるためにほぼ毎日1時間拘束すると、3週間後に安静時血圧が上昇するとともに、扁桃体の遺伝子発現パターンに変化が生じることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院スポーツ健康科学研究科の富田圭佑大学院生（研究当時、現帝京科学大学講師）、山中航准教授、和氣秀文教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Acta Physiologica」に掲載されて----

前号で別情報源の記事をご紹介済みです。

砂糖が原因の脂質異常症、イノシトール・タウリン摂取で改善—名大

QLifePro 医療ニュース - 2025/3/10

<https://www.qlifepro.com/news/20250310/dyslipidemia-2.html>

▼関連リンク・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2025/02/post-786.html>

砂糖の取り過ぎは脂質代謝異常を引き起こす、その背景に腸内環境の変化
名古屋大学は2月21日、イノシトールやタウリンが腸内環境の正常化を介して脂質代謝異常を改善することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院生命農学研究科の小田裕昭准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Food Bioscience」に掲載されて-----

大妻女子大学の青江教授らによる研究で、高食物繊維小麦粉に含まれる多様な発酵性食物繊維の組成を明らかに～日本農芸化学会 2025 年度札幌大会で発表～

大学プレスセンター - 2025/3/3 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55715.html>

学校法人大妻学院 大妻女子大学（学長：伊藤正直）の家政学部 青江誠一郎教授と日清製粉グループ（株式会社日清製粉グループ本社 取締役社長：瀧原 賢二、日清製粉株式会社 取締役社長：山田 貴夫）は、高食物繊維小麦粉に含まれる多様な発酵性食物繊維の組成を明らかにしました。また、これら発酵性食物繊維による腸内環境改善効果の可能性を培養試験で示しました。研究成果の詳細は、本年 3 月 4 日（火）～3 月 8 日（土）に開催される「日本農芸化学会 2025 年度札幌大会」において発表-----

【名古屋大学】"お腹ポッコリ"の原因は朝食欠食＋不活動にあり～生活習慣と食べ方の改善がメタボ予防につながる！～

大学プレスセンター - 2025/3/5 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55794.html>

名古屋大学大学院生命農学研究科の小田 裕昭 准教授らを中心とする研究グループは、朝食欠食をして不活動な生活をするるとメタボリックシンドローム(注 3)につながる内臓脂肪蓄積が起こることを明らかにしました。

メタボリックシンドロームは、食べ過ぎ、特に油の摂り過ぎが原因として考えられてきました。特に、内臓脂肪型肥満が健康に良くないことが知られています。いわゆる中年男性に多い“お腹ポッコリ”の肥満です。しかし、実験動物に高脂肪食を与えて肥満にさせた場合には体全体の脂肪が増えるだけで、ヒト、特に男性でどのようなメカニズムで内臓脂肪が貯まるお腹ポッコリ肥満になるか分かっていませんでした。

今回、実験動物としてラットを用いて、活動量を半分にする不活動症候群モデルを使い、そのラットに朝食欠食をさせました。その結果、体重増加は見られなかったものの、内臓脂肪だけが特に蓄積することを見出し-----

筑波大学が「あすけん」「Pokémon Sleep」利用者の睡眠と栄養の関連を大規模調査

大学ジャーナルオンライン - 2025/2/27 <https://univ-journal.jp/251773/>

筑波大学の柳沢正史教授らの研究グループは、スマートフォンアプリのデータによる大規模調査により、タンパク質の摂取量が多い人は総睡眠時間が長いこと、また、食物繊維を多く摂取している人は総睡眠時間が長く、寝付き時間と中途覚醒が短いことなどを明らかに---

カシューナッツ副産物の脂質代謝調節作用を発見

国立大学法人 筑波大学 - 2025/3/7

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/medicine-health/20250307143000.html>

カシューナッツの副産物である果肉と殻から抽出された成分に、脂質蓄積や脂肪新生を抑制する作用があることを見いだしました。また、この効果は、脂肪細胞の分化に関わる転写因子の下方制御によることが示唆されました。

【中部大学】女性の顔のたるみやシワの原因となる顔面骨密度の減少は閉経前から進行！ ― 難消化性オリゴ糖「マルトビオン酸」に顔面骨密度維持機能を確認 ―

大学プレスセンター - 2025/3/10 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55832.html>

“老け顔”は特に女性にとって気になることで、顔面骨密度の低下が引き起こしています。中部大学応用生物学部応用生物化学科の大西素子教授らは、医薬用ぶどう糖などを製造する糖質メーカーのサンエイ糖化株式会社（愛知県知多市、太田隆行社長）と共同で、上顎や下顎を含む「顔面骨密度」は閉経前の早期の段階から減少することをヒト臨床試験と歯科用 X 線 CT 装置による顔面骨密度の測定で明らかにしました。さらに難消化性オリゴ糖「マルトビオン酸」が顔面骨密度の維持・改善に寄与することを確認し-----

亜鉛の欠損により女性ホルモン応答が障害され不育症になることを解明 麻布大学など

大学ジャーナルオンライン - 2025/3/10 <https://univ-journal.jp/252144/>

麻布大学と徳島文理大学の共同研究により、妊娠の最初のステップである胚着床に、子宮内膜細胞への亜鉛の取り込みが必須であることが明らかと-----

世界初！キリンと東京大学が、ヒト iPS 細胞由来小腸オルガノイドを用いた老化抑制素材の有効性確認に成功

～先進的なオルガノイド技術を活用し、腸内研究での健康課題解決を目指す～

キリンホールディングス株式会社 - 2025/3/3

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下キリン）のヘルスサイエンス研究所（所長 藤原大介）と東京大学大学院農学生命科学研究科（総長 藤井輝夫、以下東京大学）佐藤隆一郎教授の研究グループは、共同研究の結果、世界で初めてヒト iPS 細胞由来小腸オルガノイドを用いた老化抑制素材の有効性確認に成功しました。本研究では、シ

スプラチンを用いて小腸オルガノイドの細胞老化モデルを構築し、そのモデルを使用してヒトミルクオリゴ糖（Human milk oligosaccharide; 以下 HMO）での有効性を確認しました。当研究成果は、北海道で開催される「日本農芸化学会 2025 年度札幌大会」（2025 年 3 月 4 日（火）～3 月 8 日（土））で発表し-----

人の血液中における老化細胞定量法の確立とキンミズヒキ由来アグリモール類摂取による人での老化細胞除去作用の検証

株式会社ファンケル - 2025/3/6

https://www.fancl.jp/news/20250025/news_20250025.html

株式会社ファンケルは、独自の研究から、キンミズヒキ※1 およびキンミズヒキ由来アグリモール※2 類に老化した細胞を除去する作用を見いだしています。本リリースでは、老化細胞に関する研究成果およびキンミズヒキ由来アグリモール類の人での作用に関する研究成果についてお知らせいたします。

- ① キンミズヒキの人での効果を検証するために、血液中に含まれる老化細胞※3 を定量する技術を確認しました。この技術は、人によって異なる老化の進行度合いを評価することを可能にします。本研究では、この技術を用いて日本人における年齢と血液中の老化細胞の割合に関するデータを取得しました。これらの研究成果は 2024 年脳心血管抗加齢研究会第 20 回学術大会にて発表しました。
- ② 確立した老化細胞定量法を用いて、中高年層におけるキンミズヒキ由来アグリモール類の摂取による、老化細胞に対する効果を検証しました。その結果、キンミズヒキ由来アグリモール類の摂取により、血液中の老化細胞の比率が減少する可能性が示唆されました。本研究成果は「Nutrients 2025, 17(4), 667」に掲載されています。

※1 キンミズヒキ : 龍牙草、仙鶴草とも呼ばれ、伝統的に中国医学でも使用されるバラ科の食品素材

※2 アグリモール : キンミズヒキに含まれるポリフェノールの 1 つ

※3 老化細胞 : 不可逆的に細胞分裂が停止した状態になった細胞

NMN の高容量摂取と健康維持の関係について、徳島大学大学院社会産業理工学研究部との共同研究で新たな知見を取得

～学術的アプローチで探る、NMN 高容量摂取の健康維持への可能性～

株式会社 阿部養庵堂薬品 - 2025/2/28

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000067.000037884.html>

株式会社阿部養庵堂薬品（本社：東京都足立区、代表取締役：阿部朋孝）は、徳島大学大学院社会産業理工学研究部（宇都 嘉浩教授）との共同研究において、NMN（ニコチンアミ

ド・モノヌクレオチド)の高容量摂取と健康維持の関係について研究を行い、新たな知見を得ました。

本研究では、老齢マウスを対象に NMN の摂取量が寿命に与える影響を分析しました。その結果、低容量の NMN 摂取よりも、高容量の NMN 摂取が必要であることが明らかになりました-----

資生堂、独自の皮ふ透明化技術を発展させ免疫細胞の 3D 可視化に成功、皮ふの免疫機能解明を加速

～免疫研究のさらなる発展に寄与、肌本来の美しさの実現へ～

株式会社資生堂 - 2025/2/26

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003959>

資生堂は、独自特許技術である皮ふ組織の透明化技術を発展させ、皮ふに存在する免疫細胞を、表皮層から真皮層・皮下脂肪層まで包括的・立体的に観察することに成功しました(図 1)。皮ふは人体最大の免疫臓器と呼ばれ、多様な免疫細胞が豊富に存在しますが、従来の 2 次元での局所的な観察では限られた情報しか得られませんでした。今回の 3 次元可視化技術の開発によって広範囲での観察が可能となり、免疫細胞の空間的配置・ネットワークを考慮した皮ふの免疫の役割をより深く理解することが可能になり、新たな免疫機能の解明が期待され-----

風邪予防にビタミン D は効果なし?～メタ解析

ケアネット - 2025/3/5

https://www.carenet.com/news/general/carenet/60227?keiro=com_topic

ビタミン D 補充による急性呼吸器感染症 (ARI) 予防効果については、2021 年に 37 件のランダム化比較試験 (RCT) のメタ解析で有意な予防効果 (オッズ比[OR]: 0.92、95%信頼区間[CI]: 0.86~0.99) が示されているが、それ以降に 1 件の大規模試験 (1 万 5,804 人) を含む 6 件の適格な RCT が完了している。そこで、英国・Queen Mary University of London の David A. Jolliffe 氏らが RCT データを更新し検討した結果、ビタミン D 補充による ARI 予防効果の点推定値は以前とほぼ同様であったが、統計学的に有意な予防効果がないことが示された。The Lancet Diabetes & Endocrinology 誌オンライン版 2025 年 2 月 21 日号に-----

カテキンとビタミン E を組み合わせた強い抗酸化物質合成に成功 昭和 大

サイエンスポータル (科学技術振興機構) - 2025/3/3

https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20250303_n01/index.html

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 2 月 27 日～3 月 11 日掲載分から選定したものです。

高齢日本人女性では、食事の酸負荷の強さが要介護リスクに関連

<https://sndj-web.jp/news/003240.php> (2025/2/27)

食事性酸負荷の強さと、高齢女性の要介護リスクが関連していることを表すデータが報告された。国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センターの木下かほり氏らが行った、75 歳以上の地域在住高齢者を対象とする縦断的研究の結果であり、論文が「The Journal of Frailty & Aging」に掲載され-----

2 週間のダークチョコレート摂取で長距離ランナーの血管機能が改善 男性アマチュア選手で検討

<https://sndj-web.jp/news/003246.php> (2025/3/3)

ダークチョコレートがアマチュア長距離ランナーの動脈機能を改善することが報告された。また、スポーツパフォーマンス関連指標の一部にも、有意な変化が生じる可能性が報告されている。この機序として著者らは、ダークチョコレートに含まれるポリフェノールの内皮機能改善作用によるものと推測している。ギリシャでの-----

前出の「大学ジャーナルオンライン」の 2/27 付け記事でも紹介されています。

ナトカリ比の高さは睡眠時間の短さや質の低下と関連、一方で食物繊維などに睡眠改善の可能性 筑波大学

<https://sndj-web.jp/news/003238.php> (2025/3/1)

食事管理や睡眠に関するスマートフォンアプリの 4,825 人分のデータを活用した大規模調査により、タンパク質の摂取量が多い人は少ない人よりも総睡眠時間が長いことや、食物繊維を多く摂取している人は総睡眠時間が長く、睡眠潜時（寝付き時間）と中途覚醒が短いことなどが明らかになった。筑波大学の研究グループの研究によるもので、「Journal of Medical Internet Research」に論文が掲載されるとともに、プレスリリースが発行-----

現代日本の中高年男女の BMI は増加傾向 815 万人のデータが示す肥満リスクの実態 慶應義塾大学

<https://sndj-web.jp/news/003243.php> (2025/3/5)

全国健康保険協会（協会けんぽ）のデータを用いた解析の結果、1950～80 年代に生まれた 35～69 歳の中高年世代は、男女ともすべての年齢層において、2015～20 年度にかけて BMI が増加傾向にあることが明らかになった。慶應義塾大学スポーツ医学研究センターの勝川史憲名誉教授らの研究グループの研究によるもので、「International Journal of Obesity」に論文が掲載されるとともに、プレスリリースが発行された。65 歳以上の高齢期男性では、体重減少とともに身長も短縮するため、BMI でみると増加傾向にあり、および、同じ年齢層でも後に生まれた世代の体重のほうが多いことなども報告されて……

■ その他の食品関連科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他の科学・技術情報

ヘルスケア領域に特化した生成 AI 活用のガイドライン、第 2.0 版を公開 JaDHA

ウーマンズラボ - 2025/2/20 <https://womanslabo.com/market-250220-2>

日本デジタルヘルス・アライアンス（JaDHA）は今月、「ヘルスケア事業者のための生成 AI 活用ガイド 第 2.0 版」を公開した。昨年 4 月に公開した初版を改訂したもので、RAG（Retrieval-Augmented Generation/検索拡張生成）や国産大規模言語モデルなどの新技術、国内・海外（欧州・米国・中国・インド・韓国）の生成 AI を巡る最新の政策動向、データの取り扱いやアウトプットの信頼性、モデル選定など、生成 AI を活用したサービスを開発する上でのチェックポイントなどを解説。ヘルスケア領域における国内外の活用事例も大幅に拡充した。生成 AI を活用したサービスを初めて提供する事業者も多くいると想定されることから、初学者でも簡便に参考にできるようチェックリストも……

IVI、製造ノウハウを秘匿したままカーボンフットプリントの信頼性を示す仲介サービスを提供

IoT News - 2025/3/6 <https://iotnews.jp/manufacturing/261323/>

カーボンフットプリント（以下、CFP）を事業者間で共有する場合に、その値の算出方法および実際の計算プロセスが適切であることを保証する必要がある。

こうした中、インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（以下、IVI）は、2025 年度に実施した実証実験の成果をもとに、トラストなデータ連携基盤（以下、CIOF）を用いた CFP の仲介サービスを、4 月より本格展開すると発表……

■ その他

健康・医療・介護福祉の展示会一覧（2025 年版）

ウーマンズラボ - 2025/2/28 <https://womanslabo.com/exhibition-20180402-5>

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、3 月 10 日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[セーフティファースト：韓国の食品表示、インドネシアの GM 食品デマ、中国の安全懸念](#)

[チャイナフォーカス：食品安全リスク、2025 年の関税シフト、Nestlé のコーヒー戦略](#)

[インド フォーカス：2025 年インド予算、Nestle 現地戦略、培養肉の可能性](#)

[スタートアップ スポットライト：Fermenthe、Meatable、Everiday Foods](#)

[ジャパン フォーカス：米とアグリ・フードテックへの投資、食肉産業の抜本改革、食品廃棄物改革](#)

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 3 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

アレルギーを含む食品（そば、えび、かに）のファクトシート（科学的知見に基づく概要書）を公開しました

食品安全委員会 - 2025/3/11 https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/allergen.html

「有機フッ素化合物（PFAS）」評価書に関する Q&A（2025 年 3 月 19 日）

食品安全委員会 - 2025/3/19 https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/pfas_faq.html

食品安全情報（化学物質）No. 6/ 2025（2025. 03. 19）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202506c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【FSA】 英国 食品基準庁

1. FSA が細胞培養製品のための先駆的な規制プログラムを開始する
2. より健康的な食品組成変更

【ANSES】 フランス食品・環境・労働衛生安全庁

1. ガルシニア・カンボジアを含むフードサプリメントを摂取しないこと
3. ANSES はガラキソリドを欧州 CLP 規則において生殖毒性として分類することを提案
4. ベジタリアン食の健康への影響と関連する食事ガイドライン

【VKM】 ノルウェー食品環境科学委員会

1. 特定の乳化剤、安定剤、増粘剤の消化管への影響に関する研究のスコーピングレビュー
2. 乳児用調製乳に含まれるプロバイオティクスのリスク評価

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA は培養豚脂肪細胞を使ったヒト用食品の市販前協議を完了
2. FDA は PFAS を含むアサリの食品の輸入警告（Import Alert）対象企業を追加する

【HHS】 米国保健福祉省

1. HHS のケネディ長官は FDA に対し、企業による食品成分の安全性の自己認証プロセ

スを廃止する規則の制定を検討するよう指示

【USDA】 米国農務省

1. USDA と HHS がアメリカ人のための食事ガイドライン策定プロセスの最新情報を共有

■ 海外公的機関情報

PFAS 規制、米ミネソタ州はフッ素加工の調理器具も販売禁止に

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」 - 2025/3/18 <https://www.alterna.co.jp/151773/>
(無断転載を禁じます)

記事のポイント

1. 米ミネソタ州は、米国で初めて、PFAS を使用した調理器具の販売を禁止した
2. ティファールなどが加盟する業界団体は、禁止令をめぐって州を提訴している
3. 一方で、PFAS を使わずに焦げ付き防止加工に取り組む企業も出てきている

以下は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム** (<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年 3 月 21 日

見出しのクリックで内容をご覧頂けます。

4. [スイス連邦食品安全獣医局\(BLV\)、PFAS について消費者保護に向けた作業が進行中である旨を公表](#)
14. [世界保健機関\(WHO\)、生物多様性に関するファクトシートを更新](#)
16. [国際がん研究機関\(IARC\)、IARC モノグラフ 135 巻: パーフルオロオクタン酸\(PFOA\)及びパーフルオロオクタンスルホン酸\(PFOS\)がオンラインで利用可能になった旨を公表](#)
28. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、「新食品リスク評価に関するデータモデリング及びデータ抽出\(NORA\) - 最終報告書」を外部機関による科学的報告書として公表](#)
36. [国連食糧農業機関\(FAO\)、食品安全・品質シリーズ報告書 No.30「内分泌かく乱化学物質へのばく露\(2002 年から 2024 年までの変化\)」を公表](#)

40. [オランダ国立公衆衛生環境研究所\(RIVM\)](#)、「[飼料中のマーカ―としての二酸化チタン\(titanium dioxide\)の使用に関するリスク評価](#)」と題する報告書を公表
44. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)](#)、優先活動「[乾燥果物及び油糧種子に含まれるマイコトキシン](#)」の最終報告書を公表

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

さくらフォレスト株式会社に対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2025/3/19 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/041489/>

■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

【注目のダイエット食品】“腸活” “運動” × ダイエットにニーズ

健康メディア.com - 2025/3/19

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20566

ダイエットサプリメントにおいても機能性表示食品の利用が広がっている。機能性関与成分の種類が増えたことに加え、「お腹まわり」「ウエスト」「体重」「脂肪」「BMI」「血糖値」など、使用できる文言も多彩に。製品上市が続く中、ダブル、トリプルヘルスクレーム品が主流になってきた。また「睡眠」「疲労」「ストレス」など、別領域のヘルスクレームが謳える機能性関与成分と組合せた商品も増えている。市場全体では、ユーザーの健康的な身体づくりに対する意識は高く、美容、筋肉サポート成分など配合したプロテインや、“腸活×ダイエット”をコンセプトとした製品開発が-----

【健康・美容飲料】市場は次のフェーズへ

健康メディア.com - 2025/3/19

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20558

2024 年度の健康・美容飲料市場は堅調に推移したものの、4 年連続の V 字回復には至らなかった。飲料受託製造企業への調査では、原材料や資材、光熱費、物流費、人件費等の製造に関わる様々なコストの高騰を受け、増収企業が前年比 9 ポイント減少となった。中国経済低迷によるインバウンド需要や輸出製品の減少も業績を押し下げた。一方で、免疫系や快眠・リラックス系、美容系など、機能性表示食品を受託した飲料の受注は増加傾向にある。また、口栓付パウチやスティックゼリーの需要は年々高まっている。小瓶ドリンクが主流だった市場は、ゼリー人気に加え、容器形態のバリエーション拡大している。受託製造企業の中でも瓶ラインでの製造品目の見直し、ゼリーライン導入など、新たな取り組みを始める企業が見られ-----

【アンチ・ドーピング】国内・海外分析機関の活用進む

健康メディア.com - 2025/3/19

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20576

アスリートにとってサプリメントはパフォーマンス向上など重要なツールとなっている。同時に問題視されるドーピング違反は、海外選手が圧倒的に多いものの、日本人選手が違反を起こした場合は、罰則に加え、メディアに取り上げられる機会も多く、選手生命にも関わるリスクを孕む。そうした中、安全にサプリメントを摂取するために、アンチ・ドーピング（AD）の需要が高まっている。サプリメントメーカーや原料、受託企業が AD 認証を取得する件数も年々増加。アスリート向けのためだけでなく、製品の安全性・品質を担保することを目的に AD 認証を取得するケースも-----

【ローヤルゼリー】市場規模、前年比微増の 296 億円

健康メディア.com - 2025/3/19 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20581

健康食品素材として 70 年以上の歴史を有するローヤルゼリー(RJ) 市場は、大きな伸びはないものの緩やかな回復基調に。2024 年の RJ 市場規模は 295 億円から 296 億に微増。原料および最終製品のメーカーへの取材からは、「輸出が好調」「前年比変わらず堅調」「アスリートからの引き合いが増えた」などの声が聞かれた。近年は、スポーツ用途に加え、認知機能向けの製品開発にも期待が-----

【カキ】抗疲労のニーズ増で若年層に商機

長年に亘り健康食品業界で利用されている海産物由来の伝統素材・カキ。栄養成分を豊富に含み、“海のミルク” “海のスーパーフード” とも呼ばれる。馴染みある食材として認知度が高い上に、優れた体感性から活力・スタミナ向上や健康維持を目的としたユーザーに支持され安定市場を形成する。店販チャネルでは、定番アイテムになり、機能性表示食品も流通。近年は、伝承的薬効にエビデンスが備わり、スポーツ領域のほか、若い世代に抗疲労サポート商材としての利用が進むなど、新たなユーザー獲得にも繋がっている。また、カキは亜鉛や鉄などのミネラル類を含み、フェムケア商材としても注目に-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

食品・飲料業界の世界トレンドは「健康とフレーバーの両立」、健康状態・薬・加齢による味覚変化のニーズも商機

ウーマンズラボ - 2025/3/14 <https://womanslabo.com/news-women-250314-1>

食品・飲料に今求められるフレーバーは、健康志向との両立。13 カ国で展開する市場調査会社のミンテルが、食品・飲料業界の新トレンドやビジネスチャンスを探った調査結果から考察し、先月末に発表-----

機能性表示食品の市場規模は 7,274 億円へ拡大、マルチヘルスクレームが成長トレンド サプリも再拡大へ

ウーマンズラボ - 2025/3/17 <https://womanslabo.com/market-250317-1>

■ 消費者意識等の調査・分析

薬機法が理由でメーカーの広告表現が曖昧になっている事を知らない人が多数、「不親切だと思う」5割

ウーマンズラボ - 2025/3/19 <https://womanslabo.com/news-women-250319-2>

健康・美容商品の効果効能の明言を難しくしている薬機法の存在は、ヘルスケア業界のビジネスパーソンであれば誰もが認識しているが、生活者にとってはまだまだ認知・理解されていないようだ。働く女性向けの情報誌『シティリビング』が、1,835 人を対象に実施した調査で明らかにした。調査結果からは、「効果効能をはっきり教えてくれない会社は不親切だ」と、メーカーの姿勢に不満を感じさせている可能性も見えてくる。制限が多い中で、どうやって商品の効果効能を伝えるべきか――？簡単には答えは見つからないが、それを考え

る前に、まずは生活者の”薬機法リテラシー”を向上させるステップが必要かもしれない
(調査対象：20～69歳の女性 1,565 人,男性 270 人。調査実施：2024 年 8 月)。

[31911] 疲れ・疲労に関するアンケート調査 (第 7 回)

マイボイスコム https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=31911

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

食物アレルギー、新バイオマーカー候補「尿中 PGD2 代謝物」同定－東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/3/19 <https://www qlifepro.com/news/20250319/pgd2.html>

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics_20250307-1.html

食物アレルギー患者尿には tetranor-PGDM が排泄、それ以外の脂質メディエーター動態は？

東京大学は 3 月 7 日、食物アレルギー患者の尿からプロスタグランジン D2 (PGD2) 代謝物を含む 19 種類の脂質代謝物が検出され、それらがアレルギー反応の指標となる可能性を示唆したと発表した。この研究は、同大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻の益子櫻博士課程学生（研究当時）、濱端大貴修士課程学生（研究当時）、石井健博士課程 1 年、永田奈々恵特任講師、獣医学専攻の村田幸久准教授、国立成育医療研究センターアレルギーセンターの稲垣真一郎医師、山本貴和子室長、福家辰樹診療部長、大矢幸弘センター長（研究当時）、杏林大学医学部小児科学教室の成田雅美教授、国際医療福祉大学医学部臨床検査の下澤達雄教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Clinical & Experimental Allergy」に掲載されて-----

前号で別の情報源による紹介記事を掲載済みですが、再度のご紹介

「朝食抜き＋動かない」ことが、お腹ポッコリ肥満につながる可能性－名大

QLifePro 医療ニュース - 2025/3/19

<https://www qlifepro.com/news/20250319/metabolic-syndrome-breakfast.html>

▼関連リンク・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2025/03/post-793.html>

「内臓脂肪型肥満」になるメカニズムは不明だった

名古屋大学は3月4日、朝食欠食をして不活動な生活をするとうメタボリックシンドロームにつながる内臓脂肪蓄積が起ることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院生命農学研究科の小田裕昭准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載され-----

認知症予防に重要な聴力の閾値を特定、38.75 db HL が分岐点ー慶大

QLifePro 医療ニュース - 2025/3/18

<https://www qlifepro.com/news/20250318/dementia-8.html>

▼関連リンク・慶應義塾大学 プレスリリース

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2025/3/7/28-165503/>

難聴は認知症のリスク、どのくらいの聴力から補聴器をすべきか？

慶應義塾大学は3月7日、55歳以降の補聴器の装用経験がない難聴者のグループにおいて、聴力閾値と認知機能検査の結果は負の相関関係を示し、4つの音の高さの聴力閾値の平均値が38.75 dB HLを超えた場合に認知症のリスクになり得ることを発見したと発表した。この研究は、同大医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室の西山崇経専任講師、大石直樹准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Aging」に掲載されて-----

「ミニ腎臓」で薬や食品の腎毒性を評価、動物実験に頼らない手法確立へー岡山大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/3/18

<https://www qlifepro.com/news/20250318/kidney-organoids-2.html>

▼関連リンク・岡山大学 プレスリリース

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1358.html

腎臓オルガノイド、動物実験なしでサプリメントなどの影響評価が可能と期待

岡山大学は3月7日、ラットの腎臓細胞から作った「ミニ腎臓（腎臓オルガノイド）」を活用し、薬が腎臓に与える影響を調べる方法を開発したと発表した。この研究は、同大学術研究院医歯薬学域（医）腎・免疫・内分泌代謝内科学の辻憲二助教らの研究グループによるもの。研究成果は、「American Journal of Nephrology」にオンライン掲載されて-----

閉経前から顔面骨密度は減少 老け顔へのマルチビタミン酸の改善効果を中部大学が確認

大学ジャーナルオンライン - 2025/3/17 <https://univ-journal.jp/252323/>

女性に気になる「老け顔」は顔面骨密度の低下から生じる。中部大学の西素子教授らはサンエイ糖化株式会社と共同で、上顎や下顎を含む「顔面骨密度」は閉経前の早期段階から

減少することを明らかにした。さらに難消化性オリゴ糖「マルトビオン酸」が顔面骨密度の維持・改善に寄与することを確認-----

石川県立大学など フリージアの花弁から強力な抗酸化能を持つ新規ポリフェノールを発見

大学ジャーナルオンライン - 2025/3/23 <https://univ-journal.jp/252415/>

石川県立大学の三沢典彦客員教授、竹村美保准教授、東村泰希准教授らは、日本女子大学、東京大学、及び石川県農業試験場と共同で、黄花や白花フリージアの花弁に、強力な抗酸化能を有する水溶性ポリフェノール（新規物質）が存在することを明らかに-----

【大阪大学】数滴の血液で AI が見抜く、あなたの本当の健康年齢 — 未来を予測する新手法 —

大学プレスセンター - 2025/3/21 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-55913.html>

【研究成果のポイント】

- ◆ 血液中の 22 種類のステロイドの測定値を用い、人工知能（AI）と生物学的知見を組み合わせることで、人体の生理健康状態を反映する「生物学的年齢」の予測モデルを構築
- ◆ 従来、ステロイドの個体間での濃度差や測定の際のばらつきが課題であったが、各ステロイド間の相対濃度を基準とする新たな方法により、測定データに基づく生物学的年齢の評価が可能に
- ◆ 個人の健康管理や早期の健康リスク評価、さらには個別化医療への応用が期待され、医学研究の新たな指標として社会に貢献する可能性

緑茶の認知機能予防効果、アジアと欧州で違いあり

ケアネット - 2025/3/24

https://www.carenet.com/news/general/carenet/60371?keiro=com_topic

世界中で広く消費されているお茶に関する複数の研究において、緑茶には認知機能低下に対する潜在的な保護効果があることが示唆されている。この効果は、緑茶に含まれるポリフェノールと神経保護特性に起因すると考えられている。Shiyao Zhou 氏らは、緑茶の摂取と認知機能低下リスクとの関連に関する最近の観察研究をシステマティックにレビューし、メタ解析を行った。Neuroepidemiology 誌オンライン版 2025 年 2 月 13 日号の-----

追記：

「Neuroepidemiology」掲載論文（オープンアクセス）：「The Association between Green Tea Consumption and Cognitive Function: A Meta-Analysis of Current Evidence」

<https://karger.com/ned/article/doi/10.1159/000543784/921545/The-Association-between-Green-Tea-Consumption-and>

Glico 独自開発の乳酸菌 Lactobacillus helveticus GCL1815 株が風邪の自覚症状を抑えることを実証

江崎グリコ株式会社 - 2025/3/17

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/46941/>

江崎グリコ株式会社は、健康な成人を対象としたヒト試験において、当社独自の乳酸菌 *Lactobacillus helveticus* GCL1815 株（以下、GCL1815 株）を継続して摂取することで、風邪の自覚症状が抑えられることを明らかにしました。さらに、GCL1815 株は、免疫で重要な役割を持つ 2 つの樹状細胞の機能を高める可能性が示されました。本研究成果は、2024 年 12 月に国際科学雑誌「Nutrients」に掲載され-----

3 つの免疫評価から最有力乳酸菌を発見 Lactobacillus helveticus GCL1815 株 ～体の免疫機能を高める可能性～

江崎グリコ株式会社 - 2025/3/17

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/46940/>

江崎グリコ株式会社は、当社が保有する菌株約 1 万株の中から、免疫に関する 3 つの評価（①イムノグロブリン（IgA）産生、②樹状細胞活性化、③インターロイキン（IL）-12 産生）で優れた性能を持つ乳酸菌の探索研究を行い、*Lactobacillus helveticus* GCL1815 株（以下、GCL1815 株）を見出しました。ヒト細胞を使用した 3 つの評価試験で顕著な結果を示した GCL1815 株は、免疫機能を向上する高い潜在力が期待されます。本研究成果は、2024 年 12 月 13 日に日本農芸化学会の英文誌「Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry」にオンラインで公開され-----

長期肌実態調査を活用して「肌の曲がり角」が 2 回あることを発見

MONOist - 2025/3/12 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2503/12/news051.html>

花王は 2025 年 2 月 18 日、独自の長期肌実態調査を活用し、40 歳前後と 50 代半ばに肌状態が大きく変化することを明らかにした。

同社は、同一人物の肌性状や意識などの経年変化を継続的に追跡調査し、網羅的データベース「ウルトラ肌解析データベース」を構築している。今回、同データベースの中から

2010年に16～74歳だった日本人女性106人を対象として、2010年と2015年の顔画像を比較-----

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025年3月11日～3月24日掲載分から選定したものです。

オメガ3脂肪酸が筋肉・持久力・認知機能に与える影響とは？ 国際スポーツ栄養学会（ISSN）が見解を公表

<https://sndj-web.jp/news/003264.php> (2025/3/17)

国際スポーツ栄養学会（International Society of Sports Nutrition；ISSN）はこのほど、長鎖オメガ3多価不飽和脂肪酸（ ω -3 polyunsaturated fatty acid； ω -3 PUFA）に関する見解（position stand）をまとめ、同学会発行の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に発表-----

「ゆっくり食べる」はなぜ推奨される？ 「食事のテンポ」と健康の関係を科学的に検証 藤田医科大学

<https://sndj-web.jp/news/003270.php> (2025/3/22)

食事時間は咀嚼回数と正相関し、咀嚼のテンポとは負の相関があることが報告された。藤田医科大学の研究グループの研究成果であり、「Nutrients」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。著者らは、十分な食事時間を保つために、「まずは噛む回数を増やす、一口を小さくすることを意識して食べるのが良いのではないか」と-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

舌の上で“仮想世界の味”を再現——オハイオ州立大学を中心とする研究グループが「e-Taste」を発表

Ledge.ai - 2025/3/15 https://ledge.ai/articles/e-taste_remote_virtual_flavor

2025年3月28日、オハイオ州立大学を中心とする研究グループが、遠隔地や仮想空間で感じる味覚を舌の上で再現する新技術「e-Taste」を開発し、科学ジャーナル「Science Advances」に発表した。

出典論文を確認したところ、2月28日

この技術により、ユーザーは実際に食べたり飲んだりすることなく、デジタルで味を体験できるようになると-----

青リンゴも赤くなる？ - その遺伝的な仕組みや栽培方法との関係を解明

マイナビニュース - 2025/3/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250311-3149088/>

■ その他の科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他

需要予測とは？基本の手法や目的、製造業で活用できるシステムの種類などを解説

IoT NEWS - 2025/3/24 <https://iotnews.jp/manufacturing/260330/>

私たちが消費者として買い物をしている際、欲しいと思ったものが欠品していて手に入らなかったり、いつもの値段よりも値引きされていたりといった経験をしたことがある人は多いのではないのでしょうか。こうした現象は、製品を作って販売する上で、正確な需要を予測できなかったからと言えます。

製品を作って販売するためには、調達、製造、物流、販売などのプロセスにおいて、調達量や生産量を最適化させ、欠品と過剰在庫を防止する必要があります。そこで必要となってくるのが、「需要予測」で-----

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 4 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

カドミウム基準値を超えるコメの流通について（情報提供）

消費者庁 - 2025/4/4 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_56678.html

秋田県から、別添のとおり、カドミウム基準値（0.4ppm）（※）を超える米の流通を確認し、自主回収を指示した旨の情報提供がありました。

これを受けて、農林水産省は、関係自治体と連携し、関係流通事業者の協力を得て、当該生産者が販売した米の流通実態（小売店舗名、商品名）を明らかにし、1週間後を目途に順次公表してまいります。

また、この公表内容等を踏まえて、厚生労働省は、関係自治体と連携し、流通事業者が円滑に回収を進められるよう、支援してまいります。

（※）基準値の0.4ppmは、数十年にわたって長期間摂取し続けることを想定して策定された値。

食品安全情報（化学物質）No. 7/ 2025（2025. 04. 02）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202507c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【BfR】 ドイツ連邦リスクアセスメント研究所

1. EDKAR 研究：青年におけるエナジードリンクの摂取と健康影響に関するデータ収集完了 初めてのデータ評価からは心臓への心配な影響は示されていない
2. 健康リスクのあるカフェインキック

【ANSES】 フランス食品・環境・労働衛生安全庁

1. ANSES はカンナビジオール(CBD)を推定ヒト生殖毒性物質として分類することを提案

【FDA】 米国食品医薬品局

2. HHS と FDA は食品の化学汚染物質透明性ツールを発表する
4. FDA は食品トレーサビリティ規則の遵守期限を延長する

■ 海外公的機関情報

栄養表示「ニュートリ・スコア」を改正、糖分、塩分の評価を厳格化 (フランス、ベルギー、スイス、ドイツ、ルクセンブルク、スペイン、オランダ)

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2025/3/24

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/03/daf70735e52abcb0.html>

食料戦略諮問委員会の第 1 回会合開催、ジャンクフードへの規制強化を議論（英国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2025/4/1

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/04/05f876da165a31a0.html>

以下は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム** (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年 4 月 4 日

見出しのクリックで内容をご覧ください。

1. [ニュージーランド環境保護庁\(NZEPA\)、有害物質アップデート 2025 年 2 号\(2025 年 2 月\)を公表](#)
9. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、「ガルシニア・カンボジアを含有する食品サプリメント」の摂取に関連する有害影響の評価に関する意見書」を公表](#)
10. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、スキムミルク及びホエイタンパク質濃縮物由来の特定のたんぱく加水分解物の栄養学的安全性及び適合性に関する科学的意見書を公表](#)
12. [オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関\(FSANZ\)、リンゴジュース及びその他のリンゴ製品に含まれる金属の調査に関する報告書を公表](#)
22. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、紅麹由来モナコリン類の安全性と関連する、追加された科学データに関する科学的意見書を公表（後半 2/2）](#)
23. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、紅麹由来モナコリン類の安全性と関連する、追加された科学データに関する科学的意見書を公表（前半 1/2）](#)

- 24. [英国食品基準庁\(FSA\)、**規制対象製品\(新食品\)の安全性評価**を公表\(2025 年 2 月公表分\)](#)
- 26. [英国食品基準庁\(FSA\)、調査プロジェクト「**天然の魚類及び甲殻類の化学汚染物質\(北アイルランド\)**」の報告書を公表\(後半 2/2\)](#)
- 27. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、**第三国由来伝統食品としての Durvillaea incurvata \(Suhr\) Macaya**の乾燥葉状体の通知に関する技術的報告書を公表](#)
- 29. [英国食品基準庁\(FSA\)、調査プロジェクト「**天然の魚類、甲殻類、頭足類の汚染物質監視プログラム**」の報告書を公表\(前半 1/2\)](#)
- 30. [英国食品基準庁\(FSA\)、調査プロジェクト「**天然の魚類及び甲殻類の化学汚染物質\(北アイルランド\)**」の報告書を公表\(前半 1/2\)](#)
- 31. [英国食品基準庁\(FSA\)、調査プロジェクト「**天然の魚類、甲殻類、頭足類の汚染物質監視プログラム**」の報告書を公表\(後半 2/2\)](#)
- 68. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、**スラッシュアイスドリンクに含まれるグリセリン\(Glycerin\)が健康に望ましくない影響**を引き起こす可能性があるとの意見書を公表](#)
- 70. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2025 年 2 月 17 日～2 月 21 日\)](#)
- 75. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、**レゾルシノール\(resorcinol\)を内分泌かく乱物質として分類**する同庁の提案について情報を提供](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について(令和6年10月～12月)

消費者庁 - 2025/3/28

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation cms213 250328 01.pdf

ロート製薬株式会社に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2025/3/25 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/041488/>

消費者庁は、本日、ロート製薬株式会社に対し、同社が供給する「ロート V5 アクトビジョン a」と称するサプリメントに係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第5条

第 3 号(ステルスマーケティング告示)に該当)が認められたことから、同法第 7 条第 1 項の規定に基づき、措置命令を-----

景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和 7 年 2 月 28 日現在)

消費者庁 - 2025/3/31 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

令和 5 年度健康食品試買調査結果 都が購入した健康食品の 84%に不適正な表示、広告を発見

東京都報道発表 - 2025/3/26

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2024/03/2024032612>

■ 行政・法令関連情報（その他）

既存添加物の販売並びに製造及び使用に係る実態調査について(周知依頼)

消費者庁 - 2025/3/28

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/food_additives/common_knowledge_003/

第 116 回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2025/3/27 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_56084.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和 7 年 4 月 17 日（木）に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第 116 回コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、今回は、ウェブ上での傍聴を受け付けます。

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報

(市場予測・動向等)

【5-ALA】物質特許満了で原料自由化、次の戦略は？

健康メディア.com - 2025/4/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20662

5-ALA（5-アミノレブリン酸リン酸塩）の物質特許が今年2月25日に満了を迎えた。原料製造の自由化を受け、国内のみならず海外企業の新規参入も予測される。国内では昨年10月17日、食薬区分の一部改正も。厚労省は従来の“ロドバクターセファロイデス”に加え、“コリネバクテリウム・グルタミクムの生成したもの”を新たに定義した。原料自由化およびコリネ型細菌由来の定義づけは市場拡大の起爆剤となる-----

【ブルーベリー】睡眠対策、首・肩への負担軽減、アイケア介した多機能性に注目

健康メディア.com - 2025/4/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20658

ビルベリー由来アントシアニンを関与成分とする機能性表示食品の受理件数が120品を超えた。表示は「ピント調節機能のサポート」「目の使用による一時的な首・肩の負担軽減」「目の潤いサポート」「目の疲労感軽減・改善」など。アイケア素材の代表格として、着実に受理実績を積み上げている。スマホやポータブルゲーム、パソコンの普及は現代人の眼を酷使し続けている。そして、目の疲れやドライアイは、首・肩への負担やストレスに繋がっており、睡眠障害をも引き起こす。ビルベリー市場拡大の下地は整って-----

【大麦】高まる食物繊維摂取の重要性

健康メディア.com - 2025/4/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20655

5年ぶりに改訂となった「日本人の食事摂取基準（2025年版）」において、食物繊維の目標量（推奨量）が1日25gに設定された。食物繊維の摂取不足は生活習慣病の発症に関連するという報告が多いことを受け、目標量を設定したという。こうした中、ブランドオーナーでは「お米に混ぜる」「野菜と穀物のミックスサラダ」「冷凍食品」など、生活にとり入れやすい摂取方法の提案を強化して-----

【カプセル技術】素材×「耐酸性」「耐熱性」「腸溶性」etc

健康メディア.com - 2025/4/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20643

カプセル剤の開発は、「耐酸性」「腸溶性」「崩壊性遅延防止」などの機能改善や付加価値が期待でき、崩壊性のコントロールが求められる機能性表示食品の開発では特に存在感

が増している。供給タイトだったハードカプセルの流通もほぼ回復しており、素材の特性に応じて機能性を最大限に引き出すカプセル技術の新たなアプリケーション提案が加速して---

【藻類由来素材】市場拡大のキーワードは「藻活」

健康メディア.com - 2025/4/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20640

微細藻類（クロレラ、スピルリナ、アスタキサンチン、ユーグレナ、オーランチオキトリウム、テトラセルミス・チュイ、ナンノクロロプシス、ラビリンチュラ、ドナリエラ、コッコミクサ、パブロバ、ブルーグリーンアルジーなど）、海藻類（モズク、コンブ、ワカメ、アオサ海苔など）の流通量が拡大している。「植物性 DHA・プロテイン」「プラントベース」「フェムケア」「免疫対策」を切り口に、サプリメントから一般食品まで、採用実績を積み上げている。米国では、「SEA MOSS（海草）」「SEA WEED（海藻）」カテゴリーのサプリメント、グミ、ジェルがトレンドに。日本市場への波及に期待が-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

「キリングループ カーボン・クレジット方針」を策定

キリンホールディングス - 2025/3/24

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2025/0324_02.html

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志）は、「キリングループ カーボン・クレジット方針」を 2025 年 3 月に策定しました。

キリングループは、「キリングループ環境ビジョン 2050」で 2050 年までにバリューチェーン全体の GHG※1 排出量をネットゼロにするという目標を掲げており、SBT イニシアチブ（以下、SBTi）※2 による SBT ネットゼロ※3 の認定を世界の食品企業として初めて取得しました。当目標の達成に向けて、SBTi のガイダンスに則り、Scope1,2,3 における自社努力による排出削減を優先して取り組んでいます。ネットゼロを達成するための手段の一つとして残余排出量のオフセットにカーボン・クレジット※4 を利用することも検討して---

キリンと日立、森林由来カーボン・クレジットの創出に向け、共同研究を開始

～キリンの「植物大量増殖技術」と日立の「自然計測技術と MRV に関するデジタル技術」で GHG の削減と生物多様性の保全を両立～

キリンホールディングス - 2025/3/24

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2025/0324_01.html

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下キリン）と株式会社日立製作所（執行役社長兼 CEO 小島啓二、以下日立）は、森林由来によるカーボン・クレジット※1 の創出に向けた共同研究契約を 2025 年 3 月に締結しました。キリンの「植物大量増殖技術」と、日立が持つ「自然計測技術と MRV※2 に関連するデジタル技術」の活用により、質の高い森林由来カーボン・クレジットの創出を目指すとともに、植林地の保護による GHG※3 削減と生物多様性保全の両立を図ります。これにより、脱炭素社会の実現と自然環境の保全に貢献します。

※1 GHG の排出削減量を取引できる仕組みのこと

※2 Measurement, Reporting and Verification の略で「GHG 排出量・吸収量の測定、報告及び検証」

環境省 温室効果ガス排出量算定・報告・検証情報ライブラリー MRV ライブラリー

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg/mrv-library/1.whats_mrv.html#:~:text=MRV%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81Measurement%2C%20Reporting,%E3%82%92%E6%8A%8A%E6%8F%A1%E3%81%99%E3%82%8B%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82

※3 Greenhouse Gas の略で温室効果ガスのこと

ダイドー×ロート製薬、共同企画で機能性表示食品のアイケア飲料を発売

ウーマンズラボ - 2025/4/3 <https://womanslabo.com/marketing-case-250403-3>

ダイドードリンコとロート製薬は、共同企画で開発したアイケア飲料「ベリーウォーター」を 3 月に発売した。パソコンなどの使用による目のピント調節機能をサポートし、目の疲労感を軽減する機能が報告されている「モノグルコシルルチン」を配合した機能性-----

■ 消費者意識等の調査・分析

明治、「子どもの感染と免疫力」に関する意識調査を実施、新学期に向け免疫力を育てる「イクメン（育免）」を提唱

マイライフニュース - 2025/4/1 <https://www.mylifenews.net/health-medical/82989/>

「健康にアイデア」をコーポレートスローガンに掲げる明治は、新学期に向けて、小学校 3 年生以下の低年齢の子どもを育てる全国の父母 1000 名と小児科医 100 名を対象に「子どもの感染と免疫力」に関する意識調査を実施した。その結果、父母の 81%が「直近 1 年で子どもが感染症による発熱」を経験し、そのうち 74%が「子どもから家族に感染症がうつった」ことがあり、家庭生活への影響が多岐におよんでいることがわかった。また、未知のウイルスへの感染予防が重視されたコロナ禍に子どもを持った親世代では、「子どもの免疫力を育てたい」という想いが 76%と強いに関わらず、「育て方を知らない」が 77%。想

いに反して、免疫力を育てる具体的な方法を会得できていないという問題意識をもつことが明らかに-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

メタボ予防、歩行強度問わず 1 万歩で効果同等の可能性－愛媛大

QlifePro 医療ニュース - 2025/3/26

<https://www qlifepro.com/news/20250326/metabolic-syndrome.html>

▼関連リンク・愛媛大学 プレスリリース

https://www.ehime-u.ac.jp/data_relese/pr_20250314_cri/

メタボでない中高年女性 794 人対象、日常生活の歩数・強度別の歩行時間を調査

愛媛大学は 3 月 14 日、潜在プロファイル分析を用いて、中高年女性の日常生活における歩行活動パターンを特定し、それらのパターンとメタボリックシンドローム発生リスクとの関連を検討した結果を発表した。この研究は、同大社会共創学部の中野直史准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Environmental Health and Preventive Medicine」電子版に掲載されて-----

2 型糖尿病、10 年発症リスクを予測する日本人用モデルを開発－京都府医大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2025/3/31

<https://www qlifepro.com/news/20250331/type2-diabetes.html>

▼関連リンク・京都府立医科大学 プレスリリース

<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/news/2025/20250321.html>

欧米の既存予測モデルをそのまま日本人に適用するのは困難

京都府立医科大学は 3 月 21 日、日本人における 2 型糖尿病発症リスクの予測モデルを新たに開発し、大規模かつ長期的なデータを用いて検討したところ、優れた予測能を有していることがわかったと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科内分泌・代謝内科学フューチャーステップ研究員の宗川ちひろ氏、岡田博史助教、福井道明教授、同大大学院医学研究科生物統計学の堀口剛助教、手良向聡教授、同大附属病院臨床研究推進センターデータサイエンス部門の内藤あかり特任助教、パナソニック健康保険組合の黒木和志郎氏、伊藤正人氏らの研究グループによるもの。研究成果は「Diabetes/Metabolism Research and Reviews」に掲載されて-----

血液 5 滴で「健康年齢」を評価する AI モデル開発、血中ステロイドに着目－阪大

QlifePro 医療ニュース - 2025/3/31

<https://www qlifepro.com/news/20250331/human-life-expectancy.html>

▼関連リンク・大阪大学 ResOU

https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2025/20250319_2

個人差のある「生物学的年齢」を定量的に評価する方法は？

大阪大学は 3 月 19 日、人体の代謝調節経路の知見を最先端の人工知能（AI）アルゴリズムに組み込み、健康状態を反映する「生物学的年齢」を定量的に評価するモデルを開発したと発表した。この研究は、同大蛋白質研究所の汪秋益助教（研究当時、現：大阪大学・島津分析イノベーション協働研究所 招へい研究員）、同大理学研究科生物科学専攻の王梓氏（博士後期課程）、水口賢司教授、高尾敏文教授（研究当時、現：特任教授）を中心とする研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」に掲載されて-----

アルツハイマー病の抑制因子が、膵臓β細胞から放出されることを発見－広島大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/4/1 <https://www qlifepro.com/news/20250401/fgf23-2.html>

▼関連リンク・広島大学 プレスリリース <https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/89290>

糖尿病でアルツハイマー病の発症リスクが上昇する原因は不明だった
広島大学は 3 月 21 日、膵臓の細胞からアルツハイマー病を抑制する因子が放出されることを発見したと発表した。この研究は、同大大学院医系科学研究科の小澤孝一郎教授および山口東京理科大学薬学部の細井徹教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「PNAS Nexus」に掲載されて-----

糖尿病抑制の可能性がある食品成分を発見、タマネギ含有のアピゲニン－広島大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/4/2

<https://www qlifepro.com/news/20250402/apigenin.html>

▼関連リンク・広島大学 プレスリリース <https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/89289>

449 の食品由来因子から、インスリン抵抗性に関わる小胞体ストレス軽減因子を探索

広島大学は 3 月 21 日、β チューブリンに結合して糖尿病抑制効果を示す食品成分（アピゲニン）を見出したと発表した。この研究は、同大大学院医系科学研究科の小澤孝一郎教授および山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部の細井徹教授らの共同研究グループによるもの。研究成果は、「FASEB J」に掲載されて-----

ケルセチンの継続摂取で高齢者の筋力トレーニングの効果アップ

学校法人梅村学園 中京大学 - 2025/3/13

<https://www.chukyo-u.ac.jp/media/0865da0083258735d1c682ad4191a07d.pdf>

中京大学スポーツ科学部渡邊航平教授の研究グループは、タマネギの皮などに含まれるポリフェノール的一种であるケルセチンの摂取が、運動神経の活動を変化させ、高齢者の筋力トレーニングによる筋力の増加を促進することを明らかにしました。本研究結果は、国際学術雑誌 European Journal of Nutrition に掲載されることが決定しました-----

砂糖の摂り過ぎでメタボを引き起こす腸内細菌を特定 名大

財形新聞 - 2025/4/6 <https://www.zaikei.co.jp/article/20250406/806598.html>

名古屋大学は3月31日、砂糖の摂り過ぎによってメタボリックシンドロームにつながる腸内細菌を5つ、特定したと発表した。砂糖の摂り過ぎによって、今回特定した5つの腸内細菌の状態が変化し、その代謝物によって肝臓における脂質代謝異常が引き起こされることが、メタボリックシンドロームにつながると-----

肥満予防にはゆっくりしたリズムで食事が効果的 藤田医科大学

大学ジャーナルオンライン - 2025/3/30 <https://univ-journal.jp/252654/>

肥満患者にゆっくり食えることを生活指導することが多いが、藤田医科大学医学部の飯塚勝美教授らの実験でゆっくりしたテンポのリズムを聞かせると、咀嚼（そしゃく）回数が増え、肥満予防に効果的な可能性があることが-----

皮膚コラーゲンの真の供給源は表皮細胞だった 岡山大学が常識を覆す発見

大学ジャーナルオンライン - 2025/3/27 <https://univ-journal.jp/252497/>

岡山大学大学院の大蘆彩夏大学院生（博士後期課程）らの研究グループは、線維芽細胞のみが作るものと考えられてきた皮膚コラーゲンの主要な供給源が、実は表皮細胞（ケラチノサイト）であることを、ウーパールーパーの皮膚の研究から明らかに-----

人間の認知能力は老化ではなく“脳を使わない”と低下 米国チームが発表 使う人は65歳でも低下せず

[山下裕毅, ITmedia] - 2025/3/27

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2503/27/news099.html>

米スタンフォード大学などに所属する研究者らが発表した論文「Age and cognitive skills: Use it or lose it」 (<https://www.science.org/doi/10.1126/sciadv.ads1560>) は、年齢とともに認知能力は低下するといわれてきたが、実はそうとは限らないことが新たな研究で明らかにになった研究報告----

ノンカロリー人工甘味料は砂糖より“空腹感”を与える MRIで75人の脳を調査 海外の研究者らが検証

[山下裕毅, ITmedia] - 2025/4/8

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2504/08/news063.html>

米南カリフォルニア大学などに所属する研究者らが発表した論文「Non-caloric sweetener effects on brain appetite regulation in individuals across varying body weights」は、ノンカロリー甘味料のスクラロースが、脳の食欲調節中枢である視床下部の活動に与える影響に関する研究を発表した。カロリーのある砂糖と比較して異なる生理学的反応を引き起こすことが明らかに-----

ヒトにすむビフィズス菌論文数世界 No.1(※1)の森永乳業

「ビフィズス菌 M-16V」などが、ヒトミルク由来オリゴ糖で増殖する悪玉（ウェルシュ）菌の抑制に寄与する可能性を確認

～科学雑誌『Gut Microbes』掲載～

森永乳業株式会社 - 2025/3/31

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4535.html>

森永乳業は、50年以上にわたり、人の腸内にすみ、様々な健康効果をもたらしているビフィズス菌の基礎研究を行っています。また2020年10月1日より開設している京都大学との産学共同講座「ヒト常在性ビフィズス菌（HRB）研究講座」※2において、ヒトの腸内に棲息するビフィズス菌（HRB）の機能に関する研究を行っています。

今回、潜在的に病原性を示す可能性がある悪玉菌の一種 Clostridium perfringens（ウェルシュ菌）が母乳に含まれるヒトミルク由来オリゴ糖（HMO）の一種である 2'-フコシルラクトース（2'-FL）を利用し増殖すること、この増殖を一部のビフィズス菌が抑制することを明らかにいたしました。なお、本研究成果は、国際学術誌『Gut Microbes』に2025年3月18日に掲載され-----

「ウスベニアオイ」「ビタミンC」「ビタミンE」にプロテアソームのはたらきおよび抗酸化作用を高める効果を発見

～くすみのない透明感あふれる肌へ～

ノエビアグループ - 2025/3/27

https://www.noevir.co.jp/new/ir_info/pdf/per55/250327c.pdf

ノエビアグループは、自社農場「北海道暑寒別岳パイロットファーム」で有機栽培した「ウスベニアオイ」と「ビタミンC」「ビタミンE」に、透明感のある肌に多く含まれる、酵素複合体であるプロテアソームのはたらきを高める効果があることを発見しました。さらに、「ウスベニアオイ」がビタミンCの抗酸化作用を高めることも明らかにしました。これらの成分の組み合わせにより、酸化タンパク質の分解を促すとともに、タンパク質の酸化を抑えることで、くすみのない透明感あふれる肌へ導く効果が期待できます。これらの研究成果の一部は、2025年3月26日から29日に開催される「日本薬学会第145年会」で発表し

「花粉症改善」の意外な真実。乳酸菌を摂りすぎると逆効果!? 2万人の腸内細菌分析で判明 「花粉症改善」の意外な真実。乳酸菌を摂りすぎると逆効果!?

「SheepMedical 株式会社調べ」

SheepMedical 株式会社 - 2025/4/7

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000035.000080017.html>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025年3月25日～4月8日掲載分から選定したものです。

がんには「運動×食事」で対策が必要 食事改善と身体活動の重要性を示す英国の大規模研究

<https://sndj-web.jp/news/003272.php> (2025/3/25)

運動不足と腹部肥満は、どちらも修正可能ながんの主要なリスク因子だが、それらのいずれか一方のみが良好な状態であったとしても発がんリスクは高いことが、英国の大規模疫学研究「UK バイオバンク」のデータ解析から明らかになった。つまり、腹部肥満がなく、かつ、日常の身体活動が多いことが、発がんリスクの抑制につながることを示唆さ-----

クエン酸飲料は摂取タイミングにかかわらず、運動で蓄積した乳酸の迅速な除去を期待できる

<https://sndj-web.jp/news/003288.php> (2025/4/2)

クエン酸飲料は運動負荷によって生じる乳酸を速やかに除去するように働くことが知られているが、この作用がクエン酸飲料の摂取タイミングで異なるのか否かを検討した研究結果が報告された。信州大学医学部保健学科理学療法学専攻の岡野怜己氏らが、男子学生対象クロスオーバー試験として実施し、論文が「Journal of Physical Therapy Science」に掲載され-----

カルシウムの摂取量が転倒リスクと関連 国内地域住民対象コホート研究のエビデンス

<https://sndj-web.jp/news/003289.php> (2025/4/3)

国内の 40 歳以上の地域住民を対象とする研究から、カルシウム摂取量が少ない場合に転倒リスクが高いことが報告された。横断的解析と縦断的解析のいずれでも、有意な関連が認められるという。新潟大学大学院医歯学総合研究科健康増進医学講座の蒲澤佳子氏らの研究の結果であり、「The Journal of nutrition, health and aging」に論文が掲載され-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

沢井製薬、薬の「味」「食感」機械や AI で客観評価—食品向け技術を応用、目指す「良薬は口に良し」

AnswersNews - 2025/4/4 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/29919/>

沢井製薬が、食品業界で使われる測定器や AI を応用し、医薬品の食感や味を客観的に評価する技術を開発しました。より飲みやすい製剤の開発につなげ、「良薬は口に良し」の実現を目指します。自社製品の品質の裏付けや、官能試験の削減にも活用する考え-----

新型高感度センサーと独自アルゴリズムの食品向け X 線検査機、AI も搭載予定

MONOist - 2025/4/3 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2504/03/news083.html>

アンリツは 2025 年 3 月 19 日、食品業界向けの新型 X 線検査機「XR76」シリーズを発表した。同年 4 月 1 日より国内での販売を開始し、アメリカやヨーロッパ、アジア、オセアニア各国、アフリカの一部地域で順次発売-----

■ その他

健康・医療・介護福祉の展示会一覧（2025 年版）

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、4月7日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[ブランニュー：Mars Wrigley、キューピー、Thai Union、その他のビッグブランド](#)

[代替タンパク質ウォッチ：Meatable、Kaiko、Everiday Foods](#)

[チャイナ フォーカス：キューピーの高齢者向け食品の推進、梅酒の世界的な野望、減塩のためのデジタルヘルス](#)

[ポリシー ピック：シンガポールのグルテンフリー、インドの牛乳表示、日本の食肉コンソーシアム](#)

[ジャパン フォーカス：日本のコメ危機、食品価格上昇の抑制、麒麟の 2025 年戦略](#)

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 4 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質）No. 8/ 2025（2025. 04. 16）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202508c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【FAO】 国連食糧農業機関

1. 精密発酵は食料生産に安全で持続可能な未来をもたらすか？

【BfR】 ドイツ連邦リスク評価研究所

1. スラッシュアイス飲料に含まれるグリセロールは望ましくない健康影響を起こす可能性がある

【FDA】 米国食品医薬品局

2. よくある質問：食物アレルギー表示に関する事業者向けガイダンス

【EPA】 米国環境保護庁

1. EPA は飲料水中のフッ化物に関する新たな科学的知見を早急にレビューする

■ 海外公的機関情報

2025 年 4 月 23 日 9 時現在、食品安全委員会 食品安全総合情報システム
(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報はありません。

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

機能性表示食品制度に関する説明会 説明動画

消費者庁 - 2025/4/11

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/movie_005/index.html

食用赤色 3 号を含有する食品に関する自主点検について

消費者庁 - 2025/4/21

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/food_additives/assets/cms_standards102_250421_01.pdf

「植物性たん白の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/4/23

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003927&Mode=1>

器具及び容器包装の原材料に含まれる物質の含有量等に関する安全性審査の手続（案）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/4/22

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&id=235110015&Mode=0>

「特定保健用食品の表示許可等について」の一部改正（案）に関する意見募集の結果の公示について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/4/23

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235080082&Mode=1>

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、加工食品の国内市場の調査、2031 年国内市場予測では加工食品 19 カテゴリー386 品目で 24 兆 8678 億円に

マイライフニュース - 2025/4/10 <https://www.mylifenews.net/drink-food/83953/>

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済は、物価高を背景に消費者の価格意識がさらに高まり値ごろ感の強い商品への支持が広がる中、消費者の認知度向上につながる露出増加と訴求力の強化、SNS などを活用したプロモーションが活発化している加工食品の国内市場を総括・分析した。その結果を「2025 年 食品マーケティング便覧 総市場分析編」

にまとめた。トピックスとして、2031 年国内市場予測では、市場は緩やかに拡大し、付加価値訴求型商品が存在感高めるとして加工食品（19 カテゴリー386 品目）は 24 兆 8678 億円に達する見通し-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【水素】25 年上期、順風満帆のスタート

健康メディア.com - 2025/4/16 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20700

300 億円市場の到達へ、上々のスタート！ 25 年上期の水素商材市場も好調をキープしたことがわかった。25 年上期の経営状況では、過半数のメーカーが「良かった」と回答。通期の見通しでも 7 割が経営良好および増収を見込む。国内では、フィットネスジムやエステサロン、理美容室などが、水素商材の導入に関心を持ち始めており、卓上型の水素吸入器にもチャンスが巡ってきた。水素サプリメントや水素化粧品などは、大手・有力企業による新規参入の話も尽きない。メイド・イン・ジャパン製品を求める海外市場も狙い目と-----

【免疫サポート】機能性表示で“免疫ケア”が日常に

健康メディア.com - 2025/4/16 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20697

新型コロナの世界的な蔓延をきっかけに、国民の免疫への関心が一気に高まった。コロナ収束後も消費者の感染症などに対する意識は高く、日常における“免疫ケア”が広く浸透。2020 年に登場した「免疫表示」の機能性表示食品が市場形成を加速させた。健常者によるユーザーが増え、販売チャネルも拡大。民間調査によると「免疫機能維持」の機能性表示食品市場は、400 億円超を見込む。機能性表示食品の増加に伴い、エビデンスデータを有する他の特色ある機能性素材も注目度が上昇。市場全体の底上げに繋がって-----

【機能性糖質】製糖業界、健康基軸の戦略鮮明に

健康メディア.com - 2025/4/16 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20695

2024 年の機能性糖質・甘味料市場は、ここ数年の勢いは鈍化したものの、各社の売上は、軒並み前年比を超えたことが今回の取材でわかった。砂糖代替甘味料は、コロナ禍で一気に裾野を広げ、現在はリピーターが市場を支えている。また、昨年から今年に掛けて、同業者による合併やコラボなど、新たな動きも見られる。砂糖を原料とした機能性糖質の研究が進展する中、腸内環境改善、持久力向上、疲労回復、オーラルケア、血糖値対策向けの製品上市も進む。機能性糖質・甘味料は、砂糖の甘みを活かし、糖質の機能を向上させるなどの研究開発により、健康食品から一般食品まで利用拡大が-----

【プラセンタ】海外展開に商機広がる

健康メディア.com - 2025/4/16 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20690

体感の良さと美容素材として認知度の高さが強みのプラセンタ。睡眠や更年期サポートなどのエビデンス研究も深化している。近年はエクソソーム含有プラセンタを提案するサプライヤーも。エクソソーム含有プラセンタは、エステサロンを中心に人気となっている。魚類や植物由来のプラセンタ様成分の人気も底堅い。新たな動きでは、今年3月にプラセンタ専門店が渋谷にオープン。意外にもペットサプリが売れ筋という。アジア圏でも日本のプラセンタがじわりと浸透。定番素材でありながら、新しい話題にも事欠かないプラセンタ市場の最新動向をレポート-----

【グルコサミン】流通量 1,300t 台堅持

健康メディア.com - 2025/4/16 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20688

グルコサミンは長年に亘り、関節サポート素材の代表格として高齢者ユーザーに支持されている。競合素材が台頭する中でも、体感性に加え、認知度が高いグルコサミンは底堅い需要があり、国内流通量は前年並みの1,300t台を維持したと推測される。機能性表示食品では、「関節」「肌」カテゴリーで240品を超える。ここ数年は、N-アセチルグルコサミン(NAG)を機能性関与成分とした受理件数が増加。良質な甘味などから一般食品への利用が進み、市場全体の底上げに繋がっている。また、機能性に関するエビデンスデータの蓄積が進み、新たなヘルスクレームでの届出準備を進める動きが-----

【セラミド】「肌」機能性表示 240 品突破

健康メディア.com - 2025/4/16 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20681

グルコシルセラミドを配合した機能性表示食品が240品を超え、「肌の保湿、肌バリア機能の維持」をテーマに存在感をみせている。アフターコロナで美容商品の開発機運が戻りつつあることから国内での需要も回復傾向に。また食品としての研究が進む日本のセラミドは海外からも関心が寄せられ、特に東南アジアからの引き合いが強まるなど輸出も増加傾向に。研究面では認知機能の改善や、免疫活性、腸内の善玉菌増加を促進するといった知見も出てくるなど、セラミドが持つ新たな魅力も引き出されている。大手によるセラミド素材の開発や研究も推進されており、今後の盛り上がりにも期待が-----

【CoQ10】エイジングケアの筆頭素材、最脚光

健康メディア.com - 2025/4/15 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20686

コエンザイム Q10（以下 CoQ10）は、「強い抗酸化作用」「エネルギー産生促進」という 2 大作用を有し、多岐にわたる健康機能が解明されている。健食業界に登場して 20 年超の現在も体感、認知度の高さに加え、豊富なエビデンスを背景に安定市場を形成する。還元型、酸化型原料を用いたサプリメントをはじめ、飲料、ゼリー、グミなど、様々な商品が流通。特にここ数年は、エイジングケア素材として、話題成分・NMN などと一緒に利用されるケースが多く、市場の活性化に繋がっている。機能性表示食品では、還元型 CoQ10 が牽引。「疲労感の軽減」をはじめ、累計受理数は 90 品を超える。最近は、「睡眠の質の向上」の受理品が多いほか、新たに「肌のターンオーバーの維持」も謳えるように----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

腸内細菌が作るフェニル硫酸が糖尿病の進行に関与するメカニズム解明 ー東北大

QLifePro 医療ニュース - 2025/4/11 [https://www.qlifepro.com/news/20250411/ps.html](https://www qlifepro.com/news/20250411/ps.html)

▼関連リンク・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2025/04/press20250401-01-PS.html>

腸内細菌由来の腎不全物質「PS」、インスリン分泌／抵抗性に及ぼす影響は？

東北大学は 4 月 1 日、腸内細菌由来のフェニル硫酸（PS）による血糖値調節メカニズムを解明したと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科、医工学研究科の阿部高明教授と頓宮慶泰氏らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されて----

2 型糖尿病の抑制に内臓脂肪 Treg 上の IL-7 受容体が重要、TSLP も血糖上昇抑制ー京大

QLifePro 医療ニュース - 2025/4/16 [https://www.qlifepro.com/news/20250416/t2d-il-7.html](https://www qlifepro.com/news/20250416/t2d-il-7.html)

▼関連リンク・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2025-04-03>

内臓脂肪など非リンパ組織の Treg に IL-7 が与える影響は？

京都大学は4月3日、内臓脂肪に存在する制御性T細胞（Treg）の生存維持にサイトカイン IL-7 の受容体（IL-7receptor:IL-7R）が必要であり、内臓脂肪で産生される IL-7 が2型糖尿病を抑制するために重要であることを発見したと発表した。この研究は、同大医学研究科の生田宏一特任教授（兼：医生物学研究所連携教授）、谷一靖江特定講師（研究当時）らの研究グループによるもの。研究成果は、「The Journal of Immunology」にオンライン掲載されて-----

腸内細菌叢に酪酸産生菌が多い子は鶏卵アレルギーが寛解しやすい 関西医科大学

大学ジャーナルオンライン - 2025/4/23 <https://univ-journal.jp/253423/>

関西医科大学医学部小児科学講座の金子一成教授、赤川翔平講師らの研究チームは、鶏卵アレルギーを有する小児のうち、酪酸産生菌である Faecalibacterium（フィーカリバクテリウム）が腸内細菌叢に豊富な患児は、将来の鶏卵アレルギーの寛解率が高いことを発見---

女性における「カフェイン摂取」と「認知症・認知障害」の関係、5,060 人のデータを解析

ウーマンズラボ - 2025/4/17 <https://womanslabo.com/news-women-250417-2>

本稿は、たちばな台クリニックの秋谷進医師による寄稿記事です。今回のテーマは、これまで明らかにされてこなかった女性のカフェイン摂取と認知機能の関連について。秋谷氏が医師人生の中で直面したエピソードも交えながら、米国の研究論文を考察していきます。脳の健康を維持しながら女性が人生 100 年を生き抜くカギの一つはカフェインと言えそうですが、重大なリスクにも目を向ける必要が-----

ワインによる各脂質レベルへの影響～メタ解析

CareNet.com - 2025/4/15 <https://www.carenet.com/news/general/carenet/60490>

ワイン摂取が脂質プロファイルに及ぼす影響について、これまで脂質をトリグリセライド、総コレステロール、LDL コレステロール、HDL コレステロール、フィブリノゲンに分けてメタ解析を行った研究はなかった。今回、スペイン・University of Castilla-La Mancha の Maribel Luceron-Lucas-Torres 氏らが系統的レビューとメタ解析を実施した結果、赤ワインによる LDL コレステロール減少効果が示された。The Journal of Nutrition, Health and Aging 誌 2025 年 6 月号に-----

“努力せず簡単に手に入る” 高カロリー食品だと快楽は低下、肥満になりやすい マウス実験で検証

[山下裕毅, ITmedia] - 2025/4/9

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2504/09/news061.html>

高カロリー食品は快楽をもたらすが、長期間の摂取は肥満に寄与する——米 UC バークレーやスイスのチューリッヒ大学などに所属する研究者らが発表した論文「Changes in neurotensin signalling drive hedonic devaluation in obesity」は、そんな内容の論文を発表した。脂肪と糖分が高い食品は、ヒトと動物の両方に快楽をもたらすが、長期間の摂取はその快楽価値を低下させ、肥満に寄与する可能性を示して-----

プロテアソーム研究で、くすみ発生メカニズムに新知見 表皮細胞でのプロテアソーム活性が高いとくすみ原因が解消する可能性

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

ポーラ化成工業株式会社 - 2025/4/10

https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20250410_2.pdf

ミカンの皮に含まれる成分で犬の認知症症状が改善

MONOist - 2025/4/10

<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2504/10/news021.html>

北里大学とエア・ウォーターは 2025 年 3 月 17 日、ミカンの皮を用いた老犬の認知症症状改善に関する共同研究の成果を発表した。ミカンの皮に含まれるフラボノイド成分を経口投与した老犬で、夜鳴きなど認知症症状の改善が認められ-----

名大、睡眠不足時の「眠気」が脳皮質に蓄積することを確認

マイナビニュース-2025/4/21 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250421-3209340/>

唾液から慢性的な睡眠不良を高確率で判定！ - 産総研などが新技術を開発

マイナビニュース-2025/4/22 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250422-3216774/>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 4 月 9 日～4 月 23 日掲載分から選定したものです。

サッカーパフォーマンスを向上するサプリは？ ネットワークメタ解析で 31 種類を比較調査

<https://sndj-web.jp/news/003300.php> (2025/4/11)

サッカーのパフォーマンスに対する 31 種類のサプリメントの効果を、ネットワークメタ解析によって比較検討した結果が報告された。走行距離、筋力、ジャンプ力、スプリントタイム、敏捷性などについて、それぞれの最大化に資するサプリが示されている。中国とマレーシアの研究者らの-----

中年期以降に食事の多様性が増すことは寿命に影響するのか？ JACC Study の 2 万人超を調査

<https://sndj-web.jp/news/003305.php> (2025/4/15)

食習慣が健康状態に強く関与していて、心血管死や癌死、および全死亡のリスクと関連のあることは広く知られている。しかし、人々の食習慣は人生の途中で変化することも少なくない。では、そのような変化が生じた場合に、死亡リスクも変化するのだろうか？ この疑問に対する一つの答となる日本人対象研究の結果が、「Journal of Epidemiology」に掲載された。国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 ヘルス・メディカル微生物研究センターの渡邊大輝氏、愛媛大学大学院農学研究科の丸山広達氏らが報告-----

「食事バランスガイド」は減塩にも利用できる 遵守によって尿ナトリウム比が下がる可能性

<https://sndj-web.jp/news/003306.php> (2025/4/21)

「食事バランスガイド」の推奨により近い食生活を送っている人ほど、尿中へのナトリウムとカリウムの排泄量の比（尿ナトリウム比〈尿 Na/K 比〉）が低いという関連のあることが報告された。国立がん研究センターなどが行っている次世代多目的コホート研究（JPHC-NEXT）妥当性研究のデータを解析した結果であり、奈良女子大学生活環境学部食物栄養学科の高地リベカ氏らによる論文が「Clinical Nutrition ESPEN」に掲載され、国立がん研究センターのサイトにニュースリリースが公開された。詳細な食事調査または採尿などにより食塩摂取量を定量的に評価しなくても、「食事バランスガイド」の遵守を心がけることで減塩につながる可能性を示唆する-----

食事に対する「リテラシー」と「動機づけ」が、健康的な食習慣や肥満予防と関連 東京大学

<https://sndj-web.jp/news/003313.php> (2025/4/21)

20～69歳の日本人 1,055 人を対象として、食にまつわるリテラシー（栄養成分表示の活用など 8 項目）と食に対する動機づけ（健康志向など 15 項目）を幅広く調査した結果、食事の質との関連を示す項目は、肥満との関連を示す項目と大きく異なることが明らかになった。東京大学の研究グループの研究によるもので、「Appetite」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが掲載され-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

キッコーマンが需給調整自動化システムの運用開始、物流負荷を軽減し在庫適正化

OMONOist - 2025/4/9 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2504/09/news056.html>

キッコーマン食品は 2025 年 4 月 7 日、需給調整の自動化により在庫の適正化を図る新システム「Naries（ナリエス）」の運用を、同年 4 月から開始したと発表した。同システムは Mt.SQUARE の支援を受けて開発されたもので、出荷予測から生産計画立案、需給の変動に応じた自動修正までを一貫して-----

東大、従来技術で困難だった厚みのある大型培養肉の生産に成功

マイナビニュース - 2025/4/17 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250417-3197596/>

■ その他

女性が満足している・満足していない社内の健康支援制度、女性と健康に関する調査

ウーマンズラボ - 2025/4/15 <https://womanslabo.com/news-women-250414-2>

経団連は今月 10 日、「女性と健康に関する調査結果」を公表した。企業における女性の健康支援制度の実態を調査したもので、先進的に取り組んでいる企業における支援制度の導入率や活用状況、経営層と現場の認識のギャップなどを明らかに-----

以上

健康食品等に関する 記事情報（日本語サイトより）2025 年 5 月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

業界を超えた連携でケミカルリサイクルの原料を非食品用途 PET へ拡大 ～国内初飲料用ペットボトル以外の PET 樹脂から飲料用ペットボトルへ再生～

キリンホールディングス株式会社 - 2025/4/21

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2025/0421_02.html

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下 キリン）、株式会社 JEPLAN（代表取締役 執行役員社長 高尾正樹、以下 JEPLAN）、TDK 株式会社（代表取締役 社長執行役員 CEO 齋藤昇、以下 TDK）、株式会社村田製作所（代表取締役社長 中島規巨、以下 村田製作所）、花王株式会社（代表取締役 社長執行役員 長谷部佳宏、以下 花王）、株式会社ファンケル（代表取締役 社長執行役員 三橋英記、以下 ファンケル）、キリンビバレッジ株式会社（代表取締役社長 井上一弘、以下 キリンビバレッジ）、ペトリファインテクノロジー株式会社（代表取締役 執行役員社長 伊賀大悟、以下 ペトリファインテクノロジー）、アサヒ飲料株式会社（代表取締役社長 米女太一、以下 アサヒ飲料）は、業界を超えた 9 社で連携し、飲料用ペットボトルと非食品用途 PET※1 を原料とするケミカルリサイクル※2（以下 CR）により、各種ペットボトルへリサイクルする取

り組みを開始します。なお、非食品用途 PET を原料に、飲料用ペットボトルとして再生する取り組みは国内初※3 となります。

※1 ポリエチレンテレフタレートの略

※2 分子レベルまで分解し、色素や金属などの不純物を取り除くことで、石油由来と同等品質の再生 PET 樹脂へ再生するリサイクル手法

※3 JEPLAN 調べ

本取り組みは、飲料用ペットボトルの CR 原料の一部を非食品用途 PET へ拡大していくことで、これまでのリサイクルでは十分なプラスチックの資源循環には至らないという課題に対応することを目的と-----

サステナビリティ経営の実現を目指す森永乳業

森永乳業の国内生産拠点※1 で購入する電力を実質再生可能エネルギー由来に 100%切り替え

森永乳業株式会社 - 2025/4/24

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4549.html>

森永乳業は、気候変動対策の一環として、再生可能エネルギー由来の電力を使用した CO₂ 排出削減の取り組みを進めてきましたが、このたび 2025 年 4 月より森永乳業の国内生産拠点すべての工場※1 で使用する電力を実質再生可能エネルギー由来に 100%切り替えましたので、ご報告いたします。また、現時点で国内での森永乳業グループ全体の生産拠点においても 9 割以上※2 の切り替えを達成しており、2026 年 4 月には 100%達成する計画です。各電力会社から購入する電力供給を CO₂フリープラン※3 とすることで、年間で実質 8 万トン以上の CO₂排出削減を計画しています。

※1 全国 11 カ所の直系工場

※2 直系工場含む全国 27 カ所中 25 か所で切り替え済

※3 再生可能エネルギー指定の非化石証書を活用することで、実質的に再生可能エネルギー100%かつ CO₂排出量ゼロの電気が利用できるプランのこと。

持続可能な農業の実現と環境負荷低減を目指して

キューピーとカゴメが未利用野菜資源のバイオ炭化で共同研究を開始

キューピー株式会社 - 2025/5/1

https://www.kewpie.com/newsrelease/items/2025/items/pdf/2025/newsrelease_20250501.pdf

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：高宮 満、以下キューピー）とカゴメ株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：山口 聡、以下カ

ゴメ)は、未利用野菜資源をバイオ炭化する取り組みについて共同研究を開始します。本研究は、野菜に関わる事業に注力する両社が協力して、野菜の栽培・加工に関するサステナビリティ課題を解決することを目指し、持続可能な農業の実現に貢献する取り組み----

■ 安全性関連情報

食品安全情報(化学物質) No. 9/ 2025 (2025. 04. 30)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202509c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【FAO】国際連合食糧農業機関

1. 2050年までに新たに出現する44の食品イノベーション

【FDA】米国食品医薬品局

1. HHSとFDAは国内のフードサプライにおける石油由来合成着色料の段階的廃止へ向かう
3. FDAはボトル入り飲料水に含まれるPFAS検査結果を公表する

■ 海外公的機関情報

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。更新確認日: 2025年5月12日

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

4. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、RNAiベースの遺伝子組換え植物のリスク評価における考慮事項に関するガイダンスを公表\(後半 2/2\)](#)
5. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、RNAiベースの遺伝子組換え植物のリスク評価における考慮事項に関するガイダンスを公表\(前半 1/2\)](#)
22. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、生乳チーズの熟成が活性のあるH5N1ウイルスを低減又は排除可能かどうかを調べる進行中の研究についての最新情報を公表](#)
31. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2025年3月3日~3月14日\)](#)

- 33. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物としてのプルラン\(E1204\)の再評価及びその用途拡張申請に関する科学的意見書を公表](#)
- 34. [英国毒性委員会\(COT\)「母体の食事におけるシトリニンの潜在的リスクに関する第一次声明案」を公表\(後半 2/2\)](#)
- 35. [英国毒性委員会\(COT\)「母体の食事におけるシトリニンの潜在的リスクに関する第一次声明案」を公表\(前半 1/2\)](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

「錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理(GMP)に関する指針(ガイドライン)」に係る項目解説及び自己点検表について(周知)(令和 7 年 5 月 2 日付け事務連絡)

消費者庁 - 2025/5/2

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/health_food/assets/cms_standards107_250502_01.pdf

(別添)錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理(GMP)自己点検表(項目解説)(令和 7 年 5 月 2 日付け)

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/health_food/assets/cms_standards107_250502_02.pdf

(別添)錠剤、カプセル剤等食品の製造管理及び品質管理(GMP)自己点検表(令和 7 年 5 月 2 日付け)

https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.caa.go.jp%2Fpolicies%2Fpolicy%2Fstandards_evaluation%2Fhealth_food%2Fassets%2Fcms_standards107_250502_03.docx&wdOrigin=BROWSELINK

厚生科学審議会食品衛生監視部会第 6 回機能性表示食品等の健康被害情報への対応に関する小委員会（第 1 小委員会） 配付資料

厚生労働省 - 2025/4/28

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_57095.html

加工食品のカーボンフットプリント（CFP）の令和6年度の算定実証の結果と算定ガイドの公表について

農林水産省 - 2025/4/23 https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/250423.html

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）（器具・容器包装における安全性審査の導入及び第一種特定化学物質の取扱い関係）に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/4/28

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110012&Mode=1>

食品表示に関するパンフレットを更新しました

消費者庁 - 2025/5/12

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/pamphlets

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

矢野経済研究所、和・洋菓子・デザート類市場に関する調査、アフターコロナの追い風が一巡するも引き続き市場拡大と予測

マイライフニュース - 2025/4/28 <https://www.mylifenews.net/drink-food/85394/>

矢野経済研究所は、国内の和・洋菓子、デザート類市場を調査し、製品セグメント別の動向、チャネル別の動向、参入企業の動向、将来展望を明らかにした。その結果、アフターコロナの追い風が一巡するも、引き続き市場拡大と予測。洋菓子類とアイス類の堅調な推移が市場拡大に貢献する見通し……

矢野経済研究所、国内の飲料受託製造市場に関する調査、市場は加工賃単価上昇で拡大も製造量では微増

マイライフニュース - 2025/5/12 <https://www.mylifenews.net/drink-food/86249/>

矢野経済研究所は、国内の清涼飲料の受託製造市場を調査し、エリア別、製品カテゴリー別の動向、参入企業動向、将来展望等を明らかにした。その結果、飲料受託製造市場は加工賃単価上昇で拡大も製造量では微増で、パッカーの受託機会減少と設備投資効率化が大きな

課題であることがわかった。ブランドオーナーとパッカーの戦略的パートナーシップと設備投資による競争力強化が成長の鍵とみら-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【DHA・EPA】世界市場で拡大続く、新原料や新知見も

健康メディア.com - 2025/5/8 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20752

DHA・EPA 市場が世界的に拡大している。肉食文化の米国では、オメガ3系脂肪酸をサプリメントで補う考えが浸透し、圧倒的な人気を誇る。国内においても、中性脂肪抑制や脳機能改善の定番サプリとして底堅い市場を形成しており、“魚離れ”によるDHA・EPAの摂取機会の減少を補う目的でもサプリメントの用途拡大が進む。原料は、魚油由来を中心に、藻類由来やクリルオイルが流通。高純度品や独自製法の新たな原料も登場するほか、藻類由来原料による新知見なども報告されて-----

【プロポリス】「抗菌」「抗ウイルス」で底堅い需要

健康メディア.com - 2025/5/8 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20741

新型コロナ感染拡大を機に注目度が高まったプロポリス。日本市場の特需はここ数年、落ち着きをみせているものの、ブランドオーナーは新規顧客獲得に向けた取り組みを強化している。産地や起源植物、製法による差別化を訴求するほか、「サステナブル」「ペット向け」「化粧品」などの提案が進んで-----

【アーユルヴェーダ】アンチエイジングやフェムケアなどに応用進む

健康メディア.com - 2025/5/8 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20738

世界的な高齢化を背景に、治療や未病領域において、インドの伝承医学「アーユルヴェーダ」を活用する動きが広まっている。約6,600種類ものハーブを活用する壮大な理論体系は、運動や瞑想などライフスタイルに合わせたオーダーメイドの健康管理に様々な方策を提供している。安全、安価、効果的な医療としてWHOも推奨しており、西洋医学や近代科学との融合により、原料や製品のエビデンス構築も進んで-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

2025 年度「腸内デザイン共創プロジェクト」始動～共創コミュニティを進化させ腸内デザイン事業のハブへ～

株式会社メタジェン - 2025/5/8 <https://metagen.co.jp/2025/05/08/20250507-1735/>

株式会社メタジェン（本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO 福田真嗣）は、最先端科学で腸内環境を制御する「腸内デザイン®」のコンセプトを共に広め、腸内デザイン市場の共創を目指す企業連携コミュニティ「腸内デザイン共創プロジェクト」を運営しています。2025 年度も志を共にする参画企業の皆さまと共に、研究開発・事業開発・啓発活動等を通じて、腸内環境から生活者の健康維持増進を目指す新たな事業の創出やその意義の普及に向けて活動を始動いたします。

■ 消費者意識等の調査・分析

2025 年の女性市場、トレンドキーワードは「わたし LOVER」 インサイト視点で読み解く女性の消費行動

ウーマンズラボ - 2025/4/24 <https://womanslabo.com/trend-250424-1>

本稿は、女性インサイト総研の株式会社ハー・ストーリィによる寄稿記事です。女性視点マーケティングで 30 年以上にわたり企業の商品開発やマーケティングを支援する同社が毎年発表する、女性市場のトレンドキーワード。今年は 2 月に発表しました。2025 年のトレンドキーワード「生活マージ」「倫理消費」「時産ウェル」を紐解きながら、最新の女性インサイトを解説し-----

[32101] お米に関するアンケート調査（第 6 回）

マイボイスコム株式会社 <https://myel.myvoice.jp/products/detail/32101>

[32104] 完全栄養食に関するアンケート調査（第 3 回）

マイボイスコム株式会社 <https://myel.myvoice.jp/products/detail/32104>

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

日本人の 2 型糖尿病、炭水化物摂取割合と心血管疾患との関連を明らかに一順大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/4/28

<https://www.qlifepro.com/news/20250428/t2d-japan.html>

▼関連リンク・順天堂大学 ニュース&イベント

<https://www.juntendo.ac.jp/news/22640.html>

食事の栄養素と心血管イベントや死亡のリスクの関連を調査

順天堂大学は4月17日、一日の摂取エネルギーに占める炭水化物の割合が高いことが、2型糖尿病を有する人の心血管イベントや死亡のリスクの増加と関連することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科代謝内分泌内科学の三田智也准教授、綿田裕孝教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism」のオンライン版に掲載されて----

時間栄養学のツール「CNBQ」開発、食行動を簡便に測定—東大

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/8 <https://www.qlifepro.com/news/20250508/cnbq.html>

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400263122.pdf>

「時間栄養学」では食に関する行動を包括的に測定する必要がある

東京大学は4月25日、時間栄養に関する幅広い行動を簡易的に評価することを目的としたツール「CNBQ」が、11日間にわたって収集された食事日記との比較において、十分な妥当性を有することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科社会予防疫学分野の村上健太郎教授、篠崎奈々助教、佐々木敏名誉教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity」に掲載されて-----

【中部大学】食用サボテンの腸内環境改善と免疫機能向上を確認—サボテンの健康食品への需要拡大に期待—

大学プレスセンター - 2025/5/12 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-56257.html>

中部大学大学院応用生物学研究科の横山さや香大学院生と食品栄養科学科管理栄養科学専攻及びサボテン・多肉植物研究センターの田中守准教授は、このたび食用サボテンであるウチワサボテンの摂取が免疫機能や腸内環境に及ぼす影響を動物実験で詳しく調べた。具体的にはウチワサボテンの小型種であるノパレア・コケニリフェラをマウスに継続的に摂取させ、腸内環境を改善し、腸管バリア機能を高めることを初めて明らかにした。特に、糞便中のムチン含有量が増加し、盲腸内容物の水素イオン濃度指数（pH）が低下するなど、整腸作用が認められた。また血清中免疫グロブリン（IgGとIgA）の有意な増加が確認され、全身免疫応答の強化作用をもつことも明らかと-----

年齢とともに”薄くなる肌”をビタミンCが防ぐ可能性

大学ジャーナルオンライン - 2025/5/10 <https://univ-journal.jp/253883/>

東京都健康長寿医療センター、北陸大学、ロート製薬株式会社の研究グループは、ビタミンが細胞増殖に関連する遺伝子の DNA 脱メチル化を介して、表皮角化細胞の増殖を促進することを発見した。年齢とともに薄くなる肌への新たなアプローチとなり得ると-----

運動による死亡リスク低下に男女間で有意差、生物学的性差に応じた対策の必要性が明らかに

ウーマンズラボ - 2025/5/1 <https://womanslabo.com/news-women-250501-1>

本稿は、たちばな台クリニックの秋谷進医師による寄稿記事です。今回のテーマは、運動効果の性差。女性の方が男性より運動量が少ないことは、よく知られている話ですが、運動による死亡リスク低下の効果にも性差があることは、初耳という人が多いのではないのでしょうか。性差に応じた運動の必要性が示唆された、興味深い研究報告を解説し-----

老化予防に関する研究を加速

ネムノキが老化細胞を取り除くことを実証し特許を取得

～ Glico グループ保有の約 6,000 種類の素材から発見 ～

江崎グリコ株式会社 - 2025/4/30

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/46991/>

江崎グリコ株式会社は、当社保有のライブラリーから特に食品への適合性がある約 6,000 種類の素材を候補として、老化の原因に作用する素材を探し出す研究を行いました。その結果、ネムノキが老化細胞を除去(セノリシス※)することを実証し、この度、特許(特許第 7659690 号)を取得しました。ネムノキによって老化細胞を除去する特許は国内初です。今後は、ヒトの老化に対する検証などのさらなる研究を進めてまいります。

※セノリシス・・・老化細胞を選択的に取り除くことを指し、seno（老化）+lysis（溶解）からつくられた言葉です。

ブラジル産グリーンプロポリスの特長成分アルテピリン C、脳への分布を確認

株式会社山田養蜂場 - 2025 年 4 月

https://www.bee-lab.jp/common/dl/newsrelease/2025/202504_01.pdf

株式会社山田養蜂場（所在地:岡山県苫田郡鏡野町、代表:山田英生）の自社研究所である、山田養蜂場 健康科学研究所は、岡山理科大学獣医学部 畑 明寿教授らとの共同研究にて、ブラジル産グリーンプロポリス（BGP）飲用後、BGP の特長成分であるアルテピリン C が、脳へ分布されることを明らかにしました。BGP は、認知機能に対する機能性が知られており、今後、特長成分が脳にもたらす有用性研究に期待が高まります-----

毛の根元でおこる真皮再生に着想し、 真皮再生の鍵因子プレイオトロフィンを発見 プレイオトロフィンの働きを高めるエキスも発見

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2025/5/7

ポーラ化成工業株式会社

https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20250507.pdf

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：片桐崇行）は、毛の根元周辺では歳を重ねても真皮が再生されていたことに着目し、下記を見出しました。

- ① 毛の根元の細胞から分泌される因子「プレイオトロフィン」が、周辺の細胞群に働きかけ、真皮を再生に導く
- ② 植物と海藻の複合エキ스가、プレイオトロフィンの働きを高める

本研究により、プレイオトロフィンが、ヒトの皮膚内で起こる日常的な皮膚再生の鍵因子であることが明らかになりました。これは、これまで研究が進んでいなかった、人の手による皮膚再生の実現につながりうる知見です。成果の一部は、2025 年 5 月 7 日～10 日に開催される米国研究皮膚科学会で発表され----

第一三共ヘルスケア、「肌の貯水力」を高める新たな処方技術を開発

マイナビニュース - 2025/5/12

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250512-3298899/>

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 4 月 24 日～5 月 13 日掲載分から選定したものです。

硝酸塩が運動パフォーマンスを改善 疲労耐性、走行距離、筋持久力、ピークパワーなどに有意な影響

<https://sndj-web.jp/news/003318.php> (2025/4/24)

ほうれん草やビート根などに豊富に含まれている硝酸塩の摂取が運動パフォーマンスに与える影響に関する、アンブレラレビューの結果が報告された。疲労困憊に至る時間、走行距離、筋持久力、ピークパワーなどに対する有意な影響が認められると-----

マラソンランナーの炭水化物摂取量が完走タイムに影響か？ サブスリ ーは“走りながらの補給”が有意に多い

<https://sndj-web.jp/news/003321.php> (2025/4/28)

マラソンランナーの競技前・競技中・競技後の栄養素摂取量と、完走タイムとの関連を検討したところ、記録が3時間未満のランナーと3時間超のランナーでは、競技中の炭水化物摂取量に有意差が認められたという結果が報告され-----

ω-3 脂肪酸はスポーツによる脳ダメージを抑制するか 神経フィラメン ト軽鎖の評価のメタ解析

<https://sndj-web.jp/news/003323.php> (2025/4/29)

コンタクトスポーツで近年問題が指摘されている、脳震盪を来さない程度の微小な脳へのダメージの蓄積抑制に、ω-3 脂肪酸が役立つ可能性を示唆する研究が報告された。脳神経損傷のマーカーである「神経フィラメント軽鎖 (Nf-L)」を用いた研究を対象とするメタ解析の結果であり、競技シーズン中の脳神経ダメージに対するω-3 脂肪酸摂取の影響は認められないが、シーズン後の評価結果には Nf-L が対プラセボで有意に低下すると-----

日本肥満学会が新たに FUS（女性の低体重/低栄養症候群）を提唱 瘦 せ志向の健康リスクを体系化し警鐘

<https://sndj-web.jp/news/003326.php> (2025/4/30)

日本肥満学会は4月17日、「女性の低体重/低栄養症候群 (Female Underweight/Undernutrition Syndrome ; FUS)」に関するステートメントを公開した。かねて社会問題として指摘されていた、日本の若年女性の痩せすぎ傾向を医学的に新たな症候群として位置付け、問題点を整理し対策をまとめた内容。肥満学会のホームページに掲載されている情報を紹介-----

筋トレ中の男性における5日間のクレアチン摂取で筋持久力が向上 ベ ンチプレスの反復回数と作業量が増加

<https://sndj-web.jp/news/003328.php> (2025/5/2)

筋力トレーニングを行っている男性が、高用量のクレアチンを5日間摂取することで、筋持久力が上昇したとする研究結果を紹介する。ブラジルで行われた研究で、昨年論文が発表され-----

試合前のタンパク質摂取量を増やすと疲労を抑え回復が促進される 女子ジュニアバスケット選手での検討

<https://sndj-web.jp/news/003329.php> (2025/5/7)

1日のタンパク質摂取量は変えず、試合前の摂取量を増やし、その他の食事では減らすようにアレンジすると、試合後の筋疲労が抑制され回復が促進されることを示唆する研究結果を紹介する。エジプトで行われた、ジュニア期の女子バスケットボール選手対象の研究の---

「記事情報（英語サイトより）2025年4月号 No.2」で紹介済みの論文情報ですが、詳しく解説されていますのであらためてご紹介いたします。

お茶に多く含まれる L-テアニンが睡眠の質を改善し、日中のパフォーマンス低下を軽減する可能性

<https://sndj-web.jp/news/003324.php> (2025/5/12)

茶に多く含まれている非タンパク質性アミノ酸である L-テアニンが睡眠に及ぼす影響を、システマティックレビューとメタ解析で検討した結果が報告された。入眠潜時、睡眠の質、日中の機能低下に対する有意な好ましい影響が確認されたという。ただし、他の成分と併用した研究が多く、“純粋な” L-テアニンに関する研究が不足していることを著者らは指摘して-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

ウイスキーを蒸留する際に出る廃水で育てた藻類（オメガ3脂肪酸の供給源）を養殖魚の餌にすることです。

オメガ3市場2兆円規模も、サブリ生産で魚の乱獲が問題に 商機につなげたスコットランド企業

ウーマンズラボ - 2025/5/2 <https://womanslabo.com/news-women-250502-3>

心疾患や脳卒中のリスク低下などの健康効果で知られる、オメガ3脂肪酸。不安症状の軽減や母親の産後の不適切療育行動の軽減なども報告され、人々の健康意識の向上や高齢社会を背景に、今国内外で需要が拡大している。調査会社 IMARC によれば、世界のオメガ3サ

プリメント市場は 2023 年の 79 億ドル（約 1.1 兆円）から、2032 年には 147 億ドル（約 2 兆円）にまで拡大する見通しで、世界的に有望視される成長市場-----

アルカリイオン水でお茶をいれると緑茶ポリフェノール量が増加

MONOist - 2025/4/23 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2504/23/news035.html>

パナソニック くらしアプライアンス社は 2025 年 4 月 3 日、アルカリイオン水で緑茶をいれると、緑茶に含まれるポリフェノールが天然飲用水の最大 2.8 倍に増加することを確認したと発表-----

言葉のイメージに合致する香りを自動創作する「香り生成 AI」 東京科学大学が開発

大学ジャーナルオンライン - 2025/5/2 <https://univ-journal.jp/253652/>

東京科学大学の研究チームは、言語表現に対応した香りを自動創作する香り生成 AI を開発した。

新しい香りの創作（調香）は、訓練を受けた専門家であっても意図した香りを得るには多大な労力と時間を要する作業である。そこで本研究チームは、生成系 AI の一つである拡散モデルを使用した香りの創作手法を開発-----

■ その他の科学・技術情報

AI データ、食品業界の異物混入・品質事故に即応する AI トレーサビリティシステムの提供を開始

IoT NEWS - 2025/5/12 <https://iotnews.jp/manufacturing/263237/>

食品業界では、異物混入やアレルギー表示ミスといった品質関連事故を防ぐ必要があり、製品の製造・流通過程における「履歴の可視化」や「責任の所在の明確化」が求められている。こうした中、AI データ株式会社は、食品製造業界における異物混入や品質クレーム対応を支援する、製品単位のデジタルトレーサビリティ管理システム「HyperJ」と、AI ナレッジエンジン「AI 孔明 on IDX」を統合した新ソリューション「HyperJ×AI 孔明 on IDX」の提供を、2025 年 5 月 12 日より開始したと発表-----

英文情報サイト Foodnavigator-asia に、5 月 5 日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[ジャパン フォーカス：アサヒの APAC における野望、酪農及び肉用牛部門の改革、乳製品の新規制など](#)

[ブラン ニュー： キューピー、Nestle、Mengniu など、ビッグ ブランドが勢揃い](#)

[インドア フォーカス： Lotte のワン インディア計画、HUL 決算、ビーガンロゴ規定](#)

[チャイナ フォーカス： クリーンラベル製品とケージフリー卵の需要、植物由来のイノベーション](#)

[ANZ フォーカス： オージー スーパーマーケット調査、Fonterra 決算、Suntory biotics](#)

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025 年 5 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質） No. 10/ 2025（2025. 05. 14）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202510c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【FAO】 国連食糧農業機関

1. 安全なイノベーションを支援する：FAO はフードサプリメント及び機能性食品または健康食品に関する食品安全上の留意点を強調
 3. Codex
- 第 11 回穀類・豆類部会（CCCPL11）

● 欧州食品安全機関（EFSA）

4. 食品添加物関連
 - 食品添加物としてのアセスルファム K(E 950)の再評価
 - 食品添加物としてのアセスルファム K(E 950)の再評価：わかりやすい要約
 - 食品添加物としての銀(E 174)の再評価のフォローアップ(EFSA - Q - 2023 - 00169)
6. 新規食品関連
 - 新規食品としてのクラミドモナス（*Chlamydomonas reinhardtii*、和名：コナミドリムシ）THN 6 の乾燥バイオマス粉末
 - 新規食品としての 3 - フコシルラクトース（3 - FL)の使用拡大の安全性

● 英国 食品基準庁（FSA）

6. 規制製品安全性評価
 - フードサプリメントに使用する新規食品としてのカンナビジオール(CBD)の安全性評価(RP294)
 - フードサプリメントを含む様々な食品カテゴリーに使用する新規食品としてのカンナビジオール(CBD)単離物の安全性評価(RP340)

● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）

1. ワインに含まれるトリフルオロ酢酸(TFA)

現状の知見によると、健康への障害は予想されていない

● 米国食品医薬品局（FDA）

1. FDA は外国製造施設への抜き打ち査察の適用拡大を発表する

● 米国環境保護庁（EPA）

2. Zeldin 長官が PFAS 汚染対策に向けた EPA の主要措置を発表する

● 米国農務省（USDA）

1. FSIS が PFAS サンプルング結果に関する論文を発表

■ 海外公的機関情報

米環境保護庁、PFAS 関連企業に対するデータ提出の報告期間開始を再延期（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2025/5/19

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/05/9e15658945074218.html>

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年 5 月 14 日

見出しのクリックで内容をご覧頂けます。

24. [米国環境保護庁\(EPA\)、飲料水中のフッ化物に関する新しい科学を迅速に検討すると公表](#)
43. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、クランベリー由来の粉末 Pacran\(登録商標\)及び下部尿路の細菌性病原体に対する防御：規則\(EC\)No 1924/2006 の第 13 条\(5\)に基づく健康強調表示の評価に関する科学的意見書を公表](#)
52. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ゲノム編集及び CRISPR/Cas9 に関する Q&A を更新](#)
55. [欧州委員会の「植物、動物、食品及び飼料に関する常任委員会 新食品及びフードチェーンの毒性学的安全性部門」は委員会議事録\(委員会開催日:2025 年 2 月 27 日\)を公表](#)
56. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2025 年 3 月 31 日～4 月 4 日\)](#)
60. [米国保健福祉省\(HHS\)、米国を再び健康にするための変革について発表](#)
70. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、イソフラボン含有食品の摂取による健康リスク及び集団給食施設でそれらを提供する際に生じ得る事例を評価した意見書・報告書を公表](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について（令和7年1月～3月）

消費者庁 - 2025/5/16

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms213_250516_01.pdf

消費者庁は、令和7年1月から3月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している108事業者による157商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善指導を行うとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を依頼しました。消費者庁は、引き続き、健康食品等の広告その他の表示に対する継続的な監視を実施し、法に基づく適切な措置を講じてまいります。

■ 行政・法令関連情報（その他）

「日本農林規格等に関する法律施行規則の一部を改正する省令案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/5/15

<https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550004087&Mode=1>

加工食品の期限表示の設定等に関する実態調査報告書

消費者庁 - 2025/5/23

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/research/2024/

第10版食品添加物公定書の付録1の差し替え

消費者庁 - 2025/5/26

https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/food_additives/official_002/

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【スポーツニュートリション】エビデンス充実、原料開発・提案活発に

健康メディア.com - 2025/5/21 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20814

スポーツ領域における素材開発、提案が活発だ。アミノ酸をはじめ、様々な機能性素材が流通。原料メーカー各社では、運動パフォーマンスの向上、筋力や持久力、集中力の維持・向上、運動継続のモチベーション向上、熱中症対策、疲労感軽減、関節・骨折ケアなど、運動前から運動後における様々なビデンスデータをもとに、用途提案を進めている。拡大続くプロテインは、製品ラッシュが続き、粉末品市場は 800 億円に到達したとみられる。一方、商品淘汰も始まっており、原料メーカー各社では、“由来原料+α”の高付加価値化が-----

【血流改善サポート（夏の冷え対策）】血流・血管ケア市場、拡大続く

健康メディア.com - 2025/5/21 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20809

人体最大の臓器である血管の健康を維持し、体の隅々にまで血液を届けることは、様々な疾病の予防や未病ケアに繋がる。毛細血管の形状や本数、長さ等を計測・解析する技術、疾病との相関性を導き出す研究の進歩は目覚ましく、毛細血管の状態が健康指標の 1 つになりつつある。血流改善・血管ケア市場は盛り上がりを見せ、健康食品・サプリメント分野では、血管・血流分野の機能性表示食品の受理数は、この 1 年で約 100 品増加した。加温や皮膚刺激により血流を改善させる家庭用医療機器など Non-Foods 市場も堅調を維持。市場は拡大を続け-----

【アクティブシニアサポート】シニアのヘルスリテラシー向上、市場成長続く

健康メディア.com - 2025/5/21 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20805

総人口における 65 歳以上の人口割合が 3 割に迫る中、医療費や介護費用の高騰が深刻化している。一方で、昨今のシニア層は、健康維持のために積極的に運動を実践しており、体力テストの結果は 20 年前と比較して向上傾向にあるなど、ヘルスリテラシーが高い人が多い。健康食品業界にとってもシニア層の健康維持に役立つ製品は、大きなビジネスチャンスになることから、骨や筋肉をサポートする健食・サプリメント開発は活発化している。機能性表示食品の受理品数は、骨・筋肉分野を合わせると 500 品を超え、機能性表示食品の受理総数の 1 割弱を占めるまでに。既存原料でシニア層の骨・筋肉に対する新たなエビデンス取得に動くサプライヤーも見られるなど、今後も市場成長が見込ま-----

【注目の機能性キノコ】 海外市場引き続き活況

健康メディア.com - 2025/5/21 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20799

機能性キノコは、薬局・薬店、統合医療ルートなど従来の販路を堅持しながら、通販や動物病院でも販売が伸びている。免疫サポート向け製品がメインだったが、近年は睡眠、認知機能、フェムケアなどの機能性研究が進展。エビデンスデータの蓄積を背景に、新たな販路開拓に繋がっている。生鮮食品の分野でも、美味しさと機能性を付与するキノコの上市が続き、キノコ市場全体は活況を呈している。また、米国では数年前からキノコブームが続いており、サプリメントだけでなく、プロテインやお菓子など一般食品にまで利用が進んでおり、日本の霊芝やシイタケ、ヤマブシタケが注目され-----

【鮫肝油】 高齢者ユーザーが底支え

健康メディア.com - 2025/5/21 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20796

鮫肝油は、健食業界で長年に亘り利用されている。近年は、原料サプライヤーによる新規漁場の開拓が実り、捕獲量は安定している。供給面における不安要素はないものの、水産資源の持続的利用の観点から、漁師らと一層の連携強化を図る動きもみられる。最終製品では、高齢者ユーザーから支持が高い鮫肝油は、ロングラン製品が多い。コロナ禍で日常の免疫ケアが浸透し、新たなユーザー獲得も。また、訪日外国人観光客数が増え、アジアで認知が高い鮫肝油は、インバウンド需要が回復基調にある。一方、国内市場では古くて新しい健康素材として、シニア世代以外のユーザーの裾野を広げる取り組みが求められて-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

成長が鈍化する美容・パーソナル業界、消費者が重視していることは？

2025 年の 5 つの世界トレンド

ウーマンズラボ - 2025/5/23 <https://womanslabo.com/news-women-250523-4>

英調査会社のユーロモニターが、世界の美容・パーソナルケア業界を取り巻く 2025 年の主要トレンドをまとめた。同社の健康・美容インサイトマネージャーのヤン・フー氏は、「美容・パーソナルケア業界では成長の鈍化が見られ、『価値』の概念が再定義されつつある。ただ贅沢であればいい時代は終わり、本質的な価値に目を向けた選択が求められてる」と指摘した上で、次の 5 つのトレンドを紹介して-----

■ 消費者意識等の調査・分析

女性が「使って良かった」美容・健康食品は？ ダイエット&ヘルス大賞 2025

ウーマンズラボ - 2025/5/20 <https://womanslabo.com/trend-250520-3>

美容・健康のウェブメディア『FYTTE』は毎月19日、「FYTTE ダイエット&ヘルス大賞 2025」を発表した。健康・美容・ダイエットに関心の高い読者とコミュニティメンバー1,800名を対象にアンケートを実施し、全21部門で「使ってよかった」「使ってみたい」アイテムをランキング形式で選出-----

ファンケル健康ビッグデータ調査 第2弾

3万人分の「ストレスの有無」と「食事・睡眠・運動」の関係性を解析

～ ストレスに負けない体づくりには、鉄分と生活習慣のバランスが重要 ～

株式会社ファンケル - 2025/5/15

https://www.fancl.jp/news/20250046/news_20250046.html

株式会社ファンケルは、オーダーメイドサプリ「パーソナルワン」の販売を通じて蓄積した食習慣・生活習慣アンケートの回答と尿検査の結果から、初回購入時20歳から69歳の男女(33,246人)でストレスの有無と食品の摂取頻度、BMI、運動習慣、および睡眠時間との関係性を解析し-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

季節で変化する疾患リスク、ヒト近縁霊長類を用いてその分子基盤を明らかに一名大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/15

<https://www qlifepro.com/news/20250515/seasonal-changes-gabp.html>

▼関連リンク・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2025/04/80.html>

生理機能や疾患罹患率の季節変化、制御するメカニズムは未解明

名古屋大学は4月30日、ヒトに近縁な霊長類のアカゲザルの全身80組織について、1年を通して網羅的な季節の遺伝子発現地図を作製し、さまざまな生理機能や疾患の1年のリズムを制御する分子基盤を明らかにしたと発表した。この研究は、同大トランスフォーマティブ生命分子研究所(WPI-ITbM)および大学院生命農学研究科の吉村崇教授、陳君鳳特任助教、沖村光佑博士、任亮博士、京都大学ヒト行動進化研究センターの今井啓雄教授、大石高生准教授、宮部貴子助教、龍谷大学農学部(現 名古屋大学生物機能開発利用研究センタ

一)の永野惇教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Communications」にオンライン掲載されて-----

ストレスで腸脳相関に異常が起こり糖嗜好性変化の可能性、マウスで解明－東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/20

<https://www qlifepro.com/news/20250520/sglt1-2.html>

▼関連リンク・東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 ニュース

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/news/topics/20250507140000.html>

「糖に対する好み」が形成されるメカニズムは不明

東京大学は5月7日、マウスにおいて糖摂取後数秒以内に求心性迷走神経が活性化し、その情報が前頭皮質の神経細胞（ニューロン）およびアストロサイトを活性化することを見出したと発表した。この研究は、同大学院総合文化研究科の原田一貴助教（当時）と坪井貴司教授、お茶の水女子大学理学部生物学科の山田芹華氏（当時）、同大基幹研究院自然科学系の毛内祐助教、東京都医学総合研究所の夏堀晃世主席研究員らの研究グループによるもの。研究成果は、「iScience」に掲載されて-----

血糖値制御にセロトニン産生酵素「Tph1」が関与することを発見－東北大

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/26 <https://www qlifepro.com/news/20250526/tph1.html>

▼関連リンク・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2025/05/press20250509-03-tryptophan.html>

セロトニン産生酵素 Tph1、脂肪肝との関連も報告されている

東北大学は5月9日、セロトニン産生酵素であるトリプトファンヒドロキシラーゼ1

（Tph1）が必須アミノ酸のトリプトファンと血糖値を制御することを発見したと発表した。この研究は、同大先端量子ビーム科学研究センターの野々垣勝則教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「International Journal of Molecular Sciences」のオンライン版に掲載されて-----

肝臓が「肥満」状態を感知してβ細胞を増やすメカニズムを解明－東北大

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/26

<https://www qlifepro.com/news/20250526/obesity-10.html>

▼関連リンク・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2025/05/press202509-04-Colonic.html>

肝臓が肥満を感知する仕組みは未解明だった

東北大学は5月9日、大腸炎症がインスリン産生を促す仕組みを解明したと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科糖尿病代謝・内分泌内科学分野および東北大学病院糖尿病代謝・内分泌内科の今井淳太特命教授、久保晴丸医師（現北里大学病院 内分泌代謝内科助教）、片桐秀樹教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「JCI Insight」に掲載されて-----

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/27

<https://www.qlifepro.com/news/20250527/olfaction-fibronectin.html>

▼関連リンク・東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部 研究成果

<https://www.qlifepro.com/news/20250527/olfaction-fibronectin.html>

微量の匂い物質が嗅覚受容体を活性化する仕組みは不明だった

東京大学は5月15日、細胞外マトリクス糖タンパク質「フィブロネクチン」が嗅覚受容体の匂い応答を促進することを発見したと発表した。この研究は、同大学院農学生命科学研究科の東原和成教授、大学院医学系研究科の近藤健二教授らの研究グループと、味の素株式会社の伊地知千織氏の共同研究によるもの。研究成果は、「Science Advances」に掲載されて-----

口腔細菌叢の乱れは腸内細菌叢の乱れ

— 歯周病に罹患すると腸内細菌叢が乱れて全身に悪影響の恐れ —

理化学研究所 - 2025/5/22 https://www.riken.jp/press/2025/20250522_1/index.html

新潟大学

群馬大学

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 粘膜システム研究チームの山崎 和久 客員主管研究員（新潟大学 名誉教授）、宮内 栄治 客員研究員（群馬大学 生体調節研究所 粘膜エコシステム制御分野 准教授）、大野 博司 チームディレクターらの国際共同研究グループは、歯周病[1]以外に全身的な疾患のない患者と歯周病を含む全身的な疾患のない健康な対象者の唾液、ならびにふん便中の細菌叢（そう）を網羅的に解析し、歯周病患者では唾液中の細菌叢だけでなく腸内細菌叢にも乱れが生じていることを突き止めました。また、歯周病を治療することで唾液中の細菌叢だけでなく、腸内細菌叢も変化することを明らかに---

糖嗜好性の調節に腸から脳へのシグナル伝達経路が関与する可能性

大学ジャーナルオンライン - 2025/5/23 <https://univ-journal.jp/254053/?cn-reloaded=1>

東京大学大学院、お茶の水女子大学、東京都医学総合研究所の研究チームは、マウスにおける糖嗜好性の調節機構の一端を明らかにした。腸管での糖の取り込みが求心性迷走神経を

活性化し、脳の前頭皮質を活性化することで糖の含まれる食べ物を好んで摂る（糖嗜好性）行動を促す可能性を見出し-----

【日本大学】健康食品として使用される天然由来脂質が脳や脊髄の炎症を抑える新機能を発見--アルツハイマー病などの神経変性疾患の新たな治療戦略として期待--

大学プレスセンター - 2025/5/27 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-56349.html>

1 概 要

日本大学薬学部薬理学研究室の小菅康弘教授らの研究グループは、株式会社シー・アクト（坪井誠代表取締役、東京都千代田区）と共同で、天然由来の油脂である「ペンタデシル」に、脳の免疫細胞であるミクログリアの異常な活性化で引き起こされる炎症反応を抑制する機能性があることを突き止めた。特に、炎症を引き起こすサイトカインを作り出すためのスイッチ役である転写因子の活性化を、「ペンタデシル」が抑制するというメカニズムも世界に先駆けて見出した。この成果は、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）といった、ミクログリアの異常活性化が深く関わる神経変性疾患に対する、新しい治療法や予防法の開発につながると期待している。本研究成果は、同学院薬学研究科の鶴田こむぎ大学院生（博士課程4年）を筆頭著者とし、国際的な学術雑誌である International Immunopharmacology 誌の 2025 年 6 月 17 日発行号に掲載される予定-----

追記：今回機能が確認された「ペンタデシル」はペンタデカン酸（C15:0）を豊富に含むものですが、ペンタデカン酸については、バンドウイルカを用いた最近の研究で、海馬におけるアミロイドβ形成と神経炎症の抑制につながる効果が期待される作用が確認されています（同日付け「英語サイトより」でご紹介。<https://www.mdpi.com/1422-0067/26/8/3746>）。

デジタル技術を活用した高血圧対策ソリューション、指針を公開

AMED

ウーマンズラボ - 2025/5/27 <https://womanslabo.com/news-women-250527-3>

AMED は 3 月、「デジタル技術を活用した血圧管理に関する指針」を公開した。高血圧の治療・予防・管理において、ウェアラブルデバイスやスマホアプリ、AI などのデジタル技術への期待が高まっている一方で、技術の有用性が科学的に実証されていないことから、日本高血圧学会が作成した。血圧管理に関連する 6 つのデジタル技術（家庭血圧モニタリング、ウェアラブル機器、尿中ナトリウム・カリウム比、スマホアプリ、遠隔医療・保健指導、AI）の血圧低下作用について、現時点でのエビデンスを整理した。概要は以下動画で視聴-----

マイクロ RNA の一種である miR-365a に細胞老化抑制とコラーゲン・エラスチン産生促進作用を確認

miR-365a を多く含むヤギミルク由来エクソソームを化粧品に応用

株式会社ファンケル - 2025/5/19

https://www.fancl.jp/news/20250045/news_20250045.html

株式会社ファンケルは、シワやたるみの予防や改善を目的とし、それらのメカニズムの解明や美容成分の探索を進めています。その解明の要となる「細胞」に着目し、皮膚内にある脂肪由来間葉系幹細胞（ADSCs）¹⁾から分泌されるエクソソーム²⁾に含まれる特定のマイクロ RNA（miRNA）³⁾が、皮膚の老化抑制に関与することを、当社で明らかにしています。今回、その miRNA の一種である miR-365a を高含有するヤギミルク由来エクソソームが、皮膚細胞の老化抑制およびコラーゲン・エラスチンの産生促進作用を持つことを確認しました。本研究結果を生かし、エイジングケア化粧品の開発に応用していき-----

フェイシャルエステが女性の脳を活性化、ストレス軽減効果を明らかに

ウーマンズラボ - 2025/5/22 <https://womanslabo.com/news-women-250522-4>

日本メナード化粧品と名古屋大学が共同で、フェイシャルエステが脳活動に与える影響を解析したところ、施術が海馬・島皮質・吻側前頭皮質を活性化し、心地よさやストレス軽減につながる事がわかった-----

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 5 月 14 日～5 月 27 日掲載分から選定したものです。

前号、記事情報（日本語サイトより）2025 年 5 月号 No.2 で、他のサイトの記事を取り上げましたが、再度ご紹介します。

女性アスリートの運動後の筋タンパク質合成刺激には、ロイシンなら 0.6g で十分な可能性

<https://sndj-web.jp/news/003373.php> (2025/5/14)

レクリエーションレベルの運動を行っている女性が、運動後に必須アミノ酸 1.5g、ホエイプロテイン 15g、同 20g のいずれかを摂取し比較した結果、筋原線維タンパク質合成（MyoPS）速度に有意差はみられないという研究結果が報告された。著者らは、女性の場合、MyoPS 刺激は、主として男性を対象とする研究から確立された従来の推奨よりも、少量のアミノ酸で十分なのではないかと述べている。米国、英国、オランダの研究者らの報告で、米国生理学会のジャーナル「American journal of physiology. Endocrinology and metabolism」に論文が掲載され-----

閉経後の脂質代謝改善には低 GI 食と運動タイミングが鍵？ 女性の代謝改善に関する新研究 早稲田大学

<https://sndj-web.jp/news/003375.php> (2025/5/15)

閉経後女性の食後脂質・糖代謝を改善することの重要性と、最適な運動タイミングが明らかにされた。早稲田大学の研究グループの研究によるもので、「European Journal of Clinical Nutrition」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが掲載された。運動の 60 分前よりも、120 分前に低グリセミック食品を摂ることにより、運動後の脂質代謝が促進するという。一方、運動中の代謝や運動後の食欲への影響はみられないとの-----

東京大学が世界で初めて開発した、時間栄養学の簡易評価ツール「CNBQ」の妥当性を検証

<https://sndj-web.jp/news/003377.php> (2025/5/17)

時間栄養に関する幅広い行動を簡易的に評価することを目的とする「Chrono-Nutrition Behavior Questionnaire ; CNBQ」の妥当性が報告された。東京大学の研究グループの研究によるもので、著者らは CNBQ を、食行動や睡眠行動を十分な妥当性をもって測定できる、世界初の簡易ツール」だとしている。「International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが掲載され-----

スポーツによる胃腸トラブルに関する科学的対策、栄養・食事・水分補給の指針を提言 豪スポーツ栄養士会・超持久系競技科学財団

<https://sndj-web.jp/news/003381.php> (2025/5/20)

オーストラリアのスポーツ栄養士会（Sports Dietitians Australia）と超持久系スポーツ科学財団（Ultra Sports Science Foundation）はこのほど、運動に伴う胃腸障害の症状の予防・管理に関する実践的ガイドとして、共同声明（joint position statement）を発表した。文献レビューに基づく詳細なステートメントの提示と解説がなされている。そのうちの、イントロダクション、および推奨部分のみから一部を抜粋して要約-----

クレアチンの有害事象発生率はプラセボと同等 約 700 件の臨床試験や有害事象報告のデータ解析

<https://sndj-web.jp/news/003384.php> (2025/5/21)

クレアチンサプリメントの安全性を、これまでに報告された 700 件近くの臨床試験や世界各国の有害事象報告データベースを統合して検討した結果が報告された。また、ソーシャルメディア（SNS）上での発言を分析し、クレアチンサプリに対する懸念を述べる人の存在についての検討も行われている。結論としては、クレアチンサプリ摂取後の有害事象の発生率はプラセボ摂取後と差がないこと、SNS 上の発言は概して中立的だが、強い肯定を主張する意見に比較して強い否定的意見の主張の割合が多いことなどが報告されて-----

競泳パフォーマンスに効果があるサプリは？ システマティックレビューとメタ解析

<https://sndj-web.jp/news/003385.php> (2025/5/22)

競泳のパフォーマンスに対するサプリメント摂取の効果を、最もエビデンスレベルの高い研究手法である、システマティックレビューとメタ解析で検討した結果が報告された。クレアチンは有意な効果が証明され、その他のサプリについては全体としては非有意という結果が示されて-----

低炭水化物ダイエットで痛風リスク上昇、ただしタンパク質・脂質を植物性食品から摂ればリスク抑制

<https://sndj-web.jp/news/003386.php> (2025/5/23)

低炭水化物ダイエットによって、痛風ハイリスク状態である「高尿酸血症」になりやすくなること、ただし、減らした炭水化物のエネルギーを植物性食品で代替すれば、リスクは上がらない可能性があることが報告された。また、このような関係は、BMI が 23.5 以上の場合に有意であって、23.5 未満の集団では有意でないという。日本と同様に米を主食とし、食習慣が類似している韓国の国民健康栄養調査のデータを解析-----

食事にかかる時間と食事の形態の関連を検証 肥満予防や栄養改善に応用できる可能性 藤田医科大学

<https://sndj-web.jp/news/003383.php> (2025/5/25)

食べ物の形態が、食事にかかる時間、咀嚼回数、咀嚼テンポに影響することが明らかになった。藤田医科大学の研究グループの研究によるもので、「Nutrients」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが掲載され-----

高カロリー時間制限食と筋力トレーニング併用による効果は？ 筋肥大・筋力・脂肪量への影響を比較試験で解析

<https://sndj-web.jp/news/003387.php> (2025/5/26)

1 日の中である時間帯のみ摂取量を気にせずに飲食し、その他の時間帯はカロリーのあるものを一切絶つという、「時間制限食」と呼ばれる食事スタイルが、減量や代謝改善を目指す人の間で人気となっている。では、ふだん筋力トレーニングを行っている人がこのような食事スタイルを採用した場合、トレーニング効果が変化するのだろうか。この疑問について、摂取カロリーを+10%とする条件下での無作為化比較試験で検討した結果が報告され----

■ その他の食品関連科学・技術情報

【酪農学園大学】貯蔵性の異なるタマネギのフルクタン代謝酵素活性の違いが明らかに～高貯蔵性タマネギの育成や機能性維持に適した貯蔵技術開発への貢献に期待

大学プレスセンター - 2025/5/20 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-56325.html>

酪農学園大学（北海道江別市）農食環境学群食と健康学類の上野敬司教授、北海道大学大学院（札幌市北区）農学研究院の志村華子教授、農研機構・東北農業研究センター（岩手県盛岡市）の奥聡史研究員らの研究グループは、タマネギ貯蔵中にフルクタンが減少する速度は品種により異なることを示し、この減少にはフルクタン合成および分解酵素が関与することを明らかにした。この研究により、高貯蔵性タマネギ系統の育成やフルクタンを維持する貯蔵技術の開発などに貢献することが期待される。研究成果は糖質科学に関する学術誌『Journal of Applied Glycoscience』に掲載-----

■ その他の科学・技術情報

生体情報を用いて心理状態の解釈をトータルサポートするシステムを発売

MONOist - 2025/5/16 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2505/16/news064.html>

島津製作所は 2025 年 4 月 22 日、筋電位や心拍、心電、脳波、行動など複数の生体信号と動画データを統合し、人の心理状態や感性、感情の解釈を支援するマルチデバイス生体計測システム「HuME（ヒューム、Human Metrics Explorer）」を発売し-----

ベタつかない保湿オイルを実現する乳化技術 迅速浸透でアトピーにも有効

MONOist - 2025/5/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2505/14/news071.html>

コスメディ製薬は2025年5月13日、経皮吸収治療（TTS）研究と皮膚浸透理論に基づく新しい乳化技術「レシソーム」の開発に成功し、同技術のOEM／ODMサービスを開始したと発表-----

咳や嚥下を引き起こす新しい感覚器官を喉で発見 ビールの「のどごし」に関係か、京都府立医大など

「サイエンスポータル」（科学技術振興機構） - 2025/5/26
https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20250526_n01/index.html

■ その他

化粧品開発の現場から探る美容市場の最新動向、トレンド・ニーズ・技術の融合で生まれた製品5選

ウーマンズラボ - 2025/5/20 <https://womanslabo.com/market-250520-4>

本稿は、化粧品の原料販売やOEM・ODM事業を行うホシケミカルズ株式会社による寄稿記事です。前回の「異業種から化粧品市場への参入動向」に続き今回のテーマは、化粧品アイテムの開発トレンド。同社が保有する顧客データと化粧品開発の具体的な事例を取り上げながら、最新の開発トレンドを見ていき-----

以上

健康食品等に関する

記事情報（日本語サイトより）2025年6月号 No.1

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

厚生科学審議会食品衛生監視部会第7回機能性表示食品等の健康被害情報への対応に関する小委員会（第2小委員会） 配付資料

厚生労働省 - 2025/5/26

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_58030.html

食品安全情報（化学物質））No. 11/ 2025（2025. 05. 28）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202511c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【EFSA】 欧州食品安全機関

1. 食品に含まれる過塩素酸塩に関するヒトの健康上のリスクについての科学的意見の更新

【BfR】 ドイツ連邦リスク評価研究所

4. EDKAR 研究：青年におけるエナジードリンクの摂取と健康影響に関するデータ収集完了 初めてのデータ評価からは心臓への心配な影響は示されていない

【RIVM】 オランダ国立公衆衛生環境研究所

1. ビタミン B6：食品およびダイエタリーサプリメントに添加可能な最大量 シナリオを用いた数学的実証

【FDA】 米国食品医薬品局

1. FDA は天然由来の着色料 3 種類を承認する

3. FDA はフードサプライの安全と健康を守るため、堅牢で透明性の高い市販後化学物質レビュープログラムを推進する
8. FDA は包装前面の栄養成分表示を提案する
9. FDA と NIH は、革新的な共同栄養規制科学プログラムを発表する

【EPA】 米国環境保護庁

1. EPA は PFOA と PFOS の最大汚染レベルを維持すると発表する

【NIH】 米国国立衛生研究所

1. 出産前のダイエタリーサプリメントに関する NIH ワークショップ：根拠のギャップと研究の必要性

■ 海外公的機関情報

以下は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム** (<https://www.fsc.go.jp/fsciiis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：
[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

今回は期間中に更新情報はありませんでした。

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）（器具・容器包装関係）に関する御意見の募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/5/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110007&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110007&Mode=1)

「ウスターソース類の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/5/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003929&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003929&Mode=1)

「令和 6 年度における景品表示法等の運用状況及び表示等の適正化への取組」の公表について

消費者庁 - 2025/5/29 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/042438/>

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

矢野経済研究所、健康・機能性食品素材（44 素材）市場に関する調査、2023 年度の市場規模は前年度比 102.9%と好調に推移

マイライフニュース - 2025/6/9 <https://www.mylifenews.net/drink-food/88810/>

矢野経済研究所は、国内の健康・機能性食品素材（原料）市場を調査し、各素材別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。その結果、2023 年度の健康・機能性食品素材（44 素材）の市場規模は、前年度比 102.9%と好調に推移していることがわかった。健康被害による影響や手続き変更で機能性表示食品の届出受理件数は鈍化も、新分野の開拓や海外展開に向けた動きの活発化によって市場は緩やかに拡大して----

全世代の健康課題に対応するニュートリション市場、1.1 兆円へ 完全栄養食や高齢者向け食品が押し上げ

ウーマンズラボ - 2025/6/9 <https://womanslabo.com/market-250609-2>

矢野経済研究所は今月 5 日、国内のニュートリション（栄養）市場の調査結果を発表した。少子高齢化や被介護高齢者の増加、労働者のストレス増大と食生活の偏り、生活習慣病の若年化などを背景に、0 歳から 100 歳に至る全世代を対象としたニュートリションの重要性が改めて見直されており、2023 年度の市場規模は以下 9 分野合計で約 1 兆 1,297 億円、2030 年度には 1 兆 3,357 億円まで拡大する見込----

国内清涼飲料の受託製造市場は 5700 億円に、コロナ禍前の規模に回復

MONOist - 2025/5/30 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2505/30/news048.html>

矢野経済研究所は、国内の清涼飲料受託製造市場に関する調査結果を発表した。2024 年度の市場規模は 5700 億円で、2019 年度水準まで回復する見込みだ。市場拡大の主な要因は、加工賃単価の上昇と分析して----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【美肌】V字回復、市場拡大のキーワードは？

健康メディア.com - 2025/6/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20858

コロナ初期には打撃を受けた美肌・美容サプリメントではあるが、中期以降、マスク着用の常態化、アルコール消毒の多用による肌トラブル対策として、市場は順調に回復。その後、インバウンド需要の復活もV字回復に拍車をかけた。原料サプライヤーでは保湿、弾力サポート、抗シワ・シミ、紫外線対策、アクネ菌対策など、各社各様の“美肌エビデンス”を積み上げ、独自原料の開発、体感性や汎用性の向上に取り組んで-----

【コラーゲンペプチド】国内販売量 5,614 トンに

健康メディア.com - 2025/6/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20853

美容訴求の代表素材として安定した売上をみせるコラーゲンペプチド。近年では膝の違和感や不快感の軽減を表示する機能性表示食品も数多く登場し、受理品は100品目前に。さらにここ数年はタンパク増強を目的にプロテインとの併用を目的とした商品開発が進んでいるほか、プロテインの代替素材としても注目されるなど世界的にコラーゲンニーズが高まっている。こうした需要増を背景に、中国から新規原料サプライヤーが日本のみならず世界市場にも参入してきており、価格競争が激化しつつ-----

【抗肥満・抗メタボ】米国で GLP-1 がトレンドに

健康メディア.com - 2025/6/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20850

受理総数 9,700 品を超えた機能性表示食品。なかでも中性脂肪低下や内臓脂肪低下など、抗メタボ領域の機能性表示食品は約半数を占める主要カテゴリーとして制度開始以降、存在感を示す。今年から PRISMA2020 準拠での SR が求められ各社対応に追われるが、ここに来て徐々に新準拠 SR での受理が登場するなど、紅麹以降トーンダウンしていた機能性表示食品の利用について活発化の兆しが見える。海外に目を移すと、メタボ大国の米国で関心を集めるのが「GLP-1」に注目した商品の登場だ。GLP-1 は血糖値を下げるホルモンで、近年国内でも「GLP-1 ダイエット」などと称して、GLP-1 受容体作動薬を自由診療枠で受けるケースが増えるなど話題と-----

【オーツ麦】「プレバイオティクス」「高い栄養価」で注目

健康メディア.com - 2025/6/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20844

海外トレンド“オーツ麦”が日本市場にも波及している。オーツ麦を加工したオートミールやシリアル、オーツミルクは高い栄養価などが評価され、コロナ禍ではダイエット需要を取り込んだ。オートミールはこの1年、コメの高騰を受けてかさ増し用途も。オーツミルクはプラントベースミルクの潮流も追い風に市場を形成、牛乳と比較して低カロリー・低脂質という特徴や食物繊維を謳った商品化が進んでいる。オーツ麦の学術研究では、善玉菌やコレステロールなどをテーマとする研究成果も報告されている。腸活に関心が高まる中、サブライヤーサイドでは「美味しさ」「機能性」にスポットをあてた提案を活発化-----

【プロテオグリカン】関節、美容の商品開発で新規採用増

健康メディア.com - 2025/6/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20847

プロテオグリカンの市場拡大が続いている。プロテオグリカンに関与成分とする機能性表示食品は前年比2割増の180品目。関節・美容系の豊富なエビデンスが評価され、高齢者や女性層向けの新商品開発を中心に採用が増加しており、サプリメントや化粧品はもとより、ドリンクやグミ、ゼリー、ペットフードといった分野にまで採用が拡大している。大学や医療機関における新知見解明も進むほか、産学共同開発の新原料も登場して-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

【セミナーレポート】Natural Products Expo West 2025 視察で見えた、ウェルネスマーケティングのこれから

ウェルネス総研レポート online - 2025/5/29 <https://wellnesslab-report.jp/3694/>

健康食品に関する世界最大級の展示会「Natural Products Expo West（ナチュラルプロダクト・エキスポ・ウエスト）」が今年もアメリカ・アナハイムで開催されました。そこでは、注目を集めるロンジェビティ（Longevity、健康長寿）やGLP-1（Glucagon-like peptide-1）といったビッグトレンドはもちろん、一時は縮小傾向にあったプラントベース肉代替品市場の復活、ポストバイオティクスの進化とその動向など、商品設計やマーケティング戦略を立案する上で欠かせない情報が数多く紹介されています。

ここでは、その背景や日本と海外との相違、現地視察を踏まえた上で見えてきた「世界のトレンドから考えるウェルネスマーケティングのこれから～Natural Products Expo West 2025 レポート～」（主催：株式会社インテグレート、登壇者：株式会社インテグレート 代表取締役 CEO／本総研理事 藤田康人氏）についてレポート-----

■ 消費者意識等の調査・分析

カゴメ、全国一斉ナトカリ意識調査、高血圧予防として“減塩”を心がけている人の約5割が「うまく続けられていない」と回答

マイライフニュース - 2025/6/10 <https://www.mylifenews.net/drink-food/89035/>

カゴメは、高血圧予防のために減塩が広く知られている一方で、減塩を継続することの難しさを感じている人が多い実態と、それをサポートする手段として普及が進んでいる「ナトカリ」の実践状況を明らかにするために、血圧に関心のある20～69歳男女4700名を対象に、「全国一斉ナトカリ意識調査」を実施した。その結果、高血圧予防として“減塩”を心がけている人の約5割が「うまく続けられていない」と回答した。また、「ナトカリ」を意識・行動実践している県民1位は「長崎県」であることが-----

[32205] プラントベースフードに関するアンケート調査（第3回）

マイボイスコム <https://myel.myvoice.jp/products/detail/32205>

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

植物油に含まれる「ガンマリノレン酸」にスパズム抑制機能があることを発見－東邦大

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/30

<https://www qlifepro.com/news/20250530/gamma-linolenic-acid-2.html>

▼関連リンク・東邦大学 プレスリリース

https://www.toho-u.ac.jp/press/2025_index/20250521-1492.html

ガンマリノレン酸がTP受容体の働きを阻害するかをブタの冠動脈で検証

東邦大学は5月21日、植物油に含まれる天然脂肪酸「ガンマリノレン酸」（GLA）に、冠動脈のけいれん（スパズム）を選択的に抑制する作用があることを発見したと発表した。この研究は、同大薬学部薬理学教室の小原圭将准教授、吉岡健人講師、田中芳夫教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Pharmacological Sciences」に掲載されて-----

クミン摂取で、性差を伴う体組成・脂質代謝の改善を確認－慈恵医大

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/30

<https://www qlifepro.com/news/20250530/cuminum-cyminum-1.html>

▼関連リンク・東京慈恵会医科大学 プレスリリース

<https://www.jikei.ac.jp/press/detail/?id=36564>

世界初、性差着目でクミンの生理的効果を明らかに

東京慈恵会医科大学は5月21日、クミン（*Cuminum cyminum* L.）の摂取が、性差を伴って体組成および脂質代謝に有益な変化をもたらす可能性があることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大リハビリテーション医学講座の鈴木慎助教と安保雅博教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cureus」に掲載されて----

2 型糖尿病、低糖質・高タンパク食がモデルマウスの認知機能を改善－ **群馬大**

QLifePro 医療ニュース - 2025/5/29 <https://www qlifepro.com/news/20250529/lc-hp.html>
▼関連リンク・群馬大学 プレスリリース <https://www.gunma-u.ac.jp/information/199862>

LC-HP 食は糖尿病による認知機能低下を改善できるか？

群馬大学は5月21日、2型糖尿病モデルマウスにおいて、4週間の低糖質・高タンパク質（LC-HP）食摂取が空間記憶機能を改善させることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学共同教育学部の島孟留准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「The Journal of Nutritional Biochemistry」のオンライン版に掲載されて----

日本庭園でストレス軽減、効果の仕組みを科学的に解明－長崎大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2025/6/5
<https://www qlifepro.com/news/20250603/japanese-garden-viewing.html>
▼関連リンク・長崎大学 プレスリリース
<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/science/science391.html>

「日本庭園はリラックスする」科学的根拠は？

長崎大学は5月22日、日本庭園鑑賞がヒトのストレス減少に与える効果に関する研究結果を発表した。この研究は、同大環境科学部の五島聖子教授、ピッツバーグ大学医学部のヘラップ・カール教授、蘇州科技大学建築都市計画学院の孫ビンカイ准教授、京都大学工学部の山口敬太教授、信州大学人文学部の高瀬弘樹教授、京都芸術大学の加藤友規教授、長崎大学 ICT 基盤センターの古賀掲維准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Frontiers in Neuro Science」に掲載されて-----

穀類に含まれるフェルラ酸に「腸の収縮抑制」作用があることを発見－ **東邦大**

QLifePro 医療ニュース - 2025/6/6 <https://www qlifepro.com/news/20250606/fa.html>
▼関連リンク・東邦大学 プレスリリース
https://www.toho-u.ac.jp/press/2025_index/20250523-1493.html

フェルラ酸の腸の運動に対する直接的な影響を、モルモットの回腸で検証

東邦大学は5月20日、米ぬかや穀類に含まれる天然成分「フェルラ酸（FA）」に、腸の筋肉の収縮を抑える作用があることを発見したと発表した。この研究は、同大薬学部薬理学教室の小原圭将准教授、吉岡健人講師、田中芳夫教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Pharmacological Sciences」に掲載されて-----

炎症を制御する新たな分子を発見　―過剰な炎症を防ぐ仕組みの一端を解明―

理化学研究所 - 2025/6/3 https://www.riken.jp/press/2025/20250603_2/index.html

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 炎症制御研究チーム（研究当時）の杉本晶子 テクニカルスタッフ I（研究当時、現 感染免疫研究チーム テクニカルスタッフ I）、田中 貴志 チームリーダー（研究当時、現 免疫器官形成研究チーム 客員研究員）らの研究チームは、F ボックスタンパク質[1]の一つである Fbxo16 が炎症反応を抑制することを発見しました。

本研究成果は、炎症性疾患や自己免疫疾患[2]の治療を目的とした、人為的な免疫制御法の開発に貢献すると期待され-----

大妻女子大学の青江誠一郎教授らによる研究成果が国際学術誌「Food Science & Nutrition」に掲載

― 昆布の連続摂取に体脂肪量・体脂肪率の低下、収縮期血圧の低下等の効果

大学プレスセンター - 2025/6/3 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-56398.html>

大妻女子大学（東京都千代田区）家政学部食物学科の青江誠一郎教授は、北海道昆布漁業振興協会（事務局：北海道漁業協同組合連合会）との共同で2014年から、日本人を対象とした加工昆布の連続摂取による研究を行っている。同研究により示された成果「体脂肪量、体脂肪率を低下させる効果」「収縮期血圧を低下させる効果」「腸内細菌叢を改善する効果」は、2024年9月に第71回日本栄養改善学会学術総会において発表。2025年5月には、国際学術誌「Food Science & Nutrition」に論文が掲載され-----

線虫を用いた研究です。

ドライフルーツ「デーツ」の摂取で平均寿命が延びる 広島工業大学など発見

大学ジャーナルオンライン - 2025/6/5 <https://univ-journal.jp/254918/>

広島工業大学環境学部食健康科学科の角川幸治教授、広島大学大学院統合生命科学研究科の水沼正樹教授と荒川賢治教授、お多福醸造株式会社は、線虫を用いた研究で、ドライフルーツの一種であるナツメヤシ属の果実「デーツ」に平均寿命の延長効果を発見-----

Glico 独自のビフィズス菌 Bifidobacterium animalis subsp. lactis GCL2505 と水溶性食物繊維イヌリンによる「腸内細菌叢への影響」と「短鎖脂肪酸の産生」をヒト試験で確認日本農芸化学会の英文誌「Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry」に掲載されました

江崎グリコ株式会社 - 2025/5/29

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/47057/>

ナノ化ミノキシジルによる早い発毛効果とそのメカニズムを解明

大学プレスセンター - 2025/6/3 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-56445.html>

大正製薬株式会社〔本社：東京都豊島区 社長：上原茂〕（以下、「大正製薬」）と、近畿大学薬学部医療薬学科製剤学研究室教授 長井紀章は、共同研究を実施し、発毛成分であるミノキシジルをナノ粒子化する技術を開発しました。マウスを用いた実験により、ナノ粒子化されたミノキシジルが毛包へと効率的に送達され、発毛に関わる細胞が活性化し、発毛効果を早める可能性が示唆されました。なお、本研究の一部は Biological and Pharmaceutical Bulletin に掲載され-----

肌の"うるおいタンク"を拡張、至高のうるおいハリ肌へ

細胞間脂質の構造に着目し角層の貯水力をアップする新技術

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2025/5/28

ポーラ化成工業株式会社

https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20250528_1.pdf

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、肌の角層の細胞間脂質中に水分（＝うるおい）を保持できる水層があることに着目し、その容量を増大することで細胞間脂質のうるおいを飛躍的に向上する技術を構築しました。本技術は、角層がうるおいを含み、膨潤したハリ肌を実現する手段として活用され-----

黒鉛とダイヤモンドの違いから着想 透明感を達成する製剤技術

角層に働きかけ透明性をアップし光を取り込む

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2025/5/28

ポーラ化成工業株式会社

https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20250528_2.pdf

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：片桐崇行）は、角層の透明性を上げる技術により、従来技術では達成できなかった透明感を実現しま-----

「健康関数®」の登場で疲労対策は新たなフェーズへ。世界をリードする日本の疲労研究のいま

ウェルネス総研レポート online - 2025/6/10 <https://wellnesslab-report.jp/3723/>

疲れがとれない、集中力が続かない、不眠などの「疲労」に関連する研究は、ウェルネス市場において常に関心が高いテーマのひとつです。しかしながら、疲労は数値化することが難しく、疲労度を把握しようにも本人の感覚に委ねざるを得ないことや、疲労回復のメカニズムが複雑ゆえ一人一人に合った対策法が提示しづらいなど、課題も多い分野でもありました。それが近年、日本の疲労研究が大きく飛躍し、いま、世界から注目されています。今回は、日本疲労学会・理事長で、日本の疲労研究を牽引する神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の渡辺恭良先生に、日本の疲労研究の歩みと、現在の取り組み、今後の展開についてうかがい-----

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025 年 5 月 28 日～6 月 11 日掲載分から選定したものです。

ビタミン D の充足度が日本人高校生アスリートの筋力と相関 1,000IU のサプリ摂取が必要な可能性

<https://sndj-web.jp/news/003389.php> (2025/5/28)

国内の高校生アスリートを対象とする横断研究から、血清ビタミン D レベルと筋力との関連を示す結果が報告された。さらに、6 カ月にわたり 1,000IU のサプリメントを摂取するという介入により、ビタミン D レベルが上昇し、かつ筋力上昇にもつながり得ることが示された。専門学校健祥会学園の武田英二氏らの研究であり、論文が「The Journal of Medical Investigation」に掲載され-----

主要栄養素摂取量と睡眠の質との有意な関連が、女性持久系アスリート対象の横断研究で明らかに

<https://sndj-web.jp/news/003393.php> (2025/5/30)

国内の女性持久系アスリートを対象として、栄養素摂取量と睡眠の質との関連を検討した研究結果が報告された。1 日のタンパク質摂取量が多いことや、夕食時の炭水化物摂取量が多いことは睡眠の質の高さと正の関連があり、脂質の摂取量が多いことは負の関連があると

いう。順天堂大学スポーツ健康科学部の鯉川なつえ氏、鈴木良雄氏、順天堂医院睡眠・呼吸障害センターの葛西隆敏氏らが行ったパイロット研究によるもので、「Nutrients」に論文が掲載され-----

時間栄養学研究の食行動と肥満の関連は、調査法によって結果が異なる 東京大学

<https://sndj-web.jp/news/003376.php> (2025/5/31)

20～69歳の日本人1,047人を対象として、時間栄養学からみた食行動を幅広く調査した結果、時間栄養学的食行動と食事の質および肥満との関連は、時間栄養学的行動をどのような方法で調べるかによって大きく異なることが明らかにされた。東京大学の研究グループの研究によるもので、「Nutrition Journal」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが掲載された。研究グループでは、「本研究は時間栄養学的行動と食事の質および肥満との関連を、異なる二つの調査法（質問票法と日記法）を用いて検討した世界で初めての研究であり、この成果は、世界で急速に進む時間栄養学分野において、調査方法を慎重に吟味することの必要性を強調する貴重な科学的根拠となることが期待される」と----

炭水化物の質が高いほどスポーツが楽しく感じる？ モチベーションの持続や燃え尽きリスク抑制の可能性

<https://sndj-web.jp/news/003395.php> (2025/6/2)

ふだん摂取している炭水化物食品の“質”の高さが、身体活動を楽しいと感じる強さと正相関し、燃え尽き症候群の程度とは逆相関するという研究結果が報告された。トルコで行われた、アスリート対象横断研究の-----

睡眠不足が運動能力に及ぼす影響を検証 起床時刻が早い睡眠不足は瞬発力や筋力低下に直結

<https://sndj-web.jp/news/003401.php> (2025/6/5)

睡眠不足によるスポーツパフォーマンスへの影響に関するシステマティックレビューとメタ解析の結果が報告された。アスリートと非アスリートによる違い、就寝時刻が遅いのか起床時刻が早いのかの違い、評価のタイミングが午前中か午後かの違い、持久力、スピード、瞬発力、筋力などによる影響の違いが明らかにされて-----

食事日記と個別化フィードバックの組み合わせで栄養状態が改善し、健康行動が長続きする 東北大学

<https://sndj-web.jp/news/003394.php> (2025/6/7)

食事日記を継続的に記録し、そのフィードバックを得ることで栄養摂取が改善し、それによってウェルビーイングが向上する可能性のあることが明らかになった。東北大学などの研究グループの研究によるもので、「Nutrients」に論文が掲載されるとともに、大学のサイトにプレスリリースが掲載された。著者らは、生活習慣病予防のための健康支援プログラムや、企業の健康経営への応用にも期待される成果だとして-----

プロバイオティクスの体組成、運動誘発性筋損傷後の回復、パフォーマンスに及ぼす影響のメタ解析

<https://sndj-web.jp/news/003405.php> (2025/6/10)

アスリートのプロバイオティクス摂取に関する、システマティックレビューとメタ解析の結果が報告された。体組成と VO2max などに対する有意な影響が認められるものの、エビデンスの確実性は低～中等度であり、さらなる研究が求められると述べられて-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

動物の筋肉からアミノ酸の一種 "D-スレオニン(D-Thr)" を世界で初めて検出

大学プレスセンター - 2025/5/28 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-56356.html>

高知大学総合科学系生命環境医学部門の松川和嗣准教授、鹿児島大学、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ（HMT）による共同研究チームは、牛肉の品質やおいしさに関わる重要な低分子化合物を発見しました。

アミノ酸にはL体とD体の鏡像異性体があり、通常はL体が生体内で主に使われますが、HMTらが開発したキラル誘導体化 LC-TOF/MS 法により、D/L-アミノ酸を高感度かつ精確に識別可能となりました。この手法を用いて、牛の筋肉からD-セリン、D-アスパラギン酸、D-スレオニンを検出。特にD-スレオニンは、動物の筋肉組織から世界で初めて検出された例であり、牛肉の熟成や風味に関する新たな知見が期待され-----

IoT や AI、ロボットを駆使した日清製粉のスマートファクトリーが稼働

MONOist - 2025/6/9 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2506/09/news030.html>

日清製粉は2025年5月26日、2023年5月より岡山県倉敷市の臨海部で建設を進めていた「水島工場」が完成し、本格稼働を開始したと発表した。

総工費は約 180 億円で、業務用小麦粉を生産する。1 日当たりの小麦挽砕能力は 2 ラインで 550 トン (t)、小麦粉サイロ収容力は 4200t、立体自動倉庫収容力は 20 万袋 (1 袋 25kg で 5000t) の設備能力を-----

食品の“口どけ”を見える化する - 咀嚼シミュレータに新機能が追加搭載

マイナビニュース - 2025/6/10

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250610-3350436/>

UV 光で食品鮮度を維持、環境に優しい小型チップを開発 シンガポール

アジア科学技術ニュース (科学技術振興機構) - 2025/5/28

https://spap.jst.go.jp/asean/news/250505/topic_na_02.html

■ その他の科学・技術情報

人間とロボットが感覚を共有、新技術を共同開発 韓国 GIST と米国 MIT

韓国科学技術ニュース (科学技術振興機構) - 2025/6/4

https://spap.jst.go.jp/korea/news/250601/topic_nk_03.html

■ その他

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に、6 月 9 日付けで各地域関連記事を紹介する日本語版ハイライトが掲載されていたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧できます。

[サステナビリティ スニペット : PepsiCo のアクセラレーター、アップサイクルペストリー、ハイブリッドプロテイン](#)

以上

健康食品等に関する

記事情報 (日本語サイトより) 2025 年 6 月号 No.2

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ ピックアップ情報

スルーして頂きたい記事情報を、編者の見識・感性（多少の思い入れ）に基づきピックアップしたセクションとご理解下さい。

ネスカフェが再生農業での調達目標を達成、1年前倒しで

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2025/6/19

<https://www.alterna.co.jp/156985/>

ネスレはこのほど、同社が展開する世界最大のコーヒーブランド「ネスカフェ」が掲げた再生農業関連の目標を1年前倒しで達成したと発表した。同社は2025年までにネスカフェで調達するコーヒー豆のうち、20%を再生農業で育てた豆に切り替える目標を掲げていたが、この目標を2024年に達成した形だ。再生農業とは、化学肥料や農薬使用量を減らし、土壌の健全性や生物多様性などの保護・再生につなげる栽培方法を指す。（オルタナ輪番編集長＝池田真隆）

大手食品卸がNPOと連携、フェアトレードコーヒーの調達1.5倍へ

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2025/6/24

<https://www.alterna.co.jp/157202/>

業務用食品卸売企業であるトーホーは 6 月 23 日、NPO と連携し、国際フェアトレード認証コーヒーの調達を強化していくと公表した。同社は、認定 NPO 法人フェアトレード・ラベル・ジャパン（東京・中央）とフェアトレード戦略的パートナーシップを締結した。2035 年 1 月期までに国際フェアトレード認証コーヒーの調達量を 1.5 倍（2025 年 1 月期対比）に増やすことを目指す。（オルタナ輪番編集長＝池田真隆）

サステナ商品の売上高成長率は非サステナ商品より高い傾向に

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2025/6/19

<https://www.alterna.co.jp/156968/>

英市場調査会社のユーロモニター（本社ロンドン）はこのほど、サステナビリティ商品の小売売上高の年平均成長率（CAGR）は、非サステナビリティ商品と比べて高い傾向にあると公表した。米国や英国、日本など主要 25 カ国を対象に調べた。特に美容関連製品については、成分や製品の作り方までこだわる消費者が増えていることが分かった。（オルタナ輪番編集長＝池田真隆）

■ 安全性関連情報

妊娠中の血中 PFAS 濃度 4 歳児の発達に影響見られず エコチル調査

大学ジャーナルオンライン - 2025/6/14 <https://univ-journal.jp/255342/>

欧米の研究で一部の物質が有害とされる PFAS（人工的に作られた有機フッ素化合物）の妊娠中血中濃度と 4 歳児の発達について、エコチル調査北海道ユニットセンター（北海道大学）の伊藤真利子特任講師、岸玲子特別招聘教授らが関連を調べたところ、胎児期の PFAS へのばく露と発達の遅れの間には関連が見られなかった-----

食品安全情報（化学物質）No. 12/ 2025（2025. 06. 11）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2025/foodinfo202512c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【FAO】 国連食糧農業機関

1. FAO の新しいレビューが腸内マイクロバイオーーム及びヒトの健康への食品添加物の影響を語る
2. 世界の栄養と健康のための魚の安全性

【COT】 英国毒性委員会

1. 妊娠中のショウガサプリメント使用の安全性に関する声明

【ANSES】 フランス食品・環境・労働衛生安全庁

1. ヒ素の食事暴露量をより正確に測定するための革新的な方法

■ 海外公的機関情報

米 FDA の動向と関連していると考えられますので、こちらに掲載いたします。

米クラフト・ハイツ、2027 年末までに米国で販売される製品から合成着色料の使用を終了（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2025/6/19

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/06/21c77a36eecd98c.html>

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報の中から、気になったものを選定しました。確認日：2025 年

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

2025 年 6 月 25 日 11 時の時点で、更新情報はありませんでした。

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

令和 6 年度 食品表示に関する消費者意向調査報告書（アンケート）

消費者庁 - 2025/6/20

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/research/2024/assets/food_labeling_cms201_250620_01.pdf

食品表示基準の一部を改正する内閣府令（案）に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/6/13

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&id=235080083&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/detail?CLASSNAME=PCMMSTDDETAIL&id=235080083&Mode=0)

器具及び容器包装の原材料に含まれる物質の含有量等に関する安全性審査の手続（案）についての意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/6/25

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110015&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=235110015&Mode=1)

「即席めんの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/6/25

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003937&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003937&Mode=1)

「人工光型植物工場における葉菜類の栽培環境管理の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2025/6/25

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003939&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/1040?CLASSNAME=PCM1040&id=550003939&Mode=1)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

健康・機能性食品の市場規模 2,496 億円、紅麴問題による影響は軽微も国内市場は鈍化 アジアでの展開が活発に

ウーマンズラボ - 2025/6/23 <https://womanslabo.com/market-250623-4>

矢野経済研究所は今月、2023 年度の健康・機能性食品 44 素材（※）の市場調査の結果を発表した。前年比 2.9%増の 2,496 億 1,100 万円で、市場は引き続き緩やかな拡大傾向に。

44 素材の合計流通量は前年比 1.0%増の 9 万 4,553 トンで、一般食品用途での利用が後押し

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

【NMN】成長期から安定期に突入

健康メディア.com - 2025/6/18 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20873

今年で食薬区分 5 年目を迎えた NMN 市場は新たな局面を迎えている。原料および受託企業各社への取材では「前年比微減」「原料供給は好調」など明暗が分かれた。本紙が行った 2025 年の健康食品受託製造企業への調査で、人気受注素材ランキングでは昨年の 1 位から 2 位につけたものの上位にランクイン。インバウンド需要が落ち着く一方、国内ボリュームゾーンへ舵を取る傾向も見られる。臨床研究も着実に増えており、機能性表示食品は、2023 年の第 1 号から現在は 14 品まで拡大。美肌訴求に加え、筋力維持、睡眠の質改善など幅広い層にアピールできる要素が整って-----

【カロテノイド】アイケアに加え、スポーツ用途に拡大

健康メディア.com - 2025/6/18 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/20870

カロテノイドは、緑黄色野菜や藻類、植物から抽出される天然色素。物性面・機能面共に幅広い食品用途として利用されている。健食分野ではアイケアに加え、肌、骨サポート、筋肉量維持など豊富な機能性を有する。長い食歴があり、エビデンスの蓄積も活発になっている。また、ルテインは子供から高齢者まで全世代に摂取が必要な成分として利用が進んでいる。カロテノイド類を配合した機能性表示食品は、800 品を超えており、紫外線対策、抗疲労、スポーツニュートリションなど新たな市場拡大が見込ま-----

■ 市場・企業動向・トレンド、注目ビジネス情報

ヘルスケア企業が今後注力したいサービス領域をランキング、「女性特有の健康課題」は 5 位に 117 社を調査

ウーマンズラボ - 2025/6/12 <https://womanslabo.com/market-250424-3>

ヘルスケア市場の拡大に伴い、異業種からの相次ぐ参入とともにソリューションの多様化・細分化が進んでいるが、業界サイドの全体像はどうなっているのだろうか？AMED がヘルスケア領域で事業を行う企業を対象に、各社が現在展開している製品・サービスの領域や提供方法、今後注力したいと考えている領域を調査したところ、超高齢社会や働き世代の

健康など、社会トレンドを反映する結果となった。これから活況となるヘルスケアビジネスを3つの言葉でキーワード化するなら、「生活習慣病」「メンタルヘルス」「加齢に伴う健康課題」と言え-----

今後伸びるのは「アクティブシニア」「節約志向」「パーソナライゼーション」、トレンドマップ 2025 年上半期

ウーマンズラボ - 2025/6/19 <https://womanslabo.com/market-250619-2>

日経クロストrend（日経 BP）が、今後伸びるビジネスをまとめた「トレンドマップ 2025 上半期」を発表した。

目次

1. 注目の消費トレンドは「アクティブシニア世代」「節約志向」
2. 収益性が見込めるのは「パーソナライゼーション」、最下位は「メタバース」
3. 女性ヘルスケアビジネスの戦略ハンドブック 2025

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

ヒアルロン酸による光老化抑制効果を発見

—オリゴヒアルロン酸 4 糖（HA4）の新たな抗炎症・抗老化メカニズムを解明—

ロート製薬株式会社 - 2025/6/6

https://www.rohto.co.jp/research/researchnews/technologyrelease/2025/0606_01/

ロート製薬株式会社（本社：大阪市、社長：杉本雅史）は、健康的な肌を維持し、目や皮膚などあらゆる組織に備わる成分であるヒアルロン酸に着目し、その多様な機能と可能性の研究をすすめています。今回、愛媛大学大学院医学系研究科皮膚科学との共同研究にて超低分子ヒアルロン酸であるオリゴヒアルロン酸 4 糖（以下、HA4）の光老化抑制効果に関する研究を行い、新たな抗炎症・抗老化メカニズムの解明に至りました。本研究の成果は、2025 年 5 月 7 日～10 日に米国サンディエゴで開催された「2025 SID Annual Meeting（米国皮膚科学会年次総会）」にて発表されました。また、本研究論文は、国際学術誌「Frontiers in Immunology」へ掲載され-----

L-シトルリンに関わる遺伝的要因の違いが血管老化の症状と関連することを発見

キリンホールディングス株式会社 - 2025/6/11

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2025/0611_01.html

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下キリン）のヘルスサイエンス研究所（所長 村島弘一郎）は、株式会社アルム（社長 CEO 大谷駿明）との共同研究により、血管老化に関わる遺伝的要因を探索する研究において、「日本人における L-シトルリン※1 代謝経路の一塩基多型（以下、SNP）※2 と血管老化に関わる健康状態との関連性」を明らかにしました。当研究成果は 2025 年 5 月 29 日に「PLOS One」で発表しています※3。

※1 ウリ科の植物に多く含まれるアミノ酸の一種で、血流を良くし、血管をしなやかに保つ効果が期待されます。

※2 DNA の塩基配列における個人差のひとつで、1 つの塩基が別の塩基に置き換わる多様性

※3 [Dai Nogimura et al., SNP associations in the L-citrulline metabolic pathway and vascular aging in the Japanese population. 2025.](#)

プラズマサイトイド樹状細胞「pDC」の活性と、老化によって進行する「フレイル」に関係性があることを世界で初めて確認

キリンホールディングス株式会社 - 2025/6/12

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2025/0612_01.html

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志、以下キリン）のヘルスサイエンス研究所（所長 村島弘一郎）と国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター（理事長 荒井秀典、以下国立長寿研）ジェロサイエンス研究センターの丸山光生※1 は、共同研究の結果、世界で初めて※2「フレイル※3」と「pDC（プラズマサイトイド樹状細胞 以下 pDC）活性」に関係性があることを確認しました。本研究では、フレイル高齢者を対象とした調査により、フレイルの人では pDC の活性が低下していることが確認されました。当研究成果は、2025 年 6 月 13 日（金）～6 月 15 日（日）に開催される「日本抗加齢医学会総会」で発表します。

※1 2025 年 3 月 31 日まで当該センター所属

※2 PubMed、医中誌 WEB に掲載された原著論文に基づく（2025 年 5 月 22 日（木）調査実施ナレッジワイヤ調べ）

※3 活動的な生活（健常）と要介護状態の間に位置する状態を指します。この段階では、身体の予備能力が低下しており、些細なきっかけで体力が大きく損なわれ、要介護状態に移行するリスクが高くなると言われています。

NMNの毛髪への影響に関する最新試験結果を発表

三菱商事ライフサイエンス株式会社 - 2025/6/24

https://www.mcls-ltd.com/news/pdf/20250624_01.pdf

三菱商事ライフサイエンス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：清水 幸史）は、2025年6月14日（土）に開催された第25回日本抗加齢医学会総会において、ランチョンセミナーで、NMN（ニコチンアミドモノヌクレオチド）の新たな展開として、当社、クリニック F、早稲田大学の3者が共同で実施したNMNの「毛髪への影響」に関するヒト臨床試験の成果を発表し、多くの方々にご来場いただき----

真皮の老化による慢性炎症が肌表面の凹凸形成に関与 - 第一三共ヘルスケアが解明

マイナビニュース - 2025/6/25

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250625-3362392/>

心理的脅威による恐怖記憶の神経メカニズムを初めて特定 韓国 KAIST

韓国科学技術ニュース（科学技術振興機構） - 2025/6/12

https://spap.jst.go.jp/korea/news/250602/topic_nk_02.html

以下の一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事は、2025年6月12日～6月25日掲載分から選定したものです。

綱引き選手のパフォーマンス向上にカフェインが有効 牽引持久力向上と疲労抑制の可能性

<https://sndj-web.jp/news/003407.php> （2025/6/14）

カフェインが綱引きのパフォーマンスを向上させ得ることを示す研究結果が報告された。台湾で実施された二重盲検クロスオーバー試験で、プラセボに比べて最大牽引力の80%での持久力に有意差が認められたと-----

筋トレ+中鎖脂肪酸で、脳卒中後のリハビリ効果が拡大する

<https://sndj-web.jp/news/003411.php> （2025/6/17）

代謝や筋肉機能に対する潜在的なメリットがあるとされる中鎖脂肪酸（MCT）が、脳卒中後のリハビリテーション効果を押し上げる可能性が報告された。筋力トレーニングに MCT 補給を並行して行うことの相加的効果が認められるという。熊本リハビリテーション病院サルコペニア・低栄養研究センターの吉村芳弘氏らの研究の結果であり、国際誌に論文が掲載され-----

位相角によりサルコペニアだけでなく軽度認知障害（MCI）のリスクをも早期に検出可能

<https://sndj-web.jp/news/003413.php> （2025/6/23）

生体電気インピーダンス法で測定でき、細胞の生理的機能や栄養状態の指標として位置づけられている位相角が、サルコペニアに加え認知機能障害の早期リスクマーカーとなり得る可能性が報告された。国立長寿医療研究センターの浅原哲子氏、同志社大学の石井好二郎氏、健康科学大学の田中将志氏らによる研究の結果であり、「Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle」に論文が掲載され-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

咀嚼シミュレーターに液体添加の新機能を搭載 ヒトの咀嚼の再現性向上、クッキーの“口どけ感”を見える化 - 「おいしさデザイン®」を体現した研究が前進 -

株式会社 J-オイルミルズ - 2025/6/9

https://www.j-oil.com/press/article/250609_007196.html

株式会社 J-オイルミルズ（東京都中央区、社長執行役員 CEO：春山 裕一郎 以下当社）は、大阪大学大学院工学研究科の東森充教授と共同で開発したヒトの咀嚼過程を再現できる咀嚼シミュレーター（模擬装置）に、このたび液体を添加する新機能を搭載しました。これまでヒトの感覚に頼っていた咀嚼中後期における経時的変化が可視化できる装置へと技術的に前進、ヒトの咀嚼の再現性が向上したことにより、クッキーなど咀嚼に唾液を必要とする食品の「口どけ感」の見える化を可能に-----

TOPPAN デジタル、製造 DX ソリューションに衛生管理手法 HACCP 対応に特化した「食品安全管理 DX」を追加

IoT NEWS - 2025/6/20 <https://iotnews.jp/manufacturing/264392/>

“明日のご褒美デザートに” 日立産機が品質可視化ソリューション展示

MONOist - 2025/6/13 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2506/13/news064.html>

日立産機システムは食品製造総合展「FOOMA JAPAN 2025」（2025 年 6 月 10～13 日、東京ビッグサイト）において、温度検知インクを活用した品質可視化ソリューションや新製品の印字検査装置などを展示-----

サントリーが挑むグリーン水素製造 明らかになった製造規模や計画とは

MONOist - 2025/6/12 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2506/12/news039.html>

サントリーホールディングスは 2025 年 6 月 11 日、東京都内とオンラインで記者会見を開き、「サントリーグリーン水素ビジョン」を発表した。

豊富な水資源を活用しグリーン水素製造にチャレンジ

水素は、燃焼時に CO2 を排出しない他、地球上のあらゆる化合物から調達できる。質量当たりの熱量も天然ガスの 2 倍以上と大きい。水素はエネルギーと水さえあれば水素製造システムから生産可能なため地産地消にも応じる。水素のサプライチェーンは化石燃料と比べて短くエネルギー安全保障の観点も有効で、物流網や利用などで生じる CO2 も減らせるため、クリーンエネルギーとして注目されて-----

電気の制御でチョコレートの口どけが変わる？ - 広島大が科学的に解明

マイナビニュース - 2025/6/16

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20250616-3355313/>

■ その他の科学・技術情報

ライオンが社内生成 AI サービスにエージェント機能を実装、ビジネス部門から 100 名の開発者育成へ

IoT NEWS - 2025/6/25 <https://iotnews.jp/ai/264539/>

ライオン株式会社は、2023 年 5 月より内製開発し導入している社内生成 AI サービス「LION AI Chat」をアップデートし、従業員が日常的に行うメール作成、会議議事録の自動要約、コード作成サポートなどに加え、調査を支援する共通業務 AI エージェントを新たに実装し-----

製造業の品質管理に IoT 導入するメリットとは？具体的な仕組みや導入ステップ、実際の事例も解説

IoT NEWS - 2025/6/23 <https://iotnews.jp/manufacturing/264271/>

■ その他

ネット調査の“いいかげん回答”を減らす手法、大阪大学などが報告

ITmedia NEWS - 2025/6/20

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2506/20/news108.html>

インターネット調査にみられる、意味のない「いいかげん回答」を減らすには、行動経済学の知見に基づく「ナッジ」（メッセージ）が有効とする研究結果を大阪大学などの研究チームが発表-----

以上